

世界史の**要点整理**

著 者 **松 本 徹** (まつもと とおる)

Web サイト [世界史の研究](#)

<http://homepage2.nifty.com/murasaki-miyako/>

本書はPDFファイルです。読むにはAdobe Reader(c) 5.0以上が必要。

本書の著作権は著者（松本 徹）に属します。

Copyright(c) All rights reserved Toru Matsumoto

第 I 部

第 1 章 オリентと地中海世界

～ 古代オリент世界 ～

1. メソポタミア

① メソポタミア

- ・ ティグリス川・ユーフラテス川流域
- ・ 60 進法、太陰暦、楔形文字、多神教
- シュメール人（民族不明）
 - 前 3000 年頃 シュメール人の都市国家（メソポタミア南部）：ウル、ウルク等
 - 前 25 世紀 ウル第 1 王朝の繁栄
 - ・ ^{くまびがた}楔形文字の発明→西アジアに定着
 - ・ 印章の使用
- アッカド人（セム系）
 - 前 24 世紀 アッカド王国（メソポタミア中部～南部）のサルゴン 1 世
- アムル人（セム系）
 - 前 18 世紀 **バビロン第 1 王朝**（古バビロニア王国）の**ハンムラビ王**
 - ・ 全メソポタミアを統一（首都バビロン）
 - ・ **ハンムラビ法典**：同害復讐、身分別刑罰

② インド・ヨーロッパ語族の活動

- ・ 西アジア北部を現住地としていたが、前 2000 年頃から大移動
- ヒッタイト人（インド・ヨーロッパ系）
 - 前 17 世紀～ ヒッタイト王国（小アジア）
 - ・ **製鉄技術**の発明、鉄製武器の使用
 - ・ 馬にひかせた戦車の使用→バビロン第 1 王朝を滅ぼす、エジプトと戦争
- カッシート人（民族不明）
 - 前 16 世紀 バビロン第 3 王朝（メソポタミア南部）
- ミタンニ人（インド・ヨーロッパ系）
 - 前 16 世紀 ミタンニ王国（メソポタミア北部～シリア）

2. エジプト

③ エジプト

- ・ エジプト人 (ハム系)
- ・ 「エジプトはナイルのたまもの」 (ヘロドトス) ←ナイル川の増減水
- ・ 王 (**ファラオ**) がノモス (小国家) を統一
- ・ 文字: **神聖文字 (ヒエログリフ)** →碑文・墓室・石棺に記録
 民用文字 (デモティック) →**パピルス**に記録
- ・ 太陽暦、多神教 (太陽神ラーなど)、霊魂不滅の信仰 (ミイラ、「**死者の書**」)

1) **古王国** 前 27 世紀～、第 3～6 王朝、首都 **メンフィス**

- ・ ピラミッドの建設 (クフ王など)

2) **中王国** 前 20 世紀～、第 11、12 王朝、首都 **テーベ**

- ・ **ヒクソス** (民族不明) がアジアより侵入しエジプトを征服

3) **新王国** 前 16 世紀～、第 18～20 王朝、首都 **テーベ**

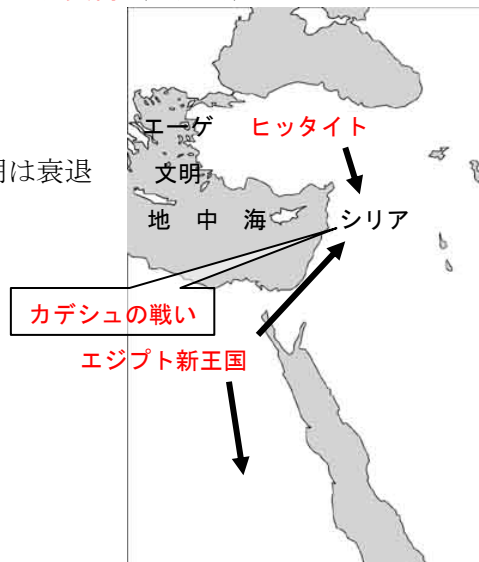
- ・ アモン (テーベの守護神) への信仰が強まる
- ・ ヒクソスを追放しエジプト人の王朝が復活
- ・ アジア (シリア地方) への征服戦争、領土拡大
- ・ ヒッタイトとの戦争 (前 13 世紀 **カデシュの戦い**)

《**アメンホテプ 4 世** (イクナートン)》

- ・ テル・エル・アマルナに遷都→**アマルナ美術** (写實的)
- ・ 唯一神アトンを信仰する宗教改革

4) **衰退期** 前 12 世紀～

- ・ 鉄器時代に入り、古代エジプト文明は衰退



3. 東地中海世界

④ 東地中海世界

前 12 世紀 「海の民」の攻撃→ヒッタイト滅亡、エジプト衰退

○ **フェニキア人** (セム系)

- ・ **シドン**、**ティルス**などの貿易港の都市国家
- ・ 地中海の海上貿易に活躍 (前 10 世紀～)
- ・ 地中海沿岸に植民市を建設 (カルタゴなど)
- ・ フェニキア文字→**アルファベット**の起源

○ **アラム人** (セム系)

- ・ シリア地方 (中心都市**ダマスカス**)
- ・ 東方への陸上貿易に活躍 (前 10 世紀～)
- ・ アラム文字→東方に伝わる

○ **ヘブライ人** (セム系) : イスラエル人、ユダヤ人ともいう

- ・ **パレスチナ**地方 (中心都市**エルサレム**)

前 16 世紀 エジプトに移住

前 13 世紀 「**出エジプト**」(エジプトから脱出しパレスチナへ、指導者**モーセ**)

前 10 世紀前 王国成立 (**ダヴィデ王**、**ソロモン王**時代の繁栄)

前 10 世紀後 王国分裂

〔北〕**イスラエル**王国 ←前 8 世紀 アッシリアが滅ぼす

〔南〕**ユダ**王国 ←前 6 世紀 新バビロニアが滅ぼす (「**バビロン捕囚**」)

《**ユダヤ教**の成立》

- ・ 一神教 (唯一神ヤハウェ)
- ・ 選民思想 (ユダヤ人だけが救われる)
- ・ 救世主 (**メシア**) を待望
- ・ 教典『**旧約聖書**』

ヒエログリフ	楔形文字	フェニキア文字	アラム文字	ギリシア文字	ラテン文字
				α	A

4. オリエントの統一

⑤ オリエントの統一 ←鉄器の普及による軍事力・生産力の高まり

○ アッシリア王国 (セム系) 首都ニネヴェ

前7世紀前 全オリエントを統一、重税と圧政による支配

前612年 崩壊 ← 服属民の反抗

○ 4王国分立 (前7世紀末～前6世紀末)

1) **新バビロニア** (カルデア) 王国 (セム系) : メソポタミア (首都バビロン)

2) **メディア王国** (インド・ヨーロッパ系) : イラン高原

3) **リディア王国** (インド・ヨーロッパ系) : 小アジア、初の貴金属貨幣

4) **エジプト王国** (ハム系) : エジプト

○ **アケメネス朝** (インド・ヨーロッパ系イラン人 [ペルシア人]) 前550-前330年

[初代] キュロス2世 : 領土拡大、首都スサ

[3代] **ダレイオス1世**

- ・ 大帝国を建設 (小アジア・エジプト～インダス川)
- ・ 全国を20州にわけ州知事 (**サトラップ**) を配置
- ・ 監察官 (**「王の目」「王の耳」**) がサトラップの行政を監視
- ・ 国道 (**「王の道」**)、駅伝制
- ・ 新都ペルセポリスの建設
- ・ 服属民の文化・風習を認める 寛容な政策
- ・ ギリシアを攻撃するが失敗 (ペルシア戦争 前500-前449年)

《**ゾロアスター教** (拝火教) : ペルシア人の宗教》

- ・ 善 (光明) 神アフラ・マズダ vs. 悪 (暗黒) 神アーリマン



5. エーゲ文明、暗黒時代

① エーゲ文明（前 3000-前 1200 年）

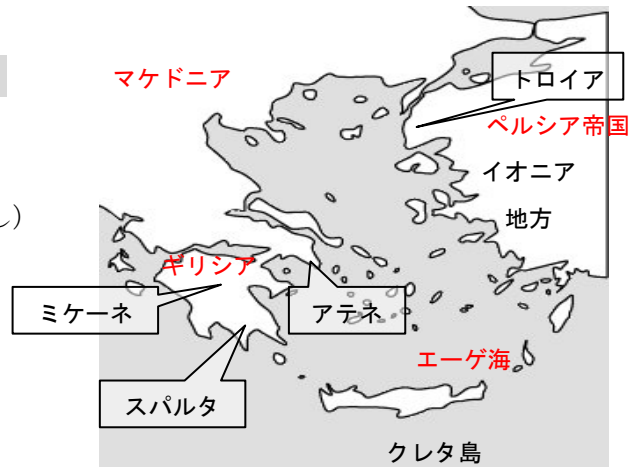
- ・ 青銅器時代
 - ・ エーゲ海周辺（クレタ、トロヤ、ミケーネなどが中心）
 - ・ 貢納王政（王が農民から農産物を貢納として徴収）
- **クレタ文明**（ミノア文明）（クレタ島）前 2000-前 1400 年
- ・ **クノッソス**宮殿（城壁なし）←平和
 - ・ 海洋的な芸術
 - ・ 線文字 A（未解読）
- **トロイア文明**（小アジア）←シュリーマン（独）が発掘
- ・ トロイア戦争：ミケーネ〔勝〕 vs. トロイア〔負〕 →トロイア滅亡
- **ミケーネ文明**（ギリシア）前 16 世紀-前 1200 年
- ・ **ミケーネ**、**ティリンス**、ピュロスなど
 - ・ ギリシア人の文明←線文字 B をヴェントリス（英）が解読
 - ・ **城塞王宮**←戦争

《ギリシア人（インド・ヨーロッパ系）の南下》

- ・ 北方からエーゲ海周辺へ侵入（前 2000 年頃～）
- ・ **イオニア族**・**アイオリス族**・**ドーリア族**の区別←ギリシア語方言の違い

② 暗黒時代（前 1200-前 800 年）

- ・ 鉄器時代へ移行
- ・ 王政の消滅
- ・ 線文字 B の消滅（文字史料なし）



6. 前古典期 (ポリスの成立、貴族政から民主政へ)

③ 前古典期 (前 8-前 6 世紀)

○ ポリスの時代 前 8 世紀～

- ・ 小規模国家ポリスがギリシア各地に多数成立 (アテネ、スパルタなど)
- ・ それぞれ独立国家だが、同じギリシア人としての共通意識をもつ
〔ギリシア語、ギリシア神話、ギリシア人=ヘレネス、異民族=バルバロイ〕

1) アテネ (イオニア族)

- ・ **アクロポリス** (城山) を中心に人々が **集住** (シノイクスモス) して成立
- ・ **アゴラ** (広場) で集会・市場
- ・ 市民 (貴族・平民) / 奴隷
- ・ 市民は田園に持ち分地 (クレーロス) を持つ

2) スパルタ (ドーリア族)

- ・ ドーリア族が先住民を征服して成立
- ・ リュクルゴスの制
- ・ 市民 (貴族・平民) / **ペリオイコイ** (周辺民) / **ヘイロータイ** (奴隷)

○ 平民の成長 → 貴族政から民主政へ (前 6 世紀 アテネ)

- ・ 貴族政 (貴族のみが政治参加) / 民主政 (貴族と平民が政治参加)
- ・ 商工業、海上貿易の発展 → 地中海沿岸に **植民市** を建設
- ・ 富裕な平民の登場、彼らが **重装歩兵部隊** の主力となる

前 7 世紀 ドラコンの法：法律の成文化

前 594 年 **ソロン** の改革

- ・ 財産政治 (財産の高低に応じて政治的権利を与える)
- ・ 身体を抵当とする借金の禁止 → 市民から奴隷への転落を防止

前 561 年 **ペイシストラトス** の **僭主政治** ← 非合法に政権を奪取

- ・ 中小農民を保護

前 508 年 **クレイステネス** の改革

- ・ **地縁** にもとづく 10 部族制を新設 → 民主政の基礎
- ・ **陶片追放** (オストラシズム) → 僭主政治の再来を防止

7. 古典期 (ペルシア戦争、民主政の完成)

④ 古典期 (前5-前4世紀)

○ ペルシア戦争 前5世紀前 (前500-前499年)

- ・ イオニア地方のギリシア人植民市がペルシア支配に反乱したのが始まり
- ・ ギリシアのポリス連合軍〔勝〕 vs. アケメネス朝ペルシア〔負〕

前490年 マラトンの戦い：アテネ重装歩兵軍の勝利 ← 上中層平民の活躍

前480年 サラムスの海戦：アテネ海軍の勝利 ← 下層平民の活躍

(アテネの指導者 **テミストクレス**)

前479年 プラタイアの戦い：アテネ・スパルタ連合軍の勝利

前449年 和約

○ アテネの繁栄 前5世紀後

- ・ **デロス同盟**：アテネが盟主となり周辺ポリスが加盟した軍事同盟
→ アテネが同盟資金を流用し国力を高める
- ・ 将軍 **ペリクレス** 時代：ギリシア古典文化の黄金時代
《古代民主政の完成》
- ・ **民会**〔成年男子市民(貴族・平民)全員が出席〕が最高機関の **直接民主政**
- ・ 女性・在留外国人・奴隷には市民権(参政権)なし
- ・ 役人・**陪審員**は抽選で選出

○ ポリス間の戦争 前5世紀末～前4世紀前

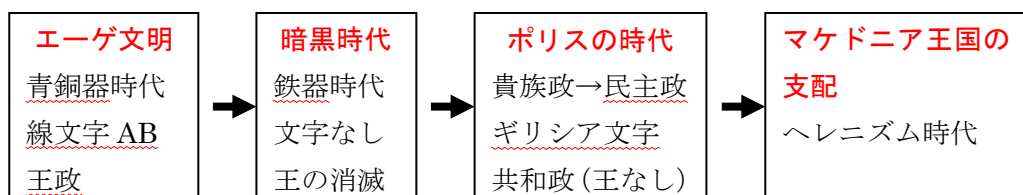
前431-前404年 **ペロポネソス戦争**

- ・ ペロポネソス同盟(スパルタ中心)〔勝〕 vs. デロス同盟(アテネ中心)〔負〕

前371年 レウクトラ戦争

- ・ テーベ〔勝〕 vs. スパルタ〔負〕

※ 古代ギリシア文明の衰退 (民主政治から 衆愚政治へ、市民軍から 傭兵へ)



8. ヘレニズム時代、イラン文明

⑤ ヘレニズム時代（前 334-前 30 年）

- **マケドニア王国**の発展（前 4 世紀後） 本拠地：ギリシア北部
 - [**フィリッポス 2 世**]：ギリシア征服
 - 前 338 年 カイロネイアの戦い：マケドニア〔勝〕 vs. アテネ・テーベ連合軍〔負〕
 - ・ギリシアのポリスをコリントス同盟（ヘラス同盟）に集めて支配
 - [**アレクサンドロス大王**]：東方遠征
 - 前 334 年 マケドニア・ギリシア連合軍を率いて**東方遠征**を開始
 - 前 330 年 アケメネス朝を滅ぼす→ギリシアとオリエントを統合した大帝国
 - 前 323 年 大王没
- 3 つの後継者王国（前 4 世紀末～前 1 世紀末）←3 国ともローマが滅ぼす
 - ・ **アンティゴノス朝**マケドニア王国
 - ・ **セレウコス朝**シリア王国
 - ・ **プトレマイオス朝**エジプト王国（前 30 年滅亡）：首都**アレクサンドリア**
- **ヘレニズム時代**（前 334-前 30 年、東方遠征開始～プトレマイオス朝滅亡）
 - ・オリエントにおけるギリシア風都市の建設、ギリシア文化の広まり

⑥ イラン文明←セレウコス朝の領土縮小後における

- **バクトリア**（前 225-前 139 年）（ギリシア人）：アム川上流
- **パルティア**（^{あんそく}安息、アルサケス朝）（前 248-後 226 年）（イラン人）：イラン高原
- **ササン朝**（226-651 年）（イラン人）：イラン高原、首都クテシフォン
 - ・ **ゾロアスター教**の国教化（教典『**アヴェスター**』の編纂）
 - ・ **マニ教**（ゾロアスター教・仏教・キリスト教の融合宗教）が起こる
- [**シャープール 1 世**]（3 世紀）
 - ・ローマ皇帝ヴァレリアヌスを捕虜にする
- [**ホスロー 1 世**]（6 世紀）：最盛期
 - ・突厥と結んでエフタル（トルコ系）を滅ぼす
 - ・ビザンツ帝国（東ローマ帝国）と戦う

9. ギリシア文化、ヘレニズム文化

⑦ ギリシア文化

- 宗教：**オリンポス 12 神** (多神教、人間的な神々)
- 詩 [叙事詩 (物語)] **ホメロス** 『イリアス』『オデュッセイア』
ヘシオドス 『神統記』『労働と日々』
[叙情詩 (感情)] サッフオー (女性)
- 演劇 [悲劇] **アイスキュロス**、**ソフォクレス**、**エウリピデス**
[喜劇] **アリストファネス** (政治を風刺)
- 歴史：**ヘロドトス** (ペルシア戦争史)
トゥキディデス (ペロポネソス戦争史)
- 建築：**パルテノン神殿**
柱の三様式 [ドーリア式 (荘厳)、イオニア式 (優美)、コリント式 (華麗)]
- 彫刻：**フェイディアス** 『アテナ女神像』
- 哲学 [イオニア自然哲学] **タレース** 「万物の根源は水」
ピタゴラス：ピタゴラスの定理
[ソフィスト] プロタゴラス 「人間は万物の尺度」 (普遍的真理を否定)
[3 哲人] **ソクラテス**：問答法、無知の知、知徳合一
プラトン：イデア論、『国家論』
アリストテレス：諸学問の体系化→イスラーム世界で継承される

⑧ ヘレニズム文化 ← ギリシア文化が東方へ広がる

- 特徴：個人主義、世界市民主義、共通ギリシア語 (コイナー)
- 哲学 [エピクロス派] エピクロス：快樂主義
[ストア派] ゼノン：禁欲主義
- 科学：アレクサンドリア (エジプト) の王立研究所 (ムセイオン)
エウクレイデス (幾何学)
アルキメデス (数学・物理学)
エラトステネス (子午線の測定)

10. 王政ローマ、共和政ローマ(1) (～ポエニ戦争)

① 王政ローマ (前 8 世紀半～前 6 世紀末)

- ・ 都市国家ローマ (イタリア半島中部)
- ・ **ラテン人** (インド・ヨーロッパ系) が建設
- ・ **エトルリア人**の王が支配

② 共和政ローマ (前 6 世紀末～前 1 世紀末)

- ・ エトルリア人の王を追放し共和政 (国王・皇帝など君主のいない政体) に

1) イタリア半島の征服

貴族 (パトリキ) : 政治の実権を握る [**コンスル** (執政官)、**元老院**などを独占]

⇕ 身分闘争

平民 (プレブス) : 重装歩兵として活躍

前 494 年 **平民会** (平民だけの民会)、**護民官** (平民の権限を守る) の設置

前 451 年 **十二表法** : ローマ史上初の成文法

前 367 年 **リキニウス・セクスティウス法** : コンスル 2 名のうち 1 名は平民に

前 287 年 **ホルテンシウス法** : 平民会の議決が国法になる

前 272 年 イタリア半島の征服を完了→**分割統治**による支配

※ しかし、民主政は不徹底 (貴族と上層平民が実権を握る、**独裁官**が存在)

2) 地中海の征服

前 264-前 146 年 **ポエニ戦争** : ローマ [勝] vs. **カルタゴ** [負]

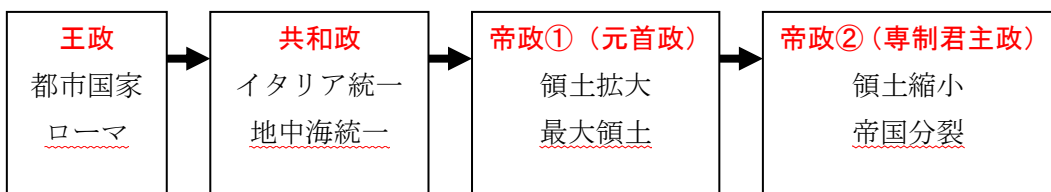
[第 1 次] ローマがシチリアなど**属州** (イタリア半島以外のローマ領) を獲得

[第 2 次] カルタゴ将軍**ハンニバル** vs. ローマ将軍スキピオ

[第 3 次] カルタゴ全滅

※ ローマが地中海貿易を支配

※ 属州が拡大 (ヒスパニア、マケドニア、ギリシア、シリア、小アジアなど)



11. 共和政ローマ(2) (地中海統一、内乱の1世紀)

② 共和政ローマ (つづき)

3) ポエニ戦争後の社会変化

- ・ 元老員議員 (属州の統治)、騎士 (属州の徴税請負) が富裕に
- ・ **ラティフンディア** (ブドウ・オリーブなどの大農園、奴隷労働) の発達
- ・ 中小農民の没落 → 都市に流入し遊民 (無産市民) となる (パンと見世物)
→ 重装歩兵 (国軍) の弱体化
- ・ 奴隷制の発達
- ・ **グラックス兄弟**の改革 (前2世紀末): 中小農民の再建を試みるが失敗

4) 「内乱の1世紀」(前2世紀末～前1世紀末)

前1世紀初 **閥族派** (スラ) ⇔ **平民派** (マリウス)

- ・ 閥族派・平民派とも、有力政治家 (将軍) が私兵を組織して作った派閥

前91-前88年 同盟市戦争: イタリア半島の同盟市が市民権を求めて反乱

前73-71年 剣奴**スパルタクス**の蜂起

前60年 第1回**三頭政治**: **ポンペイウス**、**カエサル**、**クラッスス**

前46年 カエサルの独裁

前44年 ブルートゥスら共和派がカエサルを暗殺

前43年 第2回**三頭政治**: **アントニウス**、**オクタヴィアヌス**、**レピドゥス**

前31年 **アクティウムの海戦**

- ・ オクタヴィアヌス [勝] vs.アントニウス = **クレオパトラ** [負]

(プトレマイオス朝エジプト女王)

前30年 プトレマイオス朝滅亡 (エジプトがローマの属州に)

※ ローマの地中海支配完成、ヘレニズム時代終了



12. キリスト教、ローマ文化

③ キリスト教

1) イエスの布教

- パレスチナ地方
 - ・ ローマの属州、ローマ人総督が重税を課す
 - ・ ユダヤ人（ヘブライ人）がユダヤ教を信仰、救世主を待望
- **イエス**
 - ・ ユダヤ教パリサイ派の律法主義（掟を守ることで救われる）を批判
 - ・ 神の愛、隣人愛を説く
 - ・ 後 30 年頃 総督ピラトがイエスを十字架刑に

2) 原始キリスト教

- **ペテロ**ら 12 使徒
 - ・ イエスは復活した、イエスは救世主（メシア、**キリスト**）である、という信仰を広める（**キリスト教**の成立）
- **パウロ**：異邦人（ユダヤ人以外の民族）にキリスト教を布教（ローマ帝国領で）
- **新約聖書**：イエスの福音がコイネー（共通ギリシア語）で記される
- ローマ政府の迫害：皇帝ネロ（64 年）など→カタコンベ（地下墓地）での礼拝

④ ローマ文化

- **ラテン語**：ヨーロッパ各言語に影響
- 叙事詩：**ヴェルギリウス**『アエネイス』（ローマ建国伝説）
- 散文：カエサル『ガリア戦記』
- 弁論：**キケロ**
- 歴史：**リヴィウス**『ローマ史』、**タキトゥス**『ゲルマニア』
プルタルコス『対比列伝（英雄伝）』、ポリビオス『歴史』
- 地理：ストラボン『地理誌』
- 自然科学：プリニウス『博物誌』、プトレマイオス（天動説）
- ストア派哲学：セネカ、エピクテトス
- キリスト教思想家（教父）：**アウグスティヌス**『神の国』、エウセビオス
- 建築：道路（アッピア街道など）、水道橋、**コロッセウム**（円形闘技場）、凱旋門
- 法律：万民法、『**ローマ法大全**』（6 世紀、皇帝ユスティニアヌス時代の編纂）
- 暦：**ユリウス暦**（カエサルが制定、太陽暦）→現在のグレゴリウス暦

13. 帝政ローマ

⑤ 帝政ローマ（前1世紀末～後5世紀後） ←皇帝の支配する政治体制

1) **元首政（プリンキパトゥス）**：形式的に共和政の制度を保持、事実上の皇帝支配

○ 初代皇帝**アウグストゥス**（尊厳者、オクタヴィアヌス）（位 前27-後14年）

○ **五賢帝時代**（後96-180年）

- ・ 最大領土（皇帝**トラヤヌス**の時代）
- ・ ローマ風都市の建設（ウィーン、パリ、ロンドンなど）
- ・ 季節風貿易が活発（インド・東南アジア・中国）
- ・ 皇帝**マルクス・アウレリウス・アントニヌス**：ストア派哲学者、中国へ使者
- ・ ローマ市民権の拡大 → 212年 皇帝カラカラが全自由民に市民権を付与
- ・ 200年間の「**ローマの平和**」（1～2世紀）〔最盛期〕

○ **軍人皇帝時代**（235-284年）：各属州の軍団が皇帝を擁立

2) **専制君主政（ドミナトゥス）**：皇帝を神として礼拝させる皇帝支配

○ 皇帝**ディオクレティアヌス**（位284-305年）

- ・ 四帝治制（テトラルキア）：正帝2名、副帝2名
- ・ キリスト教弾圧

○ 皇帝**コンスタンティヌス**（位324-337年）

- ・ **コロヌス**（小作人）に土地定着強制→**コロナートゥス**（小作制）

313年 **ミラノ勅令**：^{ちよくれい}キリスト教を公認

325年 **ニケーア公会議**^{こうかいぎ}

- ・ **アタナシウス派**（キリストは神）を正統に→ **三位一体説**
- ・ **アリウス派**（キリストは人間）を異端に

330年 **コンスタンティノーブル**に遷都

○ 皇帝ユリアヌス（位361-363年）：異教の復活をめざす

○ 皇帝**テオドシウス**（位379-395年）

392年 アタナシウス派キリスト教を国教とする（他派禁止）

395年 ローマ帝国を東西分割

→**西ローマ帝国**（476年滅亡）／ 東ローマ帝国（**ビザンツ帝国**）（1453年滅亡）

○ その後の公会議

431年 **エフェソス公会議**：ネストリウス派（景教）を異端とする

第2章 アジアの古代文明

～ 南アジアの古典文明 ～

14. インダス文明、ヴェーダ時代

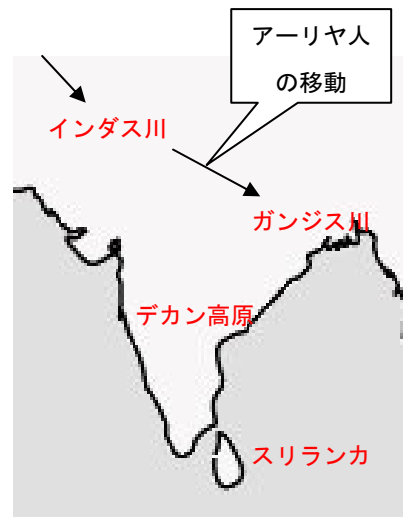
① インダス文明（前2300-前1800年）

- インダス川流域の都市文明
 - ・ **モエンジョ・ダロ**、**ハラッパー**など
 - ・ 沐浴場、穀物倉、印章、彩文土器、牡牛の崇拝
 - ・ インダス文字（未解読）→民族不明

② ヴェーダ時代（前1500-前600年）

- **アーリヤ人**（インド・ヨーロッパ系）の進出
 - 〔第1次〕前1500年 **インダス川**流域（パンジャーブ地方）に移住
 - ・ 中央アジアからカイバル峠を越えてインド亜大陸へ南下
 - ・ 先住民ドラヴィダ人を征服
 - 〔第2次〕前1000年 **ガンジス川**流域に移住
 - ・ 鉄器時代へ移行、農業生産の発展、都市の成立
 - ・ 王（ラージャン）の支配する国家の形成
- **バラモン教**（多神教）の成立
 - ・ 聖典：『**リグ・ヴェーダ**』（自然神への賛歌）など多くのヴェーダ
 - ・ **ヴァルナ**制度（種姓）→近代以降の**カースト**制度へ発展

- 1) **バラモン**（司祭者）
- 2) **クシャトリヤ**（王族、武人）
- 3) **ヴァイシャ**（農民、牧畜民、商人、職人）
- 4) **シュードラ**（隷属民）：おもに被征服民



15. 仏教興起時代、マウリヤ朝の統一、クシャーナ朝

③ 仏教興起時代（前 600-前 300 年）

前 6 世紀 ガンジス川流域に 16 国（**マガダ国**、コーサラ国など）

新興宗教	創始者	特徴	共通点	
ジャイナ教	ヴァルダマーナ	苦行・不殺生 <small>くぎょう ふせつじょう</small>	ヴェーダ祭式・ヴァルナ制の否定	クシャトリヤ・ヴァイシャの支持
仏教	ガウタマ・シッタールタ <small>釈迦、仏陀</small>	無常・八正道 <small>むじょう はつじょうどう</small>		

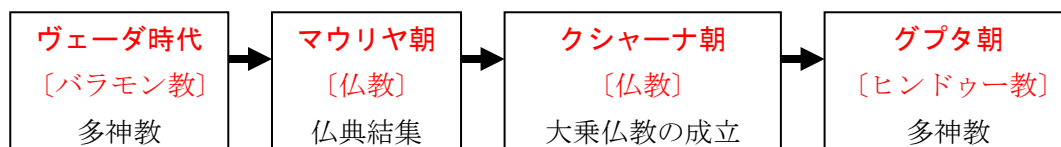
※ **ウパニシャド哲学**：バラモン教の改革運動、祭式よりも思索を重視

④ マウリヤ朝の統一帝国（前 317 頃-前 180 年頃）

- **Chandragupta**：建国、首都パータリプトラ（ガンジス川流域）
- **アショーカ王**（前 3 世紀）：全インド統一
 - ・ **仏教保護**：**仏典結集**（編纂）、布教
 - ・ **ダルマ**（法、社会倫理）の政治：石柱碑・磨崖碑まがいひの建立

⑤ 外民族の侵入時代（前 180-後 320 年）

- **クシャーナ朝**（イラン系）後 1-3 世紀、西北インド、首都プルシャプラ
 - ・ ローマとの陸上貿易
 - ・ **カニシカ王**（2 世紀）：**仏教保護**、サンスクリット文学保護〔最盛期〕
 - ・ **ガンダーラ美術**：**仏像**の製造（ヘレニズムの影響）
- 仏教の発展
 - ・ **大乘仏教**：だいじょう万人の救済をめざす新仏教、ナーガールジュナが理論化→中国
 - ・ **上座部仏教**：じょうざぶ自己の救済をめざす旧仏教→スリランカ、タイ
- **サータヴァーハナ朝**（アーンドラ朝）前 1 世紀-後 3 世紀、中部インド
 - ・ ローマ・東南アジアとの海上貿易
 - ・ **仏教**・**ジャイナ教**が盛ん



16. グプタ朝

⑥ **グプタ朝** (320頃-550年頃) : 北インドを統一、首都パータリプトラ

○ **チャンドラグプタ 2世** (4世紀末-5世紀初) [最盛期]

○ インド古典文化の繁栄

[ヒンドゥー教の発展]

- ・ バラモン教に民間信仰が融合したもの
- ・ 多神教 (シヴァ神、ヴィシュヌ神など)

[マヌ法典] ヴァルナにもとづく宗教的義務を定める

[仏教美術 (グプタ様式)] アジャンター石窟寺院壁画、マトゥラー仏像

[自然科学] 天文学、数学 (十進法・ゼロの観念)、医学

[サンスクリット語 (←公用語) 文学]

- ・ 叙事詩『マハーバーラタ』『ラーマヤナ』
- ・ 宮廷詩人カーリダーサの戯曲『シャクンタラー』

⑦ **グプタ朝以後のインド** : 分裂時代、仏教の衰退 (←バクティ運動)

○ **ヴァルダナ朝** (7世紀) : ハルシャ王が北インドを統一、すぐに衰退

- ・ 中国から玄奘^{げんじょう}が訪れ、ナーランダー僧院で仏教を学ぶ

○ **チョーラ朝** (前3世紀-後13世紀) (ドラヴィダ系) : 南インド

- ・ 中国・東南アジアとの海上貿易

《7世紀の世界》



17. 東南アジア世界の形成

① 東南アジア諸文明の成立 ← 「インド化」(インドの影響を受ける)

○ ベトナム

〔北〕 前4世紀 ドンソン文化(青銅器文化)

前3世紀-後10世紀 中国(唐など)の支配を受ける

11-13世紀 **李朝**(**大越国**)

13世紀 **陳朝**(**大越国**): **字喃**(チュノム)の文字、元の侵攻を撃退

〔南〕 後2-17世紀: **チャンパー**(林邑→環王→占城)

○ カンボジア

1-7世紀 **扶南**: 海上貿易

6世紀 **真臘**(カンボジア、クメール人)

9-15世紀 アンコール朝: **アンコール・ワット**寺院(ヒンドゥー教→仏教)

○ ビルマ(ミャンマー)

1-9世紀 ピュー人の国家

11-13世紀 **パガン朝**(上座部仏教)

○ タイ

6-11世紀 ドヴァーラヴァティ王国(上座部仏教、モン人)

○ インドネシア

〔スマトラ島〕 7-14世紀 **シュリーヴィジャヤ王国**: 大乘仏教

〔ジャワ島〕 8-9世紀 **シャイレンドラ朝**: **ボロブドゥール**遺跡(大乘仏教)

13-16世紀 マジャパヒト王国: ヒンドゥー教

② インド洋貿易ネットワーク

- ・ 「海の道」の結節点にある東南アジア(香辛料を産出)
- ・ インド～東南アジア: インド洋、**ダウ船**
- ・ 東南アジア～中国: 南シナ海、**ジャンク船**

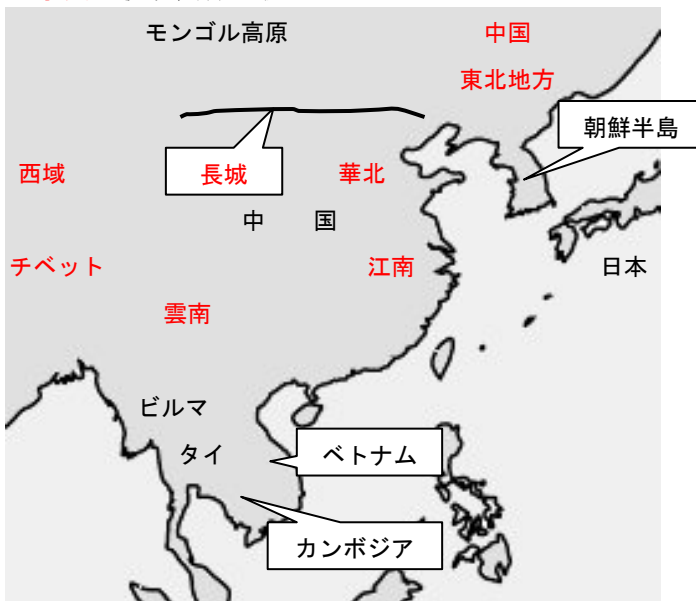
18. 新石器文化、青銅器文化（殷・周）

① 新石器文化（前 5000 頃-前 1500 年頃）

- 黄河文明：黄河流域（華北）の黄土地帯に成立〔雑穀〕
前 5000-前 3000 年 ヤンジャオ文化：彩陶（彩文土器）
前 3000-前 2000 年 ロンシャン文化：黒陶、灰陶
- 長江文明：華中・江南（河姆渡遺跡、良渚文化）〔稻〕

② 青銅器文化（前 1500 頃-前 400 年頃）

- 殷（商） 前 16 世紀頃-前 11 世紀
 - ・ 殷墟（河南省）の発掘で明らかに
 - ・ 各地の城郭都市（邑）の連合国家
 - ・ 神権政治：王が宗教的権威により統治
 - ・ 甲骨文字：占いの記録（獣骨・亀甲に刻む）→漢字の原型
 - ・ 祭祀用の青銅器
- 周（西周） 前 11 世紀-前 8 世紀 首都：鎬京（渭水流域）
 - ・ 殷を滅ぼして成立
 - ・ 封建制度：王が諸侯に、王・諸侯が家臣（卿・大夫・士）に、封土を与える
 - ・ 宗法：親族関係の秩序を定める



19. 春秋・戦国時代

③ 春秋・戦国時代（前8-前3世紀）

○ 戦乱時代

- ・ 西周から東周へ（鎬京から洛邑へ遷都）
- ・ 周王の権威低下→諸侯が争う戦乱時代

1) 春秋時代（前770-前403年）

- ・ 齊の桓公、晋の文公など有力諸侯（**覇者**）が争う

2) 戦国時代（前403-前221年）

- ・ **七雄**（齊、楚、**秦**、燕、韓、魏、趙）が王と称し周王を無視
- ・ 秦が最強国→秦が全中国を統一（前211年）

○ 社会変動 ← 鉄器時代への移行、諸国の富国策

- ・ **鉄製農具**・牛耕→農業生産力の向上→商工業・貨幣経済の発達
- ・ **青銅貨幣**（刀、布、銭など）の使用
- ・ 身分制度から実力本位へ

○ **諸子百家**（多数の学派・思想家）

- ・ **儒家**：**孔子**『論語』孝・悌・仁（家族道徳を重視）
孟子（性善説、易姓革命）、**荀子**（性悪説）
- ・ **墨家**：**墨子**（兼愛）
- ・ **道家**：**老子**、**莊子**（無為自然）→老莊思想
- ・ **法家**：**商鞅**、**韓非**（法の重視）
- ・ **名家**：**公孫竜**（論理学）
- ・ **兵家**：**孫子**（兵法）
- ・ **縦横家**：**蘇秦**、**張儀**（外交策）
- ・ **陰陽家**：**鄒衍**（陰陽の理論）

○ 文献、文学作品

- ・ 儒家の経典『詩経』『春秋』
- ・ **屈原**『楚辞』

20. 秦、前漢

④ 秦 (前 221-前 206 年) 首都：咸陽

- 秦の統一
 - ・ 戦国七雄のうち秦が商鞅の改革で実力を伸ばす
 - ・ 秦王の政が他の6国を征服して全中国を統一 (前 221 年)
- 始皇帝 (秦王の政が王から皇帝へと称号を変える) の統一政策
 - ・ 郡県制：全国を 36 郡に分け中央から官吏を派遣
 - ・ 法家を採用 (李斯の中央集権化)、儒家を弾圧 (焚書坑儒)
 - ・ 貨幣・文字・度量衡の統一
 - ・ 長城の修築→匈奴 (北方遊牧民) の侵入を防ぐ
 - ・ 華南を征服 (南海など 3 郡を置く)
- 始皇帝の死後
 - ・ 陳勝・呉広の乱 (農民反乱) をきっかけに滅亡 (前 206 年)
 - ・ 項羽 (楚の名門) [負] vs. 劉邦 (農民出身) [勝] の政権争い

⑤ 前漢 (前 202-後 8 年) 首都：長安

- 高祖 (劉邦) (位 前 202-前 195 年)
 - ・ 郡国制：封建制 (諸侯に封土を与える) と郡県制の併用前 154 年 呉楚七国の乱 (諸侯の反乱) →その鎮圧後、皇帝権力強まる
- 武帝 (位 前 141-前 87 年)
 - ・ 郡県制
 - ・ 儒家を採用
 - ・ 張騫を西域へ派遣 (大月氏まで到達)
 - ・ 塩・鉄・酒の専売
 - ・ 均輸 (物資を不足地に転売)、平準 (物価高騰時に物資販売)
 - ・ 領土拡大：西域 (敦煌など 4 郡) ←大宛 (フェルガナ) へ遠征
朝鮮北部 (楽浪など 4 郡) ←衛氏朝鮮を滅ぼす
ベトナム北部 (日南など 9 郡) ←南越を滅ぼす

21. 後漢、漢代の文化

⑥ 新 (後 8-23 年)

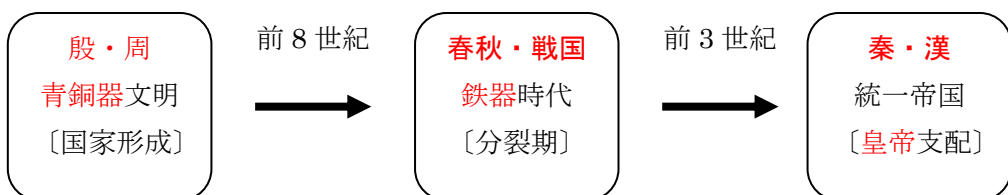
- ・ 前漢末、外戚 (皇后の親族) と宦官 (去勢された男子) の争い
→ 外戚の **王莽** が **新** を建国 (周の制度の復活をめざす)
- 18-27 年 赤眉の乱 (農民反乱)

⑦ 後漢 (25-220 年) 首都: 洛陽

- **光武帝 (劉秀)** (位 前 141-前 87 年)
 - ・ 西域を支配 (**班超** を西域都護に)
 - ・ 対外交流が盛ん
 - **大秦王安敦** (ローマ皇帝マルクス・アウレリウス・アントニヌス) の使者
 - 甘英をローマへ (未到達)
 - 倭人 (日本人) の使者が「漢委奴国王」の金印を受ける
- 後漢の末
 - ・ **党錮の禁**: 宦官が官僚・学者を弾圧
- 184 年 **黄巾の乱**: 宗教結社の太平道 (張角が指導) が起こした反乱

⑧ 漢代の文化

- **郷挙里選**: 地方長官の推薦により官僚を任用する制度
→ 豪族 (大土地所有者) が官僚となる
- 儒学が国教に ← **董仲舒** の提案
 - ・ **訓古学** (鄭玄ら): 儒学の経典 (**五経** など) の注釈が中心
- 歴史: **司馬遷** 『史記』、**班固** 『漢書』 ← どちらも **紀伝体** (人物の伝記)
- **紙** の普及: 蔡倫が製紙法を改良
- 隸書体に書体を統一: 最古の辞書『説文解字』



第3章 東アジア世界の展開

～ 北方民族と中国の分裂 ～

22. 魏晋南北朝時代

① **魏晋南北朝**時代 (220-589年) <分裂期>

1) **三国時代** (220-280年)

- ・ **魏** (華北) : **曹丕** (文帝) (曹操の子) [最強]
- ・ **蜀** (四川) : **劉備**
- ・ **呉** (江南) : **孫権**

263年 魏が蜀を滅ぼす → 魏 vs. 呉

265年 魏の將軍 **司馬炎** (武帝) が晋を建国 → 晋 vs. 呉

280年 晋が呉を滅ぼし中国統一

2) **晋 (西晋)** (265-316年) の統一 首都: 洛陽

290-306年 八王の乱: 帝位をめぐる争い

316年 匈奴が晋を滅ぼす (永嘉の乱)

3) **五胡十六国と東晋** (4~5世紀)

[華北] **五胡十六国** (304-439年)

- ・ 5つの遊牧諸民族 (**匈奴**、**鮮卑**、**羯**、**氐**、**羌**) が侵入し 16国を建国

[江南] **東晋** (317-420年) 首都: 建康 (現.南京)

- ・ 晋の一族の**司馬睿**が建国 (**漢民族**)

4) **南北朝時代** (5~6世紀)

[華北] **北朝** (439-581年)

- ・ 北魏、東魏、西魏、北齊、北周の5王朝 (**遊牧諸民族**)

- ・ **北魏**: 鮮卑族 (拓跋氏)

→ 太武帝: 華北を統一 (439年)

→ **孝文帝** (位 471-499年): **均田制**、**三長制**、洛陽へ遷都、漢化政策

[江南] **南朝** (420-589年) 首都: 建康

- ・ **宋** → **齊** → **梁** → **陳** の4王朝 (**漢民族**)

- ・ **六朝**: 江南を支配した漢民族の6王朝 (呉、東晋、宋、齊、梁、陳)

23. 魏晉南北朝の社会と文化

② 魏晉南北朝の社会と文化：江南で貴族文化が発展

○ 貴族制社会

- ・ **九品中正法** きゅうひんちゅうせいほう [魏～]：地方の中正官が人材を9等級に分けて推薦する官僚任用法
→豪族（大土地所有者）が上級官僚職を独占し**貴族**となる
- ・ 国が農民へ土地を付与し大土地所有の制限を試みる（効果薄）
（屯田制 [魏]、占田・課田法 [西晋]、**均田制** [北魏の孝文帝]）

○ 六朝文化：江南、漢民族、貴族文化

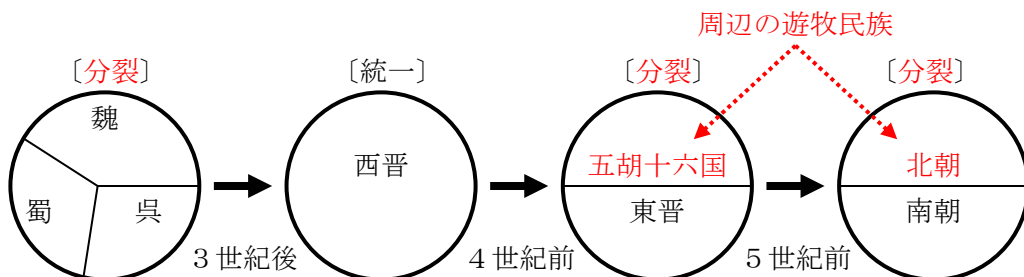
- ・ **清談**が流行（竹林の七賢など）
（詩）[東晋] **陶潜**（陶淵明）『桃花源記』、謝靈運
[梁] 昭明太子『**文選**』：四六駢儷体
（絵）**顧愷之**
（書）**王羲之**

○ 道教：道家の思想に民間信仰・神仙思想の加わった宗教

- ・ **寇謙之**が道教教団を組織→北魏の太武帝の保護で発展

○ 仏教：**仏図澄**、**鳩摩羅什**（西域から中国へ）が仏典翻訳

- 法顕** [東晋]（中国からインドへ）『仏国記』
敦煌、**雲崗**、**竜門**などの石窟・石仏



24. 隋、唐(1) (高祖～則天武后)

① **隋** (581-618年) 首都：大興城 (後の長安)

- **文帝** (楊堅)：南北統一 (589年)、均田制、租庸調制、府兵制、科挙
- **煬帝**：大運河 (華北と江南を結ぶ) の建設、高句麗への遠征

② **唐** (618-907年) 首都：長安

1) 前半 (7世紀)

- 高祖 (李淵)：隋を倒す (618年)
- 太宗 (李世民)：貞觀の治→中国統一完成
- 高宗：最大領土

《 唐の制度 》

(官制) 律・令・格・式の法典整備→律令国家

三省 (中書・門下・尚書)、**六部** (吏・戸・礼・兵・刑・工)、**御史台**

科挙：儒学の試験による官僚任用

州県制による地方統治

(周辺) 羈縻政策：征服した周辺民族への間接統治 (6つの**都護府**を設置)

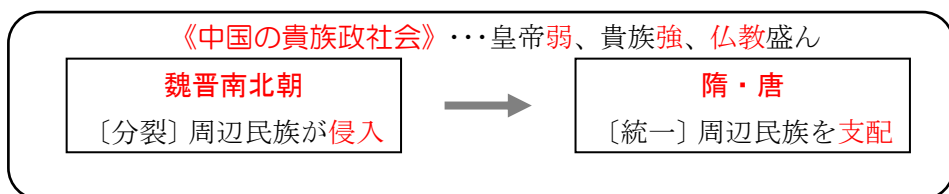
(農民) 1) **均田制**：国が人民 (均田農民) に土地 (口分田・永業田) を支給
〔口分田は1代限り、永業田は世襲可〕

2) **租** (穀物)、**調** (絹布)、**庸** (中央での労役)、雜徭 (地方での労役) を均田農民が負担

3) **府兵制**：均田農民から徴兵

※ 均田制による自作農が原則、実際には大土地所有者の**莊園**が存在

- 則天武后 (高宗の皇后)：皇帝となり政情不安に



25. 唐(2) (玄宗～)、唐代の文化

② 唐 (つづき)

2) 後半 (8-9 世紀)

- **玄宗** (位 712-756 年) : 開元かいげんの治 (政治安定、8 世紀前)
 - ・ 晩年は楊貴妃ようきひを寵愛ちようあいし政治が乱れる
- 755-763 年 **安史の乱** : 節度使せつととしの安禄山あんろくさん、部下しの史思明ししめいの反乱
→ウイグルの支援を受けて唐が鎮圧
- 制度の変化
 - ・ 均田制の崩壊→**莊園** (地主の所有地) の発達
 - ・ 租庸調の崩壊→**兩税法** (780 年に実施、楊炎ようえんの意見、現実の所有地に課税、夏秋 2 回徴税)
 - ・ 府兵制の崩壊→**募兵制** (傭兵ようへいを用いる)
 - ・ 都護府の後退→**節度使** (地方の実権を握って**藩鎮**はんちんとなり自立化)
- 唐末
 - 875-884 年 **黄巢の乱** : 塩の密売人の黄巢が起こした民衆反乱

③ 唐代の文化 国際的、貴族文化

- 宗教・思想
 - ・ 仏教 : **玄奘** (陸路インドへ) 『大唐西域記』 → 経典を持ち帰り翻訳
 - 義浄** (海路インドへ) 『南海寄帰内法伝』 → 経典を持ち帰り翻訳
禅宗、浄土宗などが興る
 - ・ 外来宗教 : 景教 (ネストリウス派キリスト教)、祆教 (ゾロアスター教)、
マニ教、イスラーム
 - ・ 儒学 : **孔穎達** 『五経正義』 (経典の解釈)
- 陶芸 : 唐三彩
- 詩 : 王維、**李白**、**杜甫**、**白居易** (白楽天)
- 文 : **韓愈**、**柳宗元** [古文復興運動]
- 絵 : 閻立本 [人物画]、**呉道玄** [山水画]
- 書 : 褚遂良、**顔真卿**

26. 中国の隣接諸国(1) (~13世紀)

④ 中国の隣接諸国 (~13世紀)

○ 朝鮮

- 3世紀 小国分立：高句麗（北）、馬韓・弁韓・辰韓（半島南部）
- 4-7世紀 三国時代：高句麗（北）、新羅（東）、百濟（西）、加羅（南）
- ・ 高句麗vs. 倭（日本）・百濟の戦争←広開土王（好太王）の碑文
- 7-10世紀 新羅 ← 新羅・唐の連合軍が高句麗と百濟を滅ぼす
- ・ 白村江の戦い（663年）：新羅・唐〔勝〕 vs. 百濟・日本〔負〕
 - ・ 骨品制：氏族的身分制度
 - ・ 仏教文化：首都慶州の仏国寺
- 10-14世紀 高麗：首都開城、建国者王建
- ・ 高麗青磁、金属活字
 - ・ 仏教文化：高麗版『大蔵経』

○ 中国東北地方

- 7-10世紀 渤海：大祚榮が建国、唐・日本との交流

○ 日本（倭）

- 1世紀 後漢の光武帝から「漢委奴国王」の金印を受ける
- 3世紀 邪馬台国：卑弥呼が魏に使節を送る（「親魏倭王」の称号を受ける）
- 4世紀 大和政権が統一
- 7-9世紀 遣隋使・遣唐使を派遣、天平文化（8世紀 唐の影響大）
- 10世紀 遣唐使の廃止、国風文化、武士の台頭

○ チベット

- 7世紀 吐蕃：ソンツェン・ガンポが統一、チベット仏教（ラマ教）が成立

○ 雲南

- ?-10世紀 南詔
- 10-13世紀 大理

※ 唐と周辺諸国との関係：朝貢貿易を通じた冊封関係

27. 五代十国、宋

⑤ **五代十国** (907-960年) : 唐と宋の間の分裂期

- 907年 節度使の**朱全忠**が唐を滅ぼす
 →朱全忠は汴州(開封)を首都に後梁を建国
 [華北] 後梁→後唐→後晋→後漢→後周の5王朝(五代)
 [その他] 10の軍閥政権(十国)
 ※ 貴族の没落、新興地主の成長

⑥ **宋** (北宋 960-1127年) 首都: **開封**

[初代] 太祖(趙匡胤): 宋を建国

[2代] 太宗: 中国を統一

- 君主独裁体制の成立
 - ・ 皇帝が行政、財政、軍事のすべてにおいて最終決裁権を持つ
 - ・ **文治主義**: 軍人ではなく文人官僚により政治を行う
 - ・ **科挙**の整備: **殿試**(皇帝が試験官となる最終試験)の創設

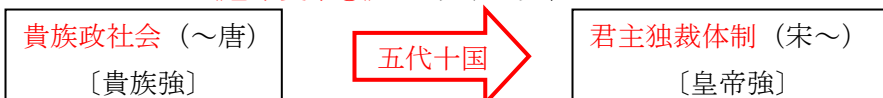
[6代] 神宗: 王安石を宰相に起用し改革をはかる

- **王安石**の**新法**(11世紀後)→大地主・大商人の反発
 - ・ 青苗法、市易法、均輸法、募役法、保甲法、保馬法
 - ・ 小農民・小商人の保護、財政再建、富国強兵をめざす
 - ・ **新法党**(王安石) ⇔ **旧法党**(司馬光)の対立

《新興地主(**形勢戸**)の成長》

- ・ 莊園を経営し**佃戸**(小作人)から小作料を取る
- ・ 科挙に合格して**官戸**(官僚の家)となる
- ・ 儒学(科挙の試験科目)の教養を持つ**士大夫**(知識人)ともいわれる

《**唐宋変革①**》…政治の変化



28. 北方諸勢力の活動

⑦ 北方諸勢力の活動

- **遼** (モンゴル系**契丹**族) [半農半牧] 10-12 世紀、本拠地：モンゴル高原
 - ・ 建国者：**耶律阿保機** (太祖)
 - ・ **燕雲十六州** (華北の農耕地帯の一部) を支配
 - ・ **契丹文字**：ウイグル文字と漢字の影響
 - ・ **二重統治体制**：遊牧民には**部族制** (北面官)、農耕民には**州県制** (南面官)1004 年 **澶淵の盟**：宋が遼に銀・絹・茶を贈るかわりに、遼は宋を攻撃しない

- **西夏** (大夏) (チベット系タングート族) 11-13 世紀、本拠地：陝西・甘肅地方
 - ・ 建国者：李元昊
 - ・ 東西貿易で繁栄
 - ・ **西夏文字**
 - ・ 仏教さかえる

- **金** (ツングース系**女真**族) [半獵半農] 12-13 世紀、本拠地：中国東北地方
 - ・ 建国者：**完顔阿骨打**
 - 1125 年 遼を滅ぼす [→契丹族の**耶律大石**が**西遼** (カラキタイ) を建国]
 - 1126-27 年 **靖康の変**：金が宋を攻撃し開封を占領、徽宗・欽宗らを捕虜に
→金が華北の農耕地帯を支配 (淮河以北)
 - ・ **二重統治体制**：女真族には**猛安・謀克**、漢人には州県制
 - ・ **女真文字**
 - ・ **全真教** (開祖：王重陽、儒・仏・道を調和) を保護

⑧ **南宋** (1127-1279 年) 首都：臨安 (杭州)、江南を支配

- ・ 金にやぶれた宋の皇帝の弟高宗が帝位につき建国
- ・ 和親派 (**秦檜**) [勝] ⇔ 主戦派 (**岳飛**) [負]
- 1142 年 金と和議を結ぶ (淮河が境界、宋が金に銀・絹を贈る)

29. 宋代の社会と文化

⑨ 宋代の社会と文化 経済発展、中国的・庶民的文化

○ 経済

- ・ 新興地主（形勢戸、官戸、士大夫、荘園の所有者）
- ・ **江南**が米作地帯として発展（**困田**の造成、**早稲**の**占城稲**、**二毛作**・**二期作**）
- ・ 茶、絹、陶磁器（**景德鎮**が生産地）、漆器
- ・ 貨幣経済（銅銭、金銀、**交子**・**会子**などの紙幣）
- ・ 海上貿易都市：広州、泉州、明州→**市舶司**（貿易管理機関）の設置
- ・ 巨大商業都市：**開封**（北宋の首都）、**臨安**（南宋の首都）
- ・ **行**（商人組合）、**作**（手工業者組合）
- ・ **草市**・**鎮**とよばれる小市場

○ 儒学

- 1) **朱子学**（**宋学**）：**周敦頤**、**朱熹**（朱子）→儒学の正統理論
 - ・ 万物の理（本質）をさぐる哲学的思想
 - ・ 大義名分論：華夷、君臣、父子の区別を重視
 - ・ **四書**（大学、中庸、論語、孟子）を重視
- 2) 陽明学の祖：**陸九淵**
 - ・ 心（主体）を重視

○ 歴史：**司馬光**『**資治通鑑**』 ← 編年体

○ 文学：**歐陽脩**、**蘇軾**（蘇東坡）らの名作家

詞（歌唱）（音曲に合わせて歌われ庶民に流行）

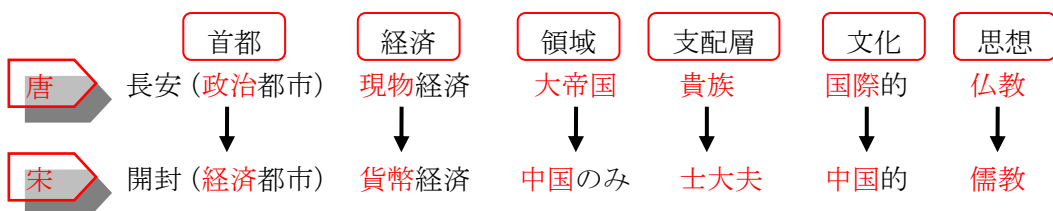
○ 絵画：**院体画**（宮廷画家が製作、写実的な彩色画）

文人画（士大夫が製作、水墨・淡彩画）

○ 陶磁器：**白磁**、**青磁**

○ 新技術：**木版印刷**、**羅針盤**（磁針）、**火薬**

《唐宋変革②》・・・経済、社会、文化の変化



第4章 内陸アジア世界

～ 遊牧民の生活と国家 ～

30. オアシス都市と遊牧国家

① オアシス都市と遊牧国家

1) 内陸アジアの地形

- 〔北部〕 草原地帯（南ロシア草原～カザフ草原～モンゴル高原）：遊牧生活
- 〔中部〕 砂漠地帯（タクラマカン砂漠～ゴビ砂漠）：オアシス都市、東西貿易
- 〔南部〕 山岳地帯（ヒンドゥークシュ山脈、ヒマラヤ山脈、チベット高原）

2) オアシス都市（砂漠地帯）

- ・ 絹の道（シルクロード）が通る（隊商貿易の中継地）
- ・ 砂漠の中の耕作地帯（河川・地下水による）、定住生活
- ・ ソグディアナ：サマルカンドなど（ソグド商人の拠点）
- ・ タリム盆地：敦煌、クチャ、ホータン、カシュガルなど

3) 遊牧国家（草原地帯）

- 騎馬遊牧民：羊などの家畜が財産、草地を求めて移動生活、騎馬による戦闘
- 遊牧国家の成立

前7世紀 スキタイ：南ロシア草原、初の遊牧国家

前3世紀～ 月氏、烏孫、匈奴

- モンゴル高原の遊牧国家 ⇔ 中国の王朝

前3世紀～ 匈奴（冒頓単于のもと強力に）⇔ 秦、前漢

2世紀～ 鮮卑 → 華北に侵入し北魏を建国（4-6世紀）

4世紀 柔然（チベットの吐谷渾と同盟）⇔ 北魏

6世紀 突厥（トルコ系、東西に分裂）⇔ 隋、唐

8世紀 ウイグル（トルコ系）→ 9世紀には西進しタリム盆地に移動

9世紀 キルギス（トルコ系）

4) トルクスタン：オアシス都市のトルコ化

9世紀 ウイグルの西進→トルコ化が進む

10世紀～ イスラームが広まる

31. モンゴル帝国

① モンゴル帝国 (1206-71年) (モンゴル族、遊牧民) 13世紀

[初代] **チンギス・ハン** (テムジン)

1206年 クリルタイ (モンゴル族の集会) でハン (君主) に選出され、モンゴル帝国を建国

- ・ 千戸制：1000戸単位に編成された騎馬軍団
- ・ ナイマン、**ホラズム**、西夏を滅ぼす→絹の道 (シルクロード) を確保

[2代] **オゴタイ**

1234年 金を滅ぼし華北を支配→中国 征服に乗り出す

- ・ 首都**カラコルム**を建設
- ・ **バトウ**の遠征→ロシア、東ヨーロッパ

1241年 **ワールシュタット (リーグニッツ) の戦い**

[4代] モンケ

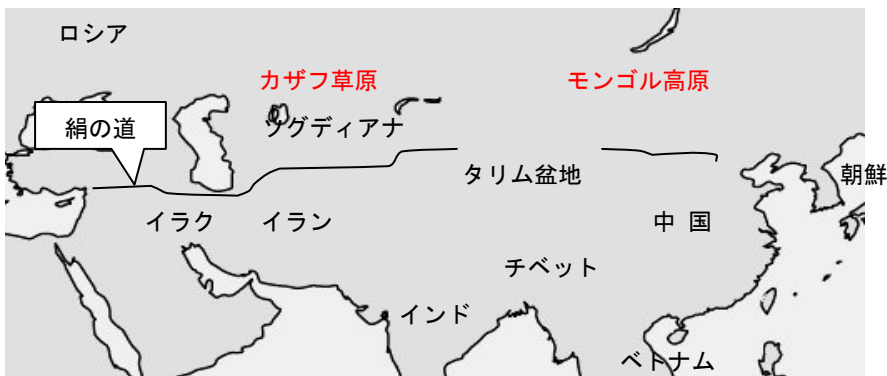
- ・ **フラグ**の遠征→西アジア

1258年 バグダード占領、アッバース朝滅亡

[5代] **フビライ**

- ・ ハイドゥの乱：フビライ [勝] vs.ハイドゥ [負] ←ハン位をめぐる争い
- ・ 4ハン国が独立、大帝国が5つに分裂

4ハン国と元	建国者	支配地
チャガタイ・ハン国	チャガタイ	中央アジア
オゴタイ・ハン国	オゴタイ	モンゴル高原西北部
キプチャク・ハン国	バトウ	ロシア
イル・ハン国	フラグ	イラン、イラク
元	フビライ	モンゴル高原東部、中国



32. 元

② **元** (1271-1368年) 首都：**大都** (現.北京)、**フビライ**が建国

○ 領土の拡大

- ・ モンゴル高原東部・全中国を支配 (←1279年 南宋を滅ぼし江南を支配)
- ・ チベット・朝鮮半島 (高麗) を属国に
- ・ 日本 (鎌倉時代の元寇)・ベトナム (陳朝)・ジャワなどへ遠征→失敗

○ モンゴル人第1主義

1) **モンゴル人**：支配階級

2) **色目人** (中央アジア出身)：財務官僚として重用

3) **漢人** (金の支配下にあった漢人・契丹人・女真人)

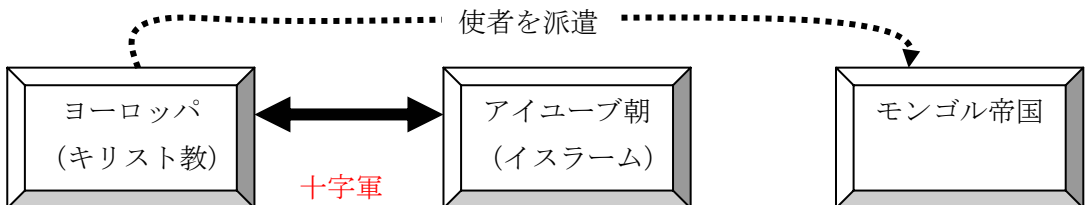
4) **南人** (南宋の支配下にあった漢人)：科挙軽視、儒者 (士大夫) 冷遇

○ 交通・貿易の発達

- ・ **駅伝制** (ジャムチ) →ムスリム商人の隊商貿易が活発化
- ・ **交鈔** という紙幣の発行
- ・ 海上交通の発達：**杭州**・**泉州**・**広州**などの海港都市、大運河
- ・ 来訪者：**プラノ・カルピニ** (ローマ教皇の使者)：十字軍対策
ルブルック (フランス王ルイ9世の使者)
モンテ・コルヴィノ (ローマ教皇の使者)：カトリック布教
マルコ・ポーロ (イタリア商人)：『世界の記述 (東方見聞録)』
イブン・バットウータ (ムスリム旅行家)：『旅行記 (三大陸周遊記)』
- ・ **授時暦** (郭守敬が作成、日本の貞亨暦に影響) ←イスラーム天文学を採用

○ 文化：庶民文化が発達

- ・ **元曲** (戯曲)『西廂記』『漢宮秋』
- ・ **パスパ文字**：チベット仏教 (ラマ教) 僧パスパが作成、モンゴル語を表記



第5章 イスラーム世界

～ イスラーム世界の成立 ～

33. ムハンマド時代、正統カリフ時代

① ムハンマド時代 (610-632年)

○ イスラームの特徴

- ・ アラビア半島紅海沿岸のメッカ (中継貿易で繁栄) で成立
→アラビア半島はアラブ人 (アラビア語) が住む
- ・ 預言者 (神の言葉を預かる者) ムハンマドが創始
- ・ 一神教、唯一神 (アッラー) への絶対服従 (帰依)
- ・ 偶像崇拝を厳格に禁止
- ・ 啓典 (神の言葉をまとめた書) 『コーラン』
→旧約・新約聖書も啓典、ユダヤ教徒・キリスト教徒も「啓典の民」

○ ムハンマド (メッカ生まれ、クライシュ族の商人)

610年 メッカで布教を開始→迫害を受ける

622年 ヒジュラ (聖遷) : メッカからメディナへと移住

- ・ ムスリム (=イスラーム教徒) 共同体 (ウンマ、ムハンマドを最高権力者とする宗教国家) を建設
- ・ 622年がイスラーム暦元年

630年 ムスリム共同体がメッカ占領 (カーバを聖殿に) →アラビア半島統一

632年 ムハンマド没

② 正統カリフ時代 (632-661年) 首都メディナ

- ・ カリフ : ムハンマドの後継者としてムスリム共同体を支配する者

[初代カリフ] アブー・バクル

[2代カリフ] ウマル : 領土拡大 (シリア、エジプト、イラク、イラン)

- ・ アラブ人の大征服 (ジハード) →征服地に軍事都市 (ミスル) を建設
- ・ ササン朝を滅ぼす (642年 ニハーヴァンドの戦い、651年 滅亡)
- ・ ビザンツ帝国からシリア、エジプトを奪う

[3代カリフ] ウスマーン

[4代カリフ] アリー : シリア総督ムアーウィアと内戦、暗殺される

34. ウマイヤ朝、アッバース朝

- ③ **ウマイヤ朝** (661-750年) 首都ダマスカス (シリア地方)、スンナ派
〔初代カリフ〕 **ムアーウィア** → 以後、ムアーウィアの子孫がカリフを世襲
- 宗派分裂：**シーア派** (少数) アリーの子孫を正統とする
スンナ派 (多数) ムハンマドの言行 (スンナ) を規範にする
 - 領土拡大：ソグディアナ、インダス川流域、北アフリカ、イベリア半島をも支配
732年 トゥール・ポワティエの戦い：フランク王国に敗れる

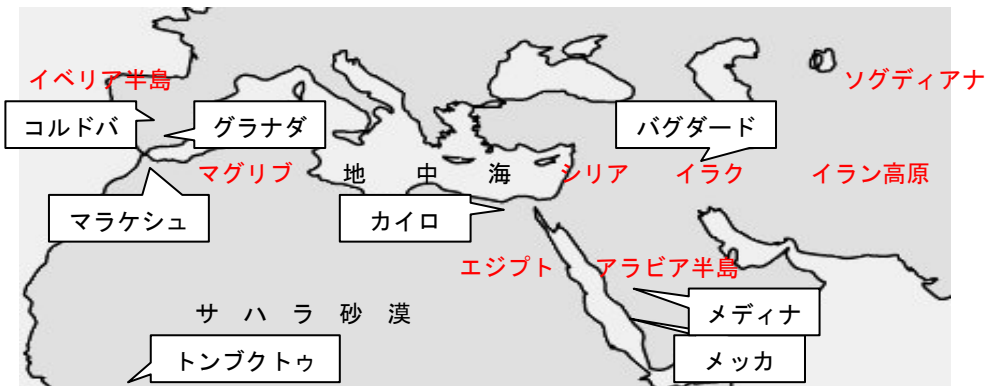
※ アラブ帝国：アラブ人が特権をもち他民族に優越

- 1) アラブ人ムスリム：免税
- 2) 非アラブ人ムスリム (マワーリー)：**ハラージュ** (地租) + **ジズヤ** (人頭税)
- 3) 非アラブ人非ムスリム：ハラージュ (地租) +ジズヤ (人頭税)
→マワーリーの不満、ウマイヤ朝への反乱 (アッバース革命)

- ④ **アッバース朝** (750-1258年) 首都**バグダード** (イラク地方)、スンナ派
〔初代カリフ〕 アブー・アルアッバース
751年 タラス河の戦い：アッバース朝 vs.唐→製紙法が中国より伝わる
〔2代カリフ〕 マンスール：円形都市バグダードの建設
〔5代カリフ〕 **ハールーン・アッラシード** 〔最盛期〕 (8世紀後)

※ イスラーム帝国：民族差なくムスリムの平等が実現

- 1) アラブ人ムスリム：ハラージュ (地租)
- 2) 非アラブ人ムスリム (マワーリー)：ハラージュ (地租)
- 3) 非アラブ人非ムスリム：ハラージュ (地租) +ジズヤ (人頭税)
→**イスラーム法** (シャリーア) にもとづく政治



35. イスラーム世界の分裂と発展

① イスラーム世界の分裂と発展

[9世紀] アッバース朝が弱体化→イラクのみを支配

- ・ 多くの地方政権が成立：トゥールーン朝（エジプト）など
- ・ **マムルーク**（トルコ人奴隷軍人）の利用が広まる

[10世紀] シーア派国家が繁栄

- **ブワイフ朝**（932-1062年）：シーア派、支配者は大アミール
946年 バグダードを占領しイラクを支配（アッバース朝のカリフは存在）
 - ・ **イクター制**（軍人に土地の徴税権を与える制度）の開始
- **ファーティマ朝**（909-1171年）：シーア派、支配者はカリフ
969年 エジプトを征服、首都**カイロ**を建設

[11世紀] トルコ人のイスラーム化

- **セルジューク朝**（1038-1194年）：スンナ派、トルコ人、支配者は**スルタン**
1055年 ブワイフ朝を倒しバグダードを占領
（初代スルタン）トゥグリル・ベク
 - ・ スンナ派の学術を奨励→**マドラサ**（学院）建設（ニザーミーヤ学院など）

[12世紀] ヨーロッパの十字軍と戦う

- **アイユーブ朝**（1169-1250年）：スンナ派、首都カイロ
 - ・ クルド人の**サラーフ・アッディーン**（サラディン）が建国1171年 ファーティマ朝を倒しエジプトを支配
1187年 十字軍をやぶってイェルサレムを奪還

[13世紀] モンゴル人の侵攻

- **マムルーク朝**（1250-1517年）：トルコ人奴隷軍人が建国、首都カイロの繁栄
1250年 アイユーブ朝を倒しエジプト・シリアを支配
〔5代スルタン〕バイバルス：メッカ、メディナを保護下に
- **イル・ハン国**（1258-1353年）：モンゴル人、支配者はハン、**フラグ**が建国
1258年 バグダードを占領、アッバース朝を滅ぼす
〔5代ハン〕**ガザン・ハン**：イスラームを国教に

36. 西方イスラーム世界

② イベリア半島のイスラーム国家

- **後ウマイヤ朝** (756-1031年) 首都**コルドバ**、支配者はカリフ
756年 アッバース朝に滅ぼされたウマイヤ朝の一族が建国
- キリスト教勢力による**国土回復運動 (レコンキスタ)** の強まり (12世紀～)
 - ・ キリスト教国家が北方より領土拡大
 - ・ イスラーム国家 (ムラービト朝、ムワッヒド朝) はキリスト教勢力に敗退
- **ナスル朝** (1232-1492年) 首都**グラナダ**、**アルハンブラ宮殿**
1492年 スペイン (キリスト教国家) に滅ぼされる
→キリスト教国家による国土回復運動が完結 (イスラーム国家の消滅)

③ アフリカのイスラーム国家

[マグリブ (北西アフリカ)] ←**ベルベル人**国家、イベリア半島にも進出

- **ムラービト朝** (1056-1147年) 首都マラケシュ
1076年 ガーナ王国を滅ぼす→西アフリカのイスラーム化
- **ムワッヒド朝** (1130-1269年) 首都マラケシュ

[西アフリカ] ←黒人国家、北アフリカとの交易

- **マリ王国** (1240-1473年)
- **ソンガイ王国** (1473-1591年)
 - ・ 交易都市**トンブクトゥ**でイスラームの学問が発達



37. 東方へのイスラーム拡大

④ 東方へのイスラーム拡大

[トルキスタン (中央アジア)]

- **サーマーン朝** (875-999年、イラン系) : 西トルキスタンを支配
- **カラ・ハン朝** (10-12世紀、トルコ系) : 東西トルキスタンを支配
→トルキスタンのイスラーム化が進展

[アフガニスタン]

- **ガズナ朝** (962-1186年、トルコ系)
- **ゴール朝** (1148頃-1215年、イラン系)
→北インドに進入、インドのイスラーム化が始まる

[北インド]

- **デリー・スルタン朝** (1206-1526年) : デリーを首都としたイスラーム5王朝
 - ・ **奴隷王朝** (将軍アイバクが建国) →ハルジー朝→トゥグルク朝→サイイド朝→ロディー朝
 - ・ ヒンドゥー教勢力 (ラージプート) をやぶって北インドを支配
- ※ 南インドではヒンドゥー教国家ヴィジャヤナガルが16世紀初に最盛期
- **ムガル帝国** (1526-1858年) : イスラームの強国として発展

[インドネシア、マレー半島]

- マラッカ王国 (14世紀末-1511年) : マレー半島
- マタラム王国 (16世紀末-1755年) : ジャワ島
- アチェ王国 (15世紀末-20世紀初) : スマトラ島
→東西貿易で繁栄、ムスリム商人の交易ルートによってイスラーム化が進展



38. イスラームの社会と文化

⑤ イスラームの社会と文化

[特徴]

- 都市文明
 - ・ 商人、職人、知識人（ウラマー）、神秘主義者（スーフィー）が担い手
 - ・ **モスク**（礼拝所）、マドラサ（学院）、スーク（市場）が存在
- 融合文明
 - ・ イスラームの普遍性（教義・アラビア語）＋各地域・各民族の伝統文化

[学問]

- 『コーラン』の研究により発達した学問
 - ・ 神学、法学、歴史学
 - ・ 歴史：**イブン・ハルドゥーン**『世界史序説』
- ギリシア、インドなどから学び発達させた学問
 - ・ 数学：アラビア数字、十進法、ゼロの観念、代数学（フワーリズミーら）
 - ・ 化学：^{れんきんじゆつ}錬金術
 - ・ 医学・哲学：**イブン・シーナー**（アヴィケンナ）『^{いがくてんぽん}医学典範』
イブン・ルシュド（アヴェロエス）**アリストテレス研究**
- 地理：**イブン・バットゥータ**『旅行記（三大陸周遊記）』
- 研究機関：知恵の館〔^{やかた}アッバース朝（バグダード）〕
アズハル学院〔ファーティマ朝（カイロ）〕
ニザーミーヤ学院〔セルジューク朝〕
- **イスラーム神秘主義（スーフイズム）**
 - ・ 修行により神との一体化を求める
 - ・ 教団（タリーカ）の形成
 - ・ 神学者ガザリー：スーフイズムとスンナ派思想を融合

[文学] 『**千夜一夜物語**（アラビアン・ナイト）』

オマル・ハイヤーム『四行詩集（ルバイヤート）』 ←著者は天文学者

[美術] **ミニアチュール**（細密画）、**アラベスク**（^{きかがくもんよう}幾何学紋様）

第6章 ヨーロッパ中世世界

～ ヨーロッパ中世世界の成立 ～

39. ゲルマン民族の移動

① ゲルマン民族の移動

- 古ゲルマン人の社会（民族移動前のゲルマン人の社会）～4世紀
 - ・ ライン川以東、ドナウ川以北（ローマ帝国領外）に定住
 - ・ **民会**（成年男性自由人の参加）により政治決定
 - ・ 貴族、平民、奴隷の身分差
 - ゲルマン民族の移動と部族国家の建設 4-6世紀
- 4世紀後 フン人（アジア系、匈奴？）の西進
- 375年 西ゴート人が移動を開始→ドナウ川を越えてローマ帝国領内に移住
- 476年 **オドアケル**が西ローマ帝国を滅ぼす

部族名	部族国家の建国地	備考
西ゴート人	イベリア半島	<u>民族移動開始（375年）</u>
ヴァンダル人	北アフリカ	
ブルグント人	ガリア東南部	ガリアは現フランス
アングロ・サクソン人	ブリタニア島	アングロ・サクソン7王国
フランク人	ガリア北部	最強
東ゴート人	イタリア	テオドリック大王
ランゴバルド人	北イタリア	<u>民族移動終了（568年）</u>

- その他の民族
 - [**フン人**（アジア系）]
 - ・ **アッティラ王**のもとでパannonia（現ハンガリー）に建国
 - ・ カタラウヌムの戦い（451年）でローマに敗北→王国崩壊
 - [**ケルト人**（ヨーロッパの先住民）]
 - ・ ゲルマン人に圧迫され、アイルランド、スコットランド、ウェールズ、ブルターニュ半島に追われる

40. フランク王国の発展、ローマ・カトリック教会

② フランク王国の発展

○ **メロヴィング朝** 5世紀半-751年

[**クローヴィス王**]

481年 フランク王国を建設

→**アタナシウス派**キリスト教に改宗 (他のゲルマン人は異端アリウス派を信仰)

[クローヴィス王以後]

8世紀前 メロヴィング王家の衰退、^{きやうさい}宮宰カロリング家の成長

732年 **トゥール・ポワティエ間の戦い**：フランク王国 vs. ウマイヤ朝

→フランク王国宮宰**カール・マルテル**がウマイヤ朝 (イスラーム国家) を撃退

○ **カロリング朝** 751-987年

[**ピピン3世** (小ピピン)]

751年 メロヴィング朝を倒して王位につきカロリング朝を建てる

756年 ランゴバルト王国を討ち、ラヴェンナ地方をローマ教皇に寄進

[**カール大帝** (シャルルマーニュ)]

・ 西ヨーロッパを支配する**大帝国の建設**←ザクセン人、アヴァール人を征服

・ ^{はく}伯 (州長官)、^{じゆんきつし}巡察使 (伯を監督)

・ **カロリング・ルネサンス**：神学者アルクインらによるラテン文化復興

800年 ローマ教皇**レオ3世**から**ローマ皇帝**の冠を受ける (**カールの戴冠**)

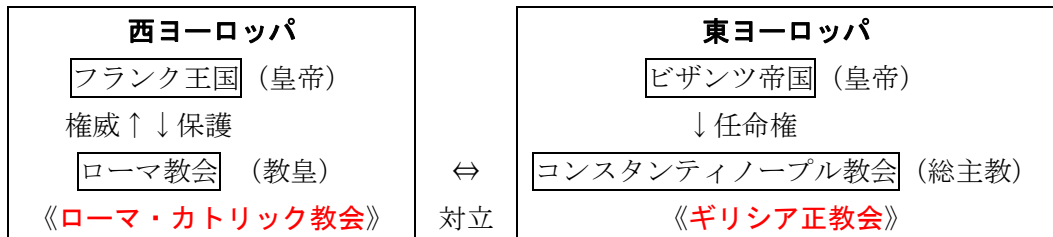
③ ローマ・カトリック教会とギリシア正教会

・ 五本山のうちローマ教会とコンスタンティノーブル教会が有力に

6世紀 ローマ教会 (教皇グレゴリウス1世) がゲルマン人に布教

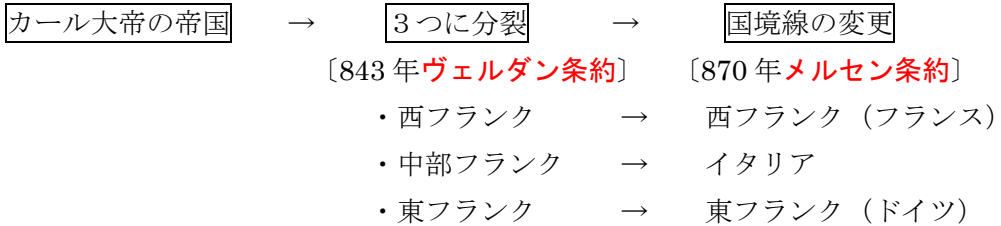
726年 ビザンツ皇帝**レオン3世**の**聖像禁止令**

→ローマ教会はこれに反発、ビザンツ皇帝に対抗するためフランク国王に接近



41. フランク王国の分裂、封建社会

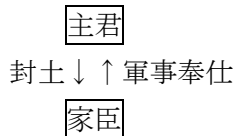
④ フランク王国の分裂



- フランス：カペー朝 (987-1328年)、初代国王**ユーグ・カペー**、王権弱
- イタリア：教皇領や都市など各地方勢力に分裂
- ドイツ：ザクセン朝、国王**オットー1世**
 - ・ **マジヤール人** (アジア系、ハンガリー王国を建国) を撃退し王権強化
 - 962年 ローマ教皇からローマ皇帝の冠を受ける
 - **神聖ローマ帝国** (962-1806年) の成立 (神聖ローマ皇帝 = ドイツ国王)
 - ・ イタリア政策を推進しドイツと北イタリアを支配

⑤ 封建社会 ← 封建的主従関係 + 荘園制

- **封建的主従関係**：主君が家臣に封土を付与、家臣は主君に軍事奉仕
双務契約、ローマの**恩貸地制** + ゲルマンの**従士制**



- **荘園制**：領主直営地・農奴保有地・共同利用地よりなる領主所有地
現物経済
領主は**不輸不入権**をもつ

領主・・・国王・諸侯・騎士・聖職者
↑ **賦役** (労働) ・ **貢納** (生産物)

農奴・・・不自由な農民

42. ノルマン人の侵入、スラヴ人と東ヨーロッパ

⑥ ノルマン人（ヴァイキング）の侵入

- ・ 北ヨーロッパ（デンマーク、スウェーデン、ノルウェー）に定住
- ・ 9世紀頃から船で南下、各地に国を建てる
- 北フランス：**ノルマンディー公国**（10世紀初）、指導者ロロが建国
- 南イタリア・シチリア島：**両シチリア王国**（12世紀前）
- ブリタニア島
 - 5世紀半 アングロ・サクソン7王国（ヘプターキー）
 - 9世紀前 エグバート王が7王国を統一（イングランド王国）
 - 9世紀末 **アルフレッド大王**がデン人（デンマーク系ノルマン）の侵入撃退
 - 1016年 デンマーク王**クヌート**がブリタニア島を征服
 - その後、アングロ・サクソン人の王国復活
 - 1066年 ヘースティングズの戦い（ノルマン・コンクエスト）
 - ・ **ノルマンディー公ウィリアム**がブリタニア島を征服
 - ノルマン朝**（1066-1154年）を建国（初代国王ウィリアム1世）
- ロシア：**ノヴゴロド国**（9世紀）、**キエフ公国**（9-13世紀）
 - ・ スウェーデン系ノルマン（ルーシ）が建国、指導者リューリク

⑦ スラヴ人と東ヨーロッパ ローマ・カトリック、ギリシア正教

- 西スラヴ人
 - ・ **ポーランド人**：**ヤゲウォ朝**リトアニア・ポーランド王国（14-16世紀）
 - ・ **チェック人**：ベーメン（ボヘミア）王国（10世紀成立）
 - 神聖ローマ帝国領に（11世紀～）
- 南スラヴ人：クロアチア人、スロヴェニア人、**セルビア人**
 - オスマン帝国領に（14世紀～）
- 東スラヴ人：ロシア人、ウクライナ人
 - ・ キエフ公国：**ウラディミル1世**がギリシア正教に改宗（10世紀末）
- 非スラヴ人（アジア系）
 - ・ **ブルガール人**：ブルガリア王国（第1次 7世紀／第2次 12世紀）
 - ・ **マジャール人**：ハンガリー王国（10世紀末）
 - オスマン帝国領に（ブルガリア 14世紀～、ハンガリー 16世紀～）

43. ビザンツ帝国

⑧ ビザンツ帝国（東ローマ帝国）（395-1453年）

- ・ 商業と貨幣経済が発達、首都コンスタンティノープルは貿易都市
- ・ 皇帝教皇主義：皇帝がギリシア正教会を直接支配
- ・ ギリシア語
- ・ ビザンツ様式の教会建築：モザイク壁画、大ドーム、イコン美術

[6世紀] 皇帝ユスティニアヌス

- ・ 地中海沿岸を支配する大帝国
- ・ 『ローマ法大全』の編纂、ハギア（セント）・ソフィア聖堂、絹織物の振興

[7世紀] 領土縮小←イスラーム勢力、ブルガール人の侵入

- ・ バルカン半島・小アジアのみ支配

[8世紀] 皇帝レオン3世

726年 聖像禁止令→ローマ教会の反発

[9-10世紀] 皇帝権力は強力

- ・ 軍管区制（テマ制）→小土地所有の自由農民
 - 1) 全国をいくつかの軍管区に分ける
 - 2) 軍管区長に行政権を与える
 - 3) 軍管区長が農民に土地を与え、農民が軍役を負う（屯田制）

[11世紀末～] 皇帝権力が衰退

- ・ プロノイア制→貴族の大土地所有
 - 1) 皇帝が有力貴族に土地の管理権を与える
 - 2) 有力貴族が軍役を負う

[15世紀] オスマン帝国に滅ぼされる（1453年）

44. 教皇と皇帝の抗争（叙任権闘争）

① 修道院

- 〔6世紀〕モンテ・カシノ修道院：**ベネディクトゥス**が開設、「祈り、働け」
- 〔10世紀〕**クリュニー修道院**：聖職売買などを批判→教会改革運動
- 〔12世紀〕シトー派修道会：^{だいかいこん}大開墾に活躍
- 〔13世紀〕**フランチェスコ会**、**ドミニコ会**：^{たくはつしゅうどうかい}托鉢修道会（民衆への教化）

② ローマ・カトリック教会の権威

○ 階層制組織

- ・ 聖職者の序列：教皇→大司教→司教→司祭
- ・ 大司教や修道院長などは荘園領主
- ・ 教会は農民から**十分の一税**をとる

○ ^{じょにんけんとうそう}叙任権闘争

- ・ 聖職者の叙任（任命）権をめぐる教皇と皇帝の争い
- ・ ドイツでは神聖ローマ皇帝が聖職者叙任を行う（帝国教会政策）
- ・ ローマ教皇**グレゴリウス7世** vs. 神聖ローマ皇帝**ハインリヒ4世**

1075年 教皇グレゴリウス7世が俗人（皇帝など）による聖職者叙任を禁止
皇帝ハインリヒ4世はそれを無視して聖職者叙任を続行

1076年 教皇グレゴリウス7世が皇帝ハインリヒ4世を破門

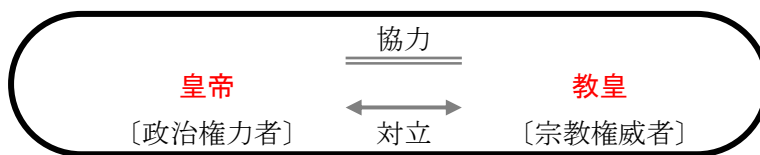
1077年 **カノッサの屈辱**：皇帝ハインリヒ4世が教皇グレゴリウス7世に謝罪

1122年 ヴォルムス協約：教皇と皇帝の妥協

○ 教皇権威の高揚

13世紀初 教皇インノケンティウス3世：教皇権力の絶頂期
→ジョン王（イギリス）を破門

《西ヨーロッパ中世世界》・・・^{だえん}楕円の構造（皇帝と教皇が2つの中心）



45. 十字軍

③ 十字軍 (1096-1270 年)

○ 背景

11-12 世紀 **三圃制**の普及・**大開墾**→農業生産の増大→ヨーロッパの拡大

○ 遠征の決定

- ・ **セルジューク朝** (イスラーム) : イェルサレムを支配、ビザンツ帝国を圧迫
- ・ ビザンツ帝国 : ローマ教皇に援助を依頼
- ・ ローマ教皇 : ヨーロッパの国王・諸侯・騎士に十字軍を呼びかけ
- ・ ヨーロッパの国王・諸侯・騎士 : 十字軍に参加しイスラーム世界を攻撃

1095 年 **クレルモン宗教会議** : 教皇**ウルバヌス 2 世**が十字軍遠征を決定

○ 経過

[第 1 回] イェルサレムを占領し**イェルサレム王国**を建国 (1099 年)

[第 2 回] 失敗

[第 3 回] 神聖ローマ皇帝、フランス国王、イギリス国王が参加
アイユーブ朝 (指導者サラーフ・アッディーン) に敗北

[第 4 回] ヴェネツィア商人が十字軍をあやつる
コンスタンティノープルを占領し**ラテン帝国**を建国 (1204 年)

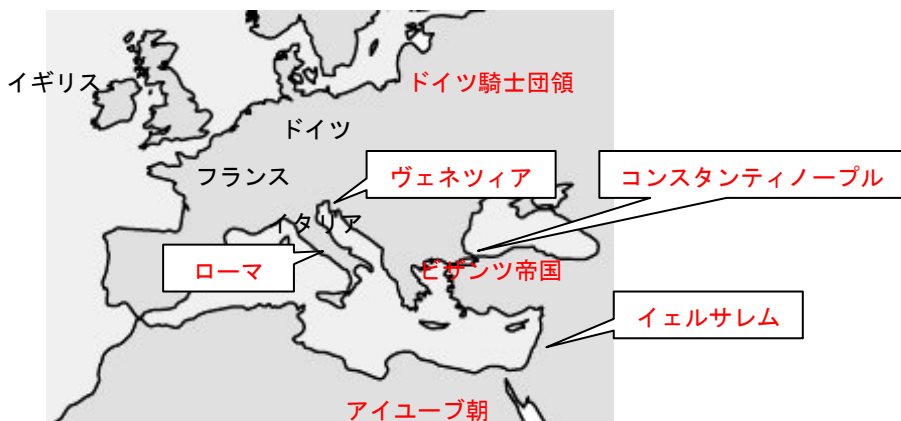
[第 5,6,7 回] 失敗

[その他] ドイツ騎士団 : バルト海沿岸に領土を開いた**宗教騎士団** (13 世紀)

○ 結果

[衰退] 教皇、諸侯・騎士

[成長] 国王 (イギリスやフランス)、商業都市 (北イタリアなど)



46. 商業の復活、中世都市

④ 商業の復活（商業ルネサンス）

11-12 世紀 農業生産の増大→**遠隔地貿易**・**貨幣経済**・都市の発展

〔北イタリア〕地中海商業圏

（海港都市）ヴェネツィア、ジェノヴァ、ピサ：**香辛料**・**絹織物**を輸入

（内陸都市）フィレンツェ、ミラノ：毛織物工業、金融業

→**ロンバルディア同盟**を結成

〔北ドイツ〕北ヨーロッパ商業圏（北海、バルト海）

・ リューベック、ハンブルク、ブレーメン：**海産物**・**木材**・**穀物**

→**ハンザ同盟**を結成

〔フランドル地方〕

・ ガン、ブリュージュ：**毛織物工業**（イングランドから羊毛を輸入）

〔シャンパーニュ地方〕**定期市**

⑤ 中世都市

○ 自治の獲得←皇帝・国王から特許状を得る

〔北イタリア〕自治都市（コムーネ）：周辺農村を支配し都市国家を形成

〔ドイツ〕自由都市（帝国都市）：諸侯から独立し皇帝に直属

○ ギルド

・ **商人ギルド**：大商人の組合、市政を運営

・ **同職ギルド**（ツunft）：手工業者の組合、親方のみが組合員に

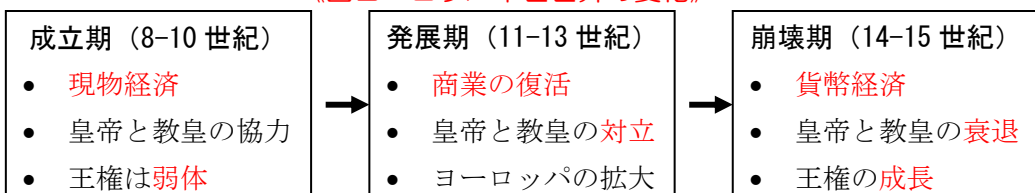
・ **ツunft闘争**：同職ギルドが商人ギルドと争いながら市政に参加

○ 富豪の支配

・ **メディチ家**：フィレンツェ（北イタリア）

・ **フッガー家**：アウグスブルク（南ドイツ）

《西ヨーロッパ中世世界の変化》



47. 封建社会の衰退

① 荘園制の崩壊→荘園領主（諸侯・騎士・聖職者）の没落

○ 荘園の変化

〔8-13世紀〕 賦役（労働地代）：領主直営地で農奴が労働

〔14世紀-〕 賦役の廃止、領主直営地を農民に貸出（貨幣地代）

○ 農民の富裕化

- ・ 市場における余剰生産物の販売→貨幣の貯蓄
- ・ **黒死病**（ペスト）の流行→農業人口の減少→農民の待遇向上
- ・ 農奴身分から解放→**独立自営農民**（イギリスのヨーマンなど）

○ 封建的反動（領主が農民支配を再強化）→農民反乱

1358年 **ジャックリーの乱**（フランス）

1381年 **ワットタイラーの乱**（イギリス）

② 教皇の権威衰退

1303年 アナーニ事件

- ・ フランス国王**フィリップ4世**が教皇**ボニファティウス8世**を襲撃

1309-77年 **教皇のバビロン捕囚**

- ・ フランス国王フィリップ4世が教皇庁をローマから**アヴィニョン**（南フランス）へ移転→フランス国王が教皇を支配

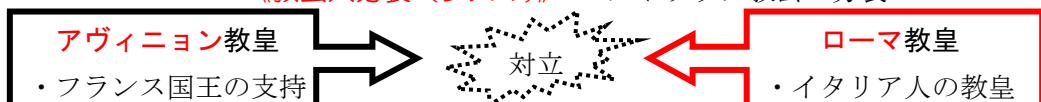
1378-1417年 **教会大分裂**（シスマ）

- ・ アヴィニョン教皇とローマ教皇とがたがいに正統性を主張し対立

1414-18年 **コンスタンツ公会議**

- ・ ローマ教皇を正統とする→シスマ終了
- ・ **ウィクリフ**（イギリスの聖書主義者）を異端とする
- ・ **フス**（ベーメンの教会改革者）を異端として火刑に
→**フス戦争**（1419-36年）：フス派のチェコ人〔負〕 vs. 神聖ローマ皇帝〔勝〕

《教会大分裂（シスマ）》…カトリック教会の分裂



48. イギリス・フランスの王権強化

③ イギリスとフランスの身分制議会 ← 貴族・聖職者・都市民の代表議会

[イギリス] プランタジネット朝 (1154-1399年)

- ・ ヘンリ2世：フランス西部をも領有
- ・ ジョン王：フランスにおけるイギリス領の大半を喪失
大憲章 (マグナ・カルタ 1215年) → 新たな課税に貴族の承認要
- ・ ヘンリ3世：シモン・ド・モンフォール議会 (1265年)
- ・ エドワード1世：模範議会 (1295年)

[フランス] カペー朝 (987-1328年)

- ・ フィリップ2世：王領地拡大 (←イギリスのジョン王より土地を奪う)
- ・ ルイ9世：異端アルビジョワ派 (カタリ派) を平定→南フランスを支配
- ・ フィリップ4世：三部会 (1302年、聖職者・貴族・平民の代表)

④ 百年戦争とバラ戦争

- 百年戦争 (1339-1453年)：イギリス [負] vs. フランス [勝]

[契機] フランスがフランドル地方 (毛織物工業) を支配しようとする

フランスでヴァロワ朝 (1328-1589年) が成立

イギリスのエドワード3世がフランス王位継承を主張して開戦

[経過] イギリス軍のエドワード黒太子がフランスに侵攻

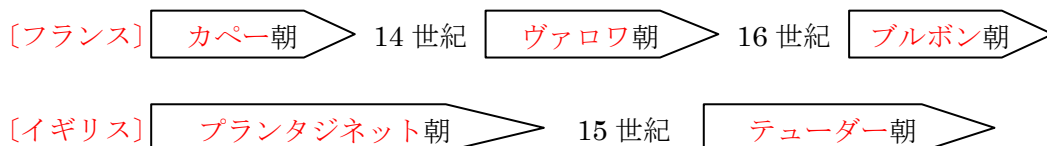
フランス国王シャルル7世の時、農民の娘ジャンヌ・ダルクが活躍

[結果] フランスが勝利

- バラ戦争 (1455-85年)：イギリス国内の王位継承戦争

- ・ ランカスター家 vs. ヨーク家
- ・ テューダー朝 (1485-1603年) の成立
- ・ ヘンリ7世：皇室庁裁判所 (王権への反対者を処罰)

※ イギリス・フランスともに、諸侯・騎士が没落、王権が強化 (中央集権化)



49. ドイツ・イタリアの分裂、イベリア半島、北欧

⑤ ドイツの分裂 ←神聖ローマ皇帝の権力衰退

1256-73年 **大空位時代**：皇帝不在の約20年

1356年 **金印勅書**：皇帝**カール4世**が発布

- ・ 7人の諸侯（**7選帝侯**）に皇帝選出権を与える

→神聖ローマ帝国（ドイツ）は約300の領邦（諸侯の領地）に分裂

⑥ イタリアの分裂

〔北〕 ヴェネツィア共和国、フィレンツェ共和国、ジェノヴァ共和国など
各都市共和国内で**教皇党**（ゲルフ）と**皇帝党**（ギベリン）とが抗争

〔中〕 教皇領

〔南〕 両シチリア王国 → ナポリ王国とシチリア王国に分離（13世紀）

⑦ イベリア半島

8世紀 イスラーム国家の支配

11世紀 キリスト教勢力による**国土回復運動**（レコンキスタ）

12世紀 キリスト教のアラゴン、カスティリヤ、ポルトガル3王国が領土拡大

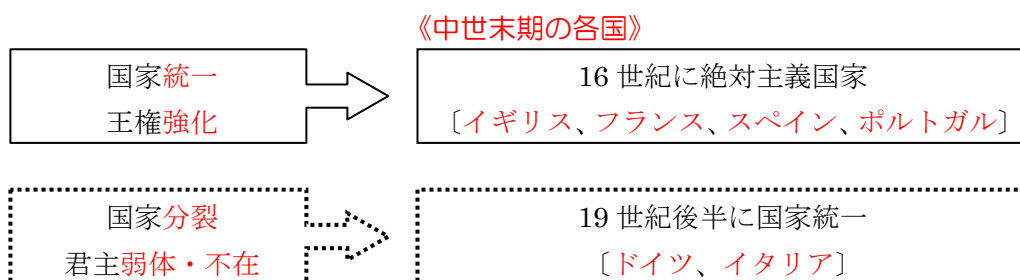
1479年 アラゴン王子**フェルナンド**とカスティリヤ女王**イサベル**の結婚
→**スペイン王国**の成立

1492年 スペイン王国がグラナダ（ナスル朝首都）を占領（レコンキスタ完了）

⑧ デンマーク、スウェーデン、ノルウェー

8-11世紀 デンマーク、スウェーデン、ノルウェーの3王国が成立

14-16世紀 **カルマル同盟**：デンマーク女王マルグレーテ主導で3国が同君連合
→スウェーデンの独立により崩壊



50. 西ヨーロッパの中世文化

⑨ 西ヨーロッパの中世文化 ← 神中心、キリスト教中心

[学問] **ラテン語**による研究、**神学**が最高の学問

- 11 世紀 普遍論争：アンセルムス（実在論）⇔アベラール（唯名論）
- 12 世紀 **12世紀ルネサンス**：ギリシア語古典（特にアリストテレス）の翻訳
- 13 世紀 **トマス・アクィナス**『神学大全』：**スコラ学**の完成
ロジャー・ベーコン（実験重視の科学）
- 14 世紀 **ウィリアム・オブ・オッカム**：唯名論が優勢に

[大学] 教会の付属学校から発生、神学・哲学・法学・医学の4学部

- ・ イタリア：**ボローニャ大学**（法学）、サレルノ大学（医学）
- ・ フランス：**パリ大学**（神学）
- ・ イギリス：オックスフォード大学（神学）、ケンブリッジ大学（法学）

[教会建築]

- 11 世紀 **ロマネスク様式**：重厚な石壁、ドーム式アーチ（ピサ大聖堂）
- 12 世紀 **ゴシック様式**：尖塔アーチ、**ステンドグラス**（ノートルダム大聖堂）

[騎士道物語] ← **吟遊詩人**がうたう

- ・ 『ローランの歌』（フランス）
- ・ 『ニーベルンゲンの歌』（ドイツ）
- ・ 『アーサー王物語』（イギリス）

《3つのルネサンス》

カロリング・ルネサンス

8世紀末～9世紀初、**フランク王国カール大帝**時代のラテン文化復興、ラテン小文字の成立

12世紀ルネサンス

12世紀、イスラーム世界（アラビア語）やビザンツ帝国（ギリシア語）の文献の**ラテン語翻訳**

アリストテレス文献の翻訳（ギリシア語 → アラビア語 → ラテン語）

イタリア・ルネサンス

14-16世紀、イタリアで始まった**ヒューマニズム**にもとづくギリシア・ローマ文化の「再生」

第7章 諸地域世界の交流

51. 草原の道、オアシスの道、海の道

① 東西ネットワーク

- **草原の道** (南ロシア草原 ~ カザフ草原 ~ モンゴル高原)
 - ・ 騎馬遊牧民の活動
 - ・ モンゴル帝国による交易拡大 (13世紀)
- **オアシスの道** (ソグディアナ ~ タリム盆地)
 - ・ 砂漠地帯のオアシス都市
 - ・ **絹の道** (シルクロード)、ラクダの隊商貿易
 - ・ イラン系**ソグド商人**の活躍
- **海の道** (地中海 ~ 紅海 ~ アラビア海 ~ インド ~ 東南アジア ~ 中国)
 - ・ **港市国家**の発達 (マラッカ海峡、インドシナ半島南部など)

② 「海の道」の発達

[2世紀] **ローマ帝国** ~ **サータヴァーハナ朝** ~ **扶南** ~ **チャンパー** ~ **後漢**

[8世紀] **アッバース朝 (首都バグダード)** ~ **唐**

- ・ **ムスリム** (イスラーム教徒) **商人**の活躍

[10-12世紀] **アイユーブ朝 (首都カイロ)** ~ **宋**

- ・ 地中海: 北イタリア商人
- ・ インド洋~東シナ海: ムスリム商人 (**ダウ船**)、中国商人 (**ジャンク船**)

[**陶磁の道** (中国の陶磁器を輸出)]

[13-14世紀] **マムルーク朝 (首都カイロ)** ~ **元 (杭州・泉州・広州など)**

- ・ 貿易ルート沿いにイスラーム拡大
 - インド・東南アジアのイスラーム化: デリー・スルタン朝、マラッカ王国
 - 東アフリカの海港都市: イスラームの影響を受けた**スワヒリ**文化

第II部

第8章 世界諸地域の繁栄

～ 中国の帝国 ～

52. 明

① 明 (1368-1644 年) 漢民族の王朝

- 1351-66年 **紅巾の乱** (紅巾の乱) : 白蓮教徒が中心の農民反乱、指導者は**朱元璋**
1368年 **明**の建国 (首都: 南京)、元の滅亡

[初代] **洪武帝** (朱元璋) (位 1368-98 年)

- ・ 皇帝独裁の強化: 中書省の廃止、六部は皇帝直属に
- ・ 農村支配の強化: **里甲制** (110戸で1里)、**六諭** (儒教による村民教化)
賦役黄冊 (戸籍・租税台帳)、**魚鱗圖冊** (土地台帳)
- ・ **衛所制** (軍戸の戸籍による軍制)
- ・ 科挙の整備 (朱子学が官学)

[2代] **建文帝**

- ・ **靖難の役** (1399-1402 年): 建文帝 (南京) [負] vs. **燕王** (北京) [勝]

[3代] **永楽帝** (燕王) (位 1402-24 年)

- ・ **北京へ遷都**
- ・ **内閣大学士** (皇帝の補佐役) の設置
- ・ **鄭和**の南海遠征 (アフリカ東岸まで到達) → 朝貢貿易の拡大

《**北虜南倭**》 (16世紀)

- ・ 北虜: モンゴル高原のオイラト (瓦剌)・タタール (韃靼) が侵入
→ オイラトのエセン・ハンが明の正統帝を捕虜に (1449年 **土木の変**)
→ タタールのアルタン・ハンが北京を包囲 (1550年)
- ・ 南倭: 倭寇 (日中間の密貿易者) の活動 (後期倭寇)

[14代] **万曆帝** (位 1572-1620 年)

- ・ **張居正**の改革: **一条鞭法** (銀納の税制) の普及
- ・ 豊臣秀吉の朝鮮侵略 (壬辰・丁酉倭乱): 明は朝鮮に援軍
- ・ 官僚の党派争い (東林派 vs. 非東林派)

53. 清

② 清 (1616-1912年) 東北地方の女真族(満州族)の王朝

[初代] **ヌルハチ** (位 1616-26年)

1616年 女真族を統一、東北地方にアイシン(金、後金)を建国

[2代] **太宗** (ホンタイジ) (位 1626-43年)

1636年 国名を清へと改称

[3代] **順治帝** (位 1643-61年)

1644年 **李自成**の反乱軍が北京を占領→明の滅亡

清が李自成一を倒し北京を占領→清の中国支配が始まる (首都: 北京)

[4代] **康熙帝** (位 1661-1722年)

1673-81年 **三藩の乱** (呉三桂らの反乱) を鎮圧→中国本土の統一完成

1683年 **台湾** (1661年より鄭成功の一族が支配) を征服

1689年 **ネルチンスク条約**: ロシアと国境確定 (東北地方、スタノヴォイ山脈)

[5代] **雍正帝** (位 1722-35年)

1727年 **キャフタ条約**: ロシアと国境確定 (外モンゴル)

- ・ **軍機処**の設置→政治の最高機関に

[6代] **乾隆帝** (位 1735-95年)

- ・ 領土拡大: 直轄領 (東北地方、中国、台湾)

藩部 (モンゴル高原、青海、チベット、新疆) ← **理藩院**が統括
属国 (朝鮮、ベトナム、タイ、ビルマ、ネパール)

○ 清の支配方法

- ・ 満漢併用策: 主要官職に満州族・漢民族を同数併用
- ・ **辮髪** (満州族の髪型) を漢民族に強制
- ・ **文字の獄**: 反清的言論への弾圧
- ・ 軍制: **八旗** (満州族・モンゴル族・漢民族)、**綠營** (漢民族)

54. 明清代の社会と文化

③ 明清代の社会と文化

- 〔経済〕 (明) **湖広** (湖北省・湖南省) : 米作地帯
(明・清) 山西商人・徽州 (新安) 商人の活躍、会館・公所の設置
(明・清) **生糸・陶磁器** (景德鎮が産地) の輸出
→ **銀**の流入 (メキシコ・日本より)
(清) **華僑** : 東南アジアなどへの移住中国人
- 〔税制〕 (明) **一条鞭法** (16世紀～) : 地稅と丁稅 (人頭稅) をまとめて銀納
(清) **地丁銀** (18世紀～) : 丁稅を廢止して地稅のみを銀納
- 〔学問〕 儒学 (明) **陽明学** (「知行合一」「心即理」) : 王守仁 (王陽明)
(清) **考証学** (文献の実証) : 黄宗羲、**顧炎武**、**錢大昕**、**段玉裁**
実学 (明) 李時珍『本草綱目』、徐光啓『農政全書』、『崇禎曆書』
宋応星『天工開物』
- 〔編纂〕 (明) 『永樂大典』、『四書大全』、『五經大全』
(清) 『**康熙字典**』、『**古今圖書集成**』、『**四庫全書**』
- 〔小説〕 (明) 『**三国志演義**』、『**水滸伝**』、『**西遊記**』、『**金瓶梅**』
(清) 『**紅樓夢**』、『**儒林外史**』、『**聊齋志異**』
- 〔イエズス会宣教師〕 → (清) 雍正帝はキリスト教布教を禁止
(明) **マテオ・リッチ** (利馬竇) : 『**坤輿万国全図**』 (世界地図)、『幾何原本』
(清) アダム・シャル (湯若望) : 曆法
(清) フェルビースト (南懷仁) : 曆法
(清) ブーヴェ (白進) : 『**皇輿全覽図**』 (中国地図)
(清) カステイリオオーネ (郎世寧) : **円明園**の設計
・ **典礼問題** : イエズス会宣教師が典礼 (中国の伝統神崇拜) を行っていたことにより生じた論争

55. 中国の隣接諸国(2) (14世紀～)

④ 中国の隣接諸国 (14世紀～)

○ モンゴル

14世紀 北元：元の子孫が建国

15世紀 オイラト：エセン・ハンが明の正統帝を捕らえる (1449年 **土木の変**)

16世紀 タタール：アルタン・ハンはチベット仏教黄帽派を信仰、北京を包囲

17世紀 ジュンガル：モンゴル高原からタリム盆地にかけて支配

18世紀 ジュンガル：清 (乾隆帝) に平定される

○ チベット

15世紀 ツォオンカパがチベット仏教黄帽派 (教主**ダライ・ラマ**) を開く

○ 朝鮮 **李氏朝鮮** (1392-1910年)、建国者 **李成桂**、首都 **漢城** (現ソウル)

・ **両班** (ヤンバン)：特権階級、儒教 (朱子学) を重視、科挙により官僚に

・ **訓民正音** (ハングル)：第4代世宗が制定した文字

・ **銅活字**

・ **壬辰・丁酉倭乱** (16世紀末)：朝鮮 (**李舜臣**)・明 [勝] vs. 豊臣秀吉 [負]

○ 琉球 15世紀 **中山王**が統一、明へ朝貢

17世紀 薩摩藩に服属→日本と中国の両方に服属

○ 日本 14世紀 室町幕府：足利義満が明へ朝貢 (**勘合貿易**)

17世紀 江戸幕府：徳川家康の朱印船貿易→**鎖国** (1630年)

○ タイ

・ スコータイ朝 (13-15世紀 **北部**)、**アユタヤ朝** (14-17世紀 **中部**)

・ **ラタナコーシン** (チャクリ) **朝** (18世紀～現在)：ラーマ1世が建国

○ ビルマ (ミャンマー)

・ **トウングー朝** (16-18世紀) →**コンバウン朝** (18-19世紀)

○ ベトナム

・ **黎朝** (15-18世紀) →西山朝 (18世紀) →**阮朝** (19-20世紀、阮福暎が建国)

56. ティムール朝、オスマン帝国

① ティムール朝 (1370-1507 年)

- 1370 年 **ティムール**が建国、首都**サマルカンド**
- ・ トルキスタン、イラン、イラクを支配
 - ・ トルコ・イスラーム文化の繁栄（トルコ語文学、天文学、細密画）

② オスマン帝国 (1299-1922 年) スンナ派、トルコ人、支配者は**スルタン**

- ・ 小アジアに建国、首都をアドリアノーブル（バルカン半島）に
- バヤジッド1世
1396 年 ニコポリスの戦い：バルカン諸国・フランス・ドイツ連合に勝利
1402 年 **アンカラ**（アンゴラ）の戦い：ティムール朝に敗北 → 一時衰退
- メフメト2世
1453 年 コンスタンティノーブルを占領、ビザンツ帝国を滅ぼす
→首都を**イスタンブル**（コンスタンティノーブル）に
- セリム1世
1517 年 マムルーク朝を滅ぼす
→エジプト・シリアを支配、メッカ・メディナの両聖都を保護
- **スレイマン1世**（位 1520-66 年）〔最盛期〕
 - ・ ハンガリーを征服、イラク・北アフリカに領土拡大
 - 1529 年 **ウィーン包囲**（第1次）：オーストリア（ハプスブルク家）と対決
 - 1538 年 プレヴェザの海戦：スペイン・ヴェネツィア連合に勝利
→地中海の制海権をにぎる

《オスマン帝国の支配》

- ・ **カピチュレーション**：フランス商人に帝国内の居住・通商の自由を与える
- ・ **イエニチェリ軍団**：キリスト教徒から強制徴収した歩兵軍団
- ・ ティマール：スルタンが騎士（シパーヒー）に与えた土地の徴税権
- ・ デウシルメ制：キリスト教徒から強制徴収して官僚・軍人を養成する制度
- ・ ミット：キリスト教徒・ユダヤ教徒の共同体（大幅な自治を与える）

57. サファヴィー朝、ムガル帝国

③ サファヴィー朝 (1501-1736年) シーア派、イラン人、支配者はシャー

○ イスマーイール1世

1501年 建国、**シーア派**を国教とする→イラン人民族意識の形成

○ **アッバース1世** (位 1587-1629年) [最盛期]

- ・ 首都**イスファハーン**を建設 (イマームのモスクなど)
- ・ オスマン帝国 (スンナ派) との対決、ヨーロッパ諸国との外交・通商

④ ムガル帝国 (1526-1858年) スンナ派、北インドが中心

[初代] **バール**

1526年 ロディー朝 (デリー・スルタン朝最後の王朝) を倒す→建国

[3代] **アクバル** (位 1556-1605年) [最盛期]

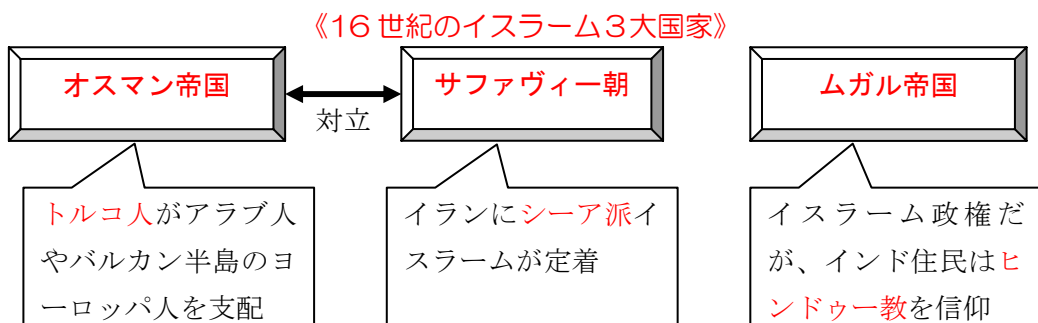
- ・ 首都アグラを建設
- ・ ヒンドゥー教との融和：ジズヤ (人頭税) を廃止

[6代] **アウラングゼーブ** (位 1658-1707年) [衰退期]

- ・ ヒンドゥー教への弾圧：ジズヤ (人頭税) を復活
→**マラータ王国** (ヒンドゥー教徒) の独立、シク教徒の反乱

○ ムガル時代の文化 (インド・イスラーム文化)

- ・ **タージ・マハル**：4代皇帝シャー・ジャハーンが王妃のために建設
- ・ **シク教**：開祖ナーナク、ヒンドゥー教とイスラームの融合、西北インド
- ・ ウルドゥー語：ペルシア語とインドの言語が融合 (現パキスタン国語)
- ・ ムガル絵画：細密画により発展した宮廷絵画



58. アフリカ大陸、アメリカ大陸

① アフリカ大陸

- 東北部
 - ・ **クシュ王国** (前 10-後 4 世紀) : スーダン、首都**メロエ**
 - ・ **阿克苏ム王国** (前 2-後 6 世紀) : エチオピア、キリスト教

- 西部
 - ・ **ガーナ王国** (8?-11 世紀) : 金と塩の交換貿易 (サハラ砂漠縦断)
1076 年 ムラービト朝がガーナ王国を征服→西アフリカのイスラーム化
 - ・ **マリ王国** (13-15 世紀) : イスラーム国家
 - ・ **ソンガイ王国** (15-16 世紀) : イスラーム国家、交易都市**トンブクトゥ**

- 東南部
 - ・ アラビア、イランとの海上貿易 (ムスリム商人による)
 - ・ 海港都市 : マリンディ、モンバサ、ザンジバル、キルワなど
 - ・ **スワヒリ語** : アラビア語の影響を受けた商業用語
 - ・ **モノモタパ王国** (11-19 世紀) : ジンバブエ石造遺跡

② アメリカ大陸

- アメリカ文明の特徴
 - ・ アメリカ大陸先住民 (ネイティヴ・アメリカン) : モンゴロイド系
 - ・ **トウモロコシ**、ジャガイモの栽培
 - ・ 金・銀・青銅器あり
 - ・ 鉄器・車輪・馬なし

- 各地の文明
 - [メキシコ湾岸] オルメカ文明 (前 1000 年頃)
 - [ユカタン半島] **マヤ文明** (4-10 世紀) : 20 進法、絵文字、暦法
 - [メキシコ高原] テオティワカン文明 (前 2-後 6 世紀) : ピラミッド型神殿
アステカ文明 (12-16 世紀) : 首都テノチティトラン
 - [アンデス高地] **インカ帝国** (13-16 世紀) : 首都クスコ、キープ (結縄^{けっじょう})

第9章 近代ヨーロッパ

～ ヨーロッパ近代のはじまり ～

59. 大航海時代

① **大航海時代**：ヨーロッパ世界（特にポルトガル・スペイン）の対外進出

○ **大航海**の背景

- ・ アジア貿易（**香辛料**）の利益を求める
- ・ **羅針盤**の改良、快速帆船の普及→遠洋航海

○ **ポルトガル王国**：首都リスボン

15世紀初 「航海王子」**エンリケ**：アフリカ大陸西岸の探検

15世紀後 **ジョアン2世**（位 1481-95年）：王権強化

1488年 **バルトロメウ・ディアス**：アフリカ大陸南端（喜望峰）に到達

1498年 **ヴァスコ・ダ・ガマ**：インド西岸（カリカット）に到達

1500年 カブラル：ブラジルに漂着

[ポルトガルの繁栄]

- ・ アジア貿易（インドのゴア、中国のマカオ、日本の平戸）：香辛料など
- ・ ブラジルの植民地支配

○ **スペイン王国**

1492年 **コロンブス**：アメリカ大陸（サンサルバドル島）に到達

- ・ イタリア人ジェノヴァの商人
- ・ スペイン女王**イサベル**の支援を受ける
- ・ **トスカネリ**の地球球体説を信じて西進
- ・ 「インドに到達した」と信ずる→アメリカ先住民を「インディオ」と呼ぶ
- ・ **アメリカゴ・ヴェスプッチ**が、コロンブスの到達した大陸は「インド」ではなく未知の大陸だ、と主張（1499年）→アメリカ大陸と命名

1519-22年 **マゼラン**（マガリャンイス）：世界周航（西回り）を達成

- ・ ポルトガル人
- ・ スペイン国王の支援
- ・ アメリカ大陸南端（マゼラン海峡）通過→太平洋横断→フィリピンで戦死
- ・ 出発時5隻、そのうち1隻のみスペインへ帰還

60. アメリカ大陸の植民地化、大西洋三角貿易

② アメリカ大陸の植民地化

- スペイン人の「征服者（コンキスタドール）」

1521年 **コルテス**：アステカ文明を滅ぼす

1533年 **ピサロ**：インカ帝国を滅ぼす

- ・ スペイン人が金・銀を支配（ポトシ銀山などで先住民を奴隷として酷使）
- ・ 鉱山での労働・伝染病→先住民の人口激減→アフリカ大陸から黒人を導入
- ・ 聖職者ラス・カサスは先住民の救済を主張

[スペインの繁栄]

- ・ アメリカ大陸中南部（ブラジルはポルトガル領）の植民地支配
(1494年 トルデシリャス条約：ポルトガルとの植民地境界線を定める)
- ・ フィリピンの植民地支配

③ 大西洋三角貿易



- アフリカ大陸：**黒人奴隷貿易**（18世紀が最大規模）による人口・経済の停滞
- アメリカ大陸：ヨーロッパ人が先住民や黒人に奴隷労働をさせる
[16世紀] スペイン：金・銀を採掘
[17世紀] イギリス、フランス：**プランテーション**を経営
(砂糖、タバコ、綿花、コーヒーなど)
- ヨーロッパ：資本蓄積の進行、資本主義経済の発展
[16世紀] 金・銀の流入→**価格革命**（物価上昇）
大西洋貿易→**商業革命**（地中海から大西洋岸へと貿易拠点が移動）
[17-18世紀] オランダ・フランス・イギリスが貿易の利益を得る
(イギリスのリヴァプールが奴隷貿易で繁栄)

61. イタリア・ルネサンス

④ イタリア戦争 (1494-1559 年)

- ・ イタリアは小国に分裂→イタリア支配をめぐり外国が介入し戦争に
- ・ フランス国王 vs. 神聖ローマ皇帝 ・ スペイン国王 (ハプスブルク朝)

⑤ イタリア・ルネサンス

○ ルネサンス

- ・ ギリシア・ローマ古典文化の「再生」
- ・ **ヒューマニズム** (人文主義、人間主義)
- ・ イタリアで生まれ、アルプス以北に伝わる

○ 14-15 世紀：フィレンツェ中心、**メディチ家**の支援

[文学] **ダンテ** 『神曲』：トスカナ語で書く

ペトラルカ 『叙情詩集』

ボッカチオ 『デカメロン』：近代小説の先駆

マキアヴェリ 『君主論』：近代政治学の祖

[絵画] ジオット 『聖フランチェスコの生涯』

ボッティチェリ 『ヴィーナスの誕生』『春』

[彫刻] ドナテルロ 『聖ジョルジョ像』

[建築] ブルネレスキ 『サンタ・マリア大聖堂』

○ 16 世紀：ローマ中心、教皇の支援

[絵画] **レオナルド・ダ・ヴィンチ** 『モナ・リザ』『最後の晩餐』：万能の天才

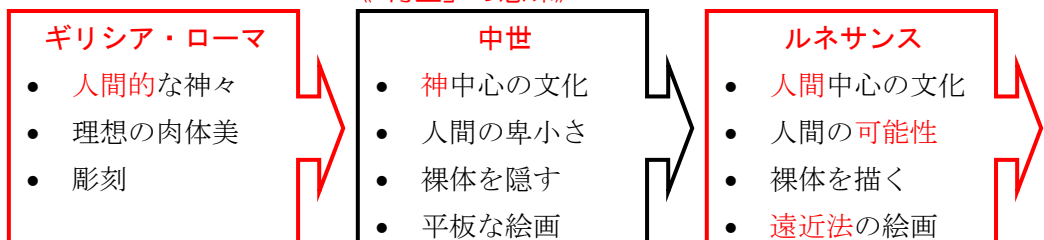
ミケランジェロ 『最後の審判』(システィナ礼拝堂)

ラファエロ 『聖母子像』

[彫刻] ミケランジェロ 『ダヴィデ』『ピエタ』

[建築] ブラマンテ 『**サン・ピエトロ大聖堂**』：カトリックの総本山

《「再生」の意味》



62. イタリア以外のルネサンス、科学と技術

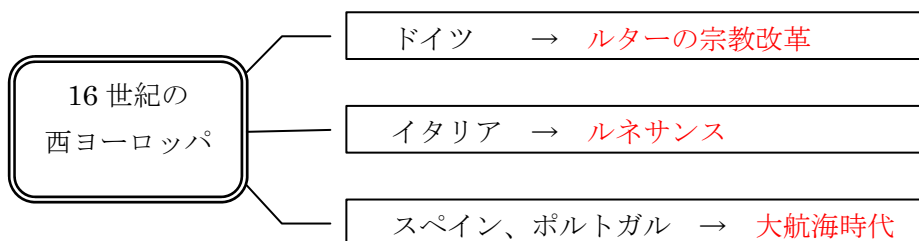
⑥ イタリア以外のルネサンス

〔文学〕 **エラスムス** 『愚神礼賛』(ネーデルラント)：聖職者の腐敗を風刺
トマス・モア 『ユートピア』(イギリス)：理想社会から現実を風刺
ラブレー 『ガルガンチュア物語』(フランス)：社会の因習を風刺
モンテーニュ 『随想録』(フランス)：随筆
チャオサー 『カンタベリ物語』(イギリス)：庶民が登場
シェークスピア 『ヴェニスの商人』『ハムレット』(イギリス)：劇作
セルバンテス 『ドン・キホーテ』(スペイン)：没落する騎士
ロイヒリン (ドイツ)：ヘブライ語研究

〔絵画〕 **ファン・アイク兄弟** (ネーデルラント)：油絵の改良、フランドル派
ブリュゲル (ネーデルラント)：農民画
デューラー (ドイツ) 『四使徒』
ホルバイン (ドイツ) 『エラスムス像』：肖像画

⑦ 科学と技術

- 3大発明 (中国→イスラーム世界→ヨーロッパへと伝わる)
 - ・ **火砲(火薬)** →戦術の変化
 - ・ **羅針盤** →遠洋航海が可能に
 - ・ **活版印刷** (ドイツ人のグーテンベルクが改良) →書物の普及
- **地動説** (地球が自転・公転している、とする説)
 - ・ **コペルニクス** (ポーランド) が主張
 - ・ **ガリレイ** (イタリア) が望遠鏡による観測で実証
→天動説 (地球が宇宙の中心) にもとづくカトリック教会の世界観が崩れる



63. ドイツの宗教改革

⑧ ドイツの宗教改革

○ 宗教改革

- ・ カトリック教会を批判するキリスト教の改革運動（**プロテスタント**、新教）
- ・ **ハプスブルク朝**（神聖ローマ皇帝、スペイン国王）はカトリック教会を支持

○ ルター（ヴィッテンベルク大神学教授）の宗教改革 16世紀前

- ・ ローマ教皇**レオ10世**：ドイツ（神聖ローマ帝国）で**贖宥状**^{しよくゆうじょう}を販売
〔サン・ピエトロ大聖堂の新築資金調達のため〕

1517年 ルターが**95ヶ条の論題**を発表、贖宥状を批判

1520年 ルター『キリスト者の自由』（信仰義認説、聖書主義、万人祭司主義）

1521年 ヴォルムス帝国議会：神聖ローマ皇帝**カール5世**がルターを**召喚**^{しょうかん}
ルターが新約聖書をドイツ語訳（ザクセン選帝侯の保護下で）

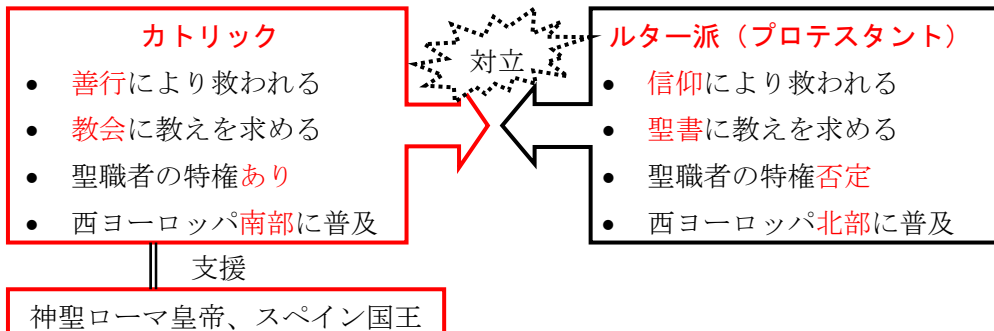
1524-25年 **ドイツ農民戦争**（指導者**ミュンツァー**）
→ルターは反乱農民の鎮圧を主張

1546-47年 シュマルカルデン戦争

<p style="text-align: center;">カトリック（旧教）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神聖ローマ皇帝カール5世 ・ 皇帝派諸侯 	⇔	<p style="text-align: center;">プロテスタント（新教）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ルター派諸侯 （シュマルカルデン同盟を結成）
--	---	---

1555年 **アウグスブルクの和議**

- ・ 諸侯はカトリックかルター派かの宗教選択権をもつ
- ・ ルター派以外の新教は不可
- ・ 領民個人の宗教選択権はなし
→ルター派はドイツ北部、北ヨーロッパに普及



64. 宗教改革の広まり、対抗宗教改革

⑨ 宗教改革の広まり

[スイス]

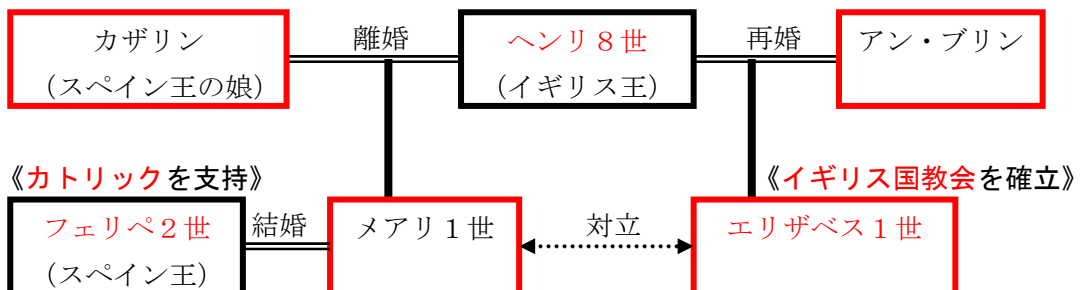
- **ツヴィングリ**：チューリヒで宗教改革 16世紀前
- **カルヴァン**：ジュネーヴで禁欲的な神権政治 16世紀後
 - ・ フランス人、『キリスト教綱要』の著者
 - ・ **予定説**：人が救われるか否かは神が予め定める
 - ・ **長老主義**：信仰のあつい信徒を長老として牧師の補佐をさせる
 - ・ 職業労働（営利・蓄財）を肯定
 - ・ カルヴァン派は西ヨーロッパに広く普及（特に都市商工業者）
→ユグノー（フランス）、ピューリタン（イングランド）、ゴイセン（ネーデルラント）、プレスビテリアン（スコットランド）などと呼ばれる

[イギリス] テューダー朝（1485-1603年）

- **ヘンリ8世**：王妃との離婚問題から教皇と対立 16世紀前
1534年 **首長法**（国王至上法）：**イギリス国教会**を創設、首長は国王
- エドワード6世：イギリス国教会の教義が整う
- メアリ1世：カトリック復活をめざす
- **エリザベス1世**：絶対王政 16世紀後
1559年 **統一法**：イギリス国教会を確立

⑩ 対抗宗教改革（反宗教改革）：カトリック教会の勢力立て直し

- **イエズス会**（ジェズイット教団）（1534年設立）
 - ・ スペイン人**イグナティウス・ロヨラ**が結成
 - ・ ヨーロッパ内外でカトリック布教（1549年 **フランシスコ・ザビエル**来日）
- **トリエント公会議**（1545年）：教皇の至上権を確認、宗教裁判の強化



65. スペインの絶対王政、オランダの独立

① スペインの絶対王政

- **絶対王政**：強力な国王権力により統一された近代ヨーロッパの中央集権国家
- **ハプスブルク家**のヨーロッパ支配
 - 1519年 スペイン国王が神聖ローマ皇帝を兼務
 - ・ スペイン国王カルロス1世と神聖ローマ皇帝**カール5世**は同一人物
 - 1556年 カルロス1世退位、ハプスブルク家が2つに分かれる
 - オーストリア系（神聖ローマ皇帝）：オーストリア、ハンガリーを支配
 - スペイン系（スペイン国王）：スペイン、ネーデルラント、ナポリを支配
- スペイン国王**フェリペ2世**〔最盛期〕 **16世紀後**
 - 1571年 **レパントの海戦**：オスマン帝国に勝利
 - 1580年 ポルトガル王国を併合→「太陽のしずまぬ国」
 - 1588年 スペイン無敵艦隊（アルマダ）がイギリス海軍に敗北
 - ・ 植民地**アメリカ大陸からの銀の流入**により繁栄
 - ・ カトリックを強制、プロテスタントを弾圧

② オランダの独立

- スペイン領ネーデルラント
 - 〔北部7州（オランダ）〕 ゴイセン（カルヴァン派）が多い→独立戦争を起こす
 - 〔南部10州（ベルギー、フランドル）〕 カトリック教徒が多い→独立せず
- オランダ独立戦争：独立軍指導者**オラニエ公ウィレム**
 - 1579年 北部7州が**ユトレヒト同盟**を結成
 - 1581年 北部7州が**ネーデルラント連邦共和国**の独立宣言
 - 1609年 休戦→事実上の独立
- オランダの貿易発展：首都**アムステルダム**は国際金融の中心に **17世紀前**
 - 1602年 東インド会社の設立→アジア貿易に進出

66. イギリスの絶対王政、ドイツの三十年戦争

③ イギリスの絶対王政 [テューダー朝]

○ エリザベス1世 [16世紀後]

- ・ 第1次囲い込み (エンクロージャー) →羊毛生産・毛織物工業の発展
- ・ イギリス国教会の確立 (1559年 統一法)
- ・ スペイン無敵艦隊に勝利 (1588年)
- ・ 東インド会社の設立 (1600年) →海上貿易・海外植民地獲得へ進出

○ 農村の社会階層

- ・ 貴族 (地主) / ジェントリ (郷紳) / ヨーマン (独立自営農民) / 小作農

④ ドイツの三十年戦争 (1618-48年) : 初の国際的宗教戦争 [17世紀前]

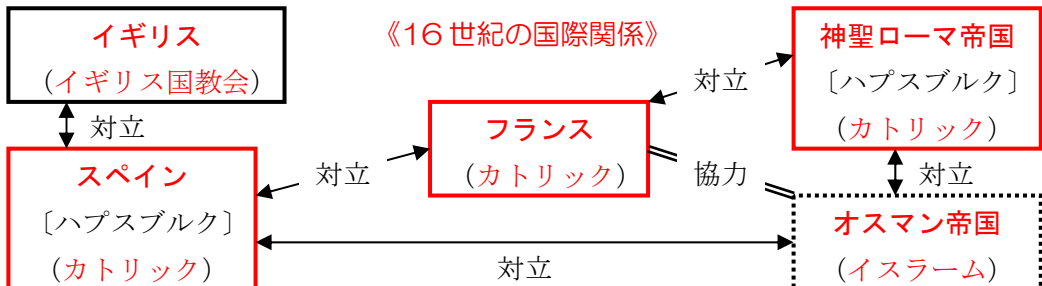
○ 発端 : ベーメンの新教徒がハプスブルクのカトリック支配に対して反乱

○ 対立構図 (カトリック、ルター派)

皇帝派	⇔	反皇帝派
<u>ドイツのカトリック派諸侯</u> <u>神聖ローマ皇帝 (ハプスブルク朝)</u> ・ <u>ヴァレンシュタイン</u> が皇帝軍を指揮		<u>ドイツのルター派諸侯</u> <u>フランス国王 (ブルボン朝)</u> <u>デンマーク国王</u> <u>スウェーデン国王 (グスタフ・アドルフ)</u>

○ ウェストファリア条約 (1648年) →主権国家体制の確立

- ・ フランス (アルザス獲得)・スウェーデン (バルト海沿岸獲得) の領土拡大
- ・ スイス・オランダの独立承認
- ・ ドイツの諸侯にルター派・カルヴァン派の信仰の自由
- ・ ドイツの諸侯に主権を認める→神聖ローマ帝国の解体



67. イギリスの市民革命

⑤ イギリスの市民革命 カトリック、国教会、ピューリタン (カルヴァン派)

1) スチュアート朝の絶対王政 (1603-42年)

〔初代〕 ジェームズ1世 : 王権神授説をとる

〔2代〕 チャールズ1世 : 新たな課税 (スコットランド戦の戦費のため)

1628年 権利の請願 : 議会が国王に提出、議会の承認なき課税に反対

1640年 国王が議会を招集 (短期議会→長期議会) : 議会が国王を批判

2) ピューリタン革命 (1642-49年)

王党派 〔負〕	⇔	議会派 〔勝〕 (鉄騎隊の活躍)
・絶対王政を支持	内乱	<ul style="list-style-type: none"> ・長老派 : 立憲君主政めざす (ジェントリの支持) ・独立派 : 共和政めざす (ヨーマンの支持) ・水平派 : 共和政めざす (小作農の支持)

3) 独立派の独裁 (1649-60年)

・指導者 : 護国卿 クロムウェル → 長老派を議会から追放、水平派を弾圧

1649年 国王チャールズ1世を処刑 (共和政の成立)、アイルランドを征服

1651年 航海法 : オランダ船をイギリスから排除

1652-54年 英蘭戦争 (第1次) : イギリス〔勝〕 vs. オランダ〔負〕

4) 王政復古 (1660-88年) : スチュアート朝の復活

〔3代〕 チャールズ2世 : カトリックを擁護

1673年 審査法 : 国教徒のみ公職に就任 (議会が制定)

1679年 人身保護法 : 不当逮捕の禁止 (議会が制定)

・議会ではトーリー党とホイッグ党が成立

〔4代〕 ジェームズ2世 : カトリックと絶対王政の復活をめざす

5) 名誉革命 (1688年)

1688年 議会がオランダからウィレムと妻メアリを国王として招く

→ジェームズ2世は亡命

〔5代〕 ウィリアム3世・メアリ2世

1689年 国王は議会の権利の宣言を承認

議会はそれを権利の章典として制定→議会主権、立憲君主政の成立

6) 大ブリテン王国 ←1707年 スコットランドを併合 (〔6代〕 アン女王の時代)

《ハノーヴァー朝 (1714-1917年)》

〔初代〕 ジョージ1世 「君臨すれども統治せず」

1721年 ウォルポール首相 : 責任内閣制 (内閣は議会に責任を持つ) の成立

68. フランスの絶対王政

⑥ フランスの絶対王政

○ ユグノー戦争 (1562-98年)

- ・ カトリック [ギーズ家] vs. ユグノー (カルヴァン派) [ブルボン家]
- ・ **サンバルテルミの虐殺** (1572年) : カトリック派がユグノーを虐殺

○ **ブルボン朝**の成立 (1589年) ← ヴァロワ朝の断絶

[初代] **アンリ4世** : ユグノーからカトリックへと改宗

1598年 ナントの勅令 : カルヴァン派の信仰の自由を認める→ユグノー戦争終

[2代] **ルイ13世** (位 1610-43年)、**宰相リシュリユー**

- ・ 反ハプスブルク外交 → 三十年戦争に介入

[3代] **ルイ14世** (太陽王) (位 1643-1715年)

1) 宰相**マザラン**の時代 (1643-1661年)

- ・ **フロンドの乱** (貴族の反乱) を鎮圧→王権強化

2) 国王親政しんせいの時代 (1661-1715年)

- ・ 財務総監**コルベール**の重商主義政策 : 特権マニファクチュアの創設など
- ・ **ヴェルサイユ宮殿**の建造 (バロック式)
- ・ **ナントの勅令廃止** (1685年) → ユグノーの商工業者が国外亡命
- ・ 侵略戦争 : 南ネーデルラント継承戦争 (1667-68年)

オランダ戦争 (1672-78年)

ファルツ戦争 (アウグスブルク同盟戦争) (1688-97年)

スペイン継承戦争 (1701-13年)、**ユトレヒト条約** (1713年)

→ スペインがハプスブルク朝からブルボン朝になる

(ルイ14世の孫フェリペ5世がスペイン国王に即位)

[4代] **ルイ15世** (位 1715-74年)

[5代] **ルイ16世** (位 1774-92年) → フランス革命の開始 (1789年)

69. プロイセンとオーストリアの絶対王政

⑦ プロイセン王国 首都ベルリン、ホーエンツォレルン朝、ルター派

- ・ ブランデンブルク選帝侯国+プロイセン公国 (←ドイツ騎士団領) により成立
- ・ **ユンカー** (領主貴族) が支配階級

○ **フリードリヒ・ヴィルヘルム 1 世** (位 1713-40 年) : 軍備増強

○ **フリードリヒ 2 世** (位 1740-86 年) 「君主は国家第一の僕」^{しもべ}

- ・ **啓蒙専制君主** : 啓蒙思想の影響を受けた絶対主義君主、上からの改革
- ・ フランスの啓蒙思想家ヴォルテールとの交流
- ・ **サンスーシ宮殿** (ロココ式、ポツダム)

⑧ オーストリア帝国 首都ウィーン、ハプスブルク朝、カトリック

○ **マリア・テレジア** (位 1740-80 年) : プロイセンとの 2 度の戦争

1) **オーストリア継承戦争** (1740-48 年) [ジョージ王戦争 (1744-48 年)]

- ・ オーストリア・イギリス vs. プロイセン・フランス
- ・ ハプスブルク朝 (オーストリア) とブルボン朝 (フランス) の伝統的な対立
- ・ プロイセンが**シュレジェン**地方を獲得

2) **七年戦争** (1756-63 年) [フレンチ・インディアン戦争 (1755-63 年)]

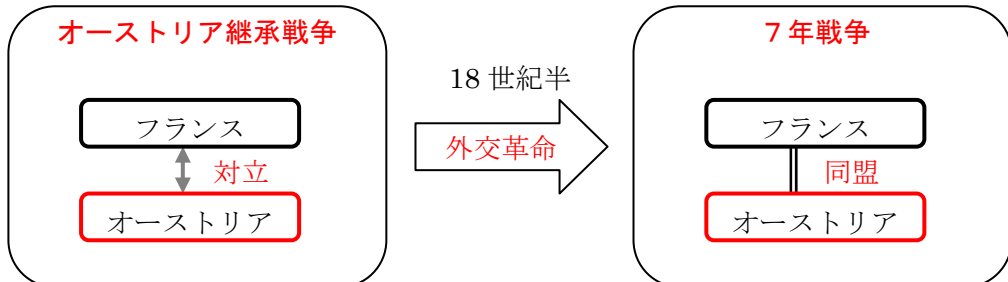
- ・ オーストリア・フランス vs. プロイセン・イギリス
- ・ 外交革命 : ハプスブルク朝とブルボン朝が対立を解消し**同盟**を結ぶ
- ・ プロイセンがシュレジェン地方を確保

※ _____ は、イギリス vs. フランスの北アメリカ植民地争奪戦争

○ **ヨーゼフ 2 世** (位 1765-90 年) : 啓蒙専制君主

- ・ 農奴解放、宗教的寛容など上からの改革

《フランスとオーストリア》



70. ロシアの絶対王政、ポーランド分割

⑨ ロシアの絶対王政

1) モスクワ大公国 (15-17 世紀)

- **イヴァン3世**：**ツァーリ**（皇帝）の称号を初めて用いる〔15世紀〕
- **イヴァン4世**（^{らいてい}雷帝）：ツァーリ（皇帝）の称号を正式に用いる〔16世紀〕
シベリア征服（コサック首長**イェルマーク**の活躍）

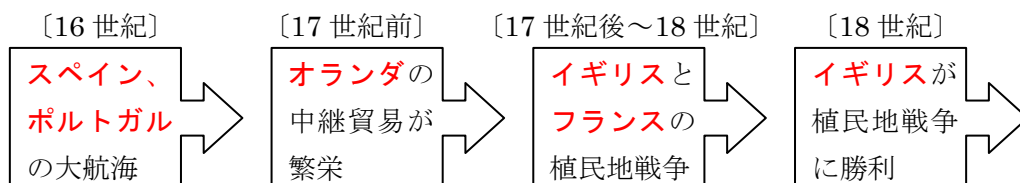
2) ロマノフ朝 (17-20 世紀)：ミハイル・ロマノフが創始 (1613 年)

- **ピョートル1世**（大帝）（位 1682-1725 年）
 - ・ 西欧視察→西欧化・近代化
 - ・ 首都**ペテルブルク**の建設
 - ・ **ネルチンスク条約**（1689年）：清と国境確定
 - ・ **北方戦争**（1700-21年）：ロシア〔勝〕 vs.スウェーデン（カール12世）〔負〕
→ロシアのバルト海支配
- **エカチェリーナ2世**（位 1762-96年）：啓蒙専制君主
 - ・ 南下政策→オスマン帝国からクリミア半島（黒海北岸）を奪う
 - ・ 日本（^{ねむろ}根室）に使節ラクスマンを派遣
 - ・ **プガチョフの農民反乱**（1773-75年）を鎮圧→農奴制の強化

⑩ ポーランド王国の分割

- ヤゲウォ朝 (14-16 世紀)〔繁栄〕
- **選挙王制** (16-18 世紀)〔分裂、衰退〕
- ロシア、プロイセン、オーストリア（第2次は不参加）のポーランド分割
 - ・ 第1次 (1772年)
 - ・ 第2次 (1793年)：ポーランド人**コシューシコ**（コシチューシコ）が抵抗
 - ・ 第3次 (1795年)：ポーランド王国の消滅

《ヨーロッパ各国の盛衰》



71. ヨーロッパ諸国の海外進出

⑪ アジア貿易をめぐる争い

○ 16世紀

- [ポルトガル] **ゴア** (インド・香辛料貿易)、**マカオ** (中国)、**平戸** (日本)
[スペイン] **マニラ** (フィリピン) ←アカプルコ貿易 (フィリピン～メキシコ)

○ 17世紀

- [オランダ] **バタヴィア** (ジャワ島)
アンボイナ事件 (1623年) →イギリスをインドネシアから排除
ケープ植民地 (1652年) : アフリカ南端
[イギリス] マドラス、ボンベイ、カルカッタ (インド)
[フランス] ポンディシェリ、シャンデルナゴル (インド)
[**東インド会社**] 国王の特許状を得た独占会社
・ イギリス (1600年)、オランダ (1602年)、フランス (1604年) 設立

○ 18世紀 : イギリス [勝] vs. フランス [負] ←インド貿易をめぐる戦争

- 1757年 **プラッシーの戦い** : イギリス東インド会社軍 (指導者クライヴ) が勝利

⑫ アメリカ大陸の植民地争奪

○ 北アメリカ

- [オランダ] ニューネーデルラント植民地 (東海岸、**ニューアムステルダム**)
[フランス] ケベック (カナダ東部)、**ルイジアナ** (ミシシッピ川流域)
[イギリス] **ニューイングランド植民地** (東海岸、ヴァージニアなど13州)

○ イギリス [勝] vs. フランス [負] ←北アメリカ植民地支配をめぐる戦争

- 1702-13年 アン女王戦争 [スペイン継承戦争] (1713年 ユトレヒト条約)

- ・ ジブラルタル、ミノルカ島 (スペイン領→イギリス領)
- ・ ニューファンドランド、アカディア、ハドソン湾 (フランス領→イギリス領)

- 1755-63年 **フレンチ・インディアン戦争** [七年戦争] (1763年 **パリ条約**)

- ・ フロリダ (スペイン領→イギリス領)
- ・ ミシシッピ川以東ルイジアナ、カナダ、セネガル (フランス領→イギリス領)
- ・ ミシシッピ川以西ルイジアナ (フランス領→スペイン領)

※ _____ はヨーロッパにおける戦争

72. 17~18世紀のヨーロッパ文化

⑬ 17~18世紀のヨーロッパ文化

1) 美術

- **バロック式**：豪華・躍動的 **17世紀** ヴェルサイユ宮殿
ルーベンス、ファン・ダイク（フランドル）
レンブラント（オランダ）
エル・グレコ、ベラスケス、ムリリョ（スペイン）
- **ロココ式**：繊細・優美 **18世紀** サンソーシ宮殿
ワトー（フランス）

2) 文学

- フランス：**コルネイユ、ラシーヌ、モリエール**…古典主義（形式・調和）
フランス学士院（リシュリユーが創設）
- イギリス：**デフォー**『ロビンソン・クルーソー』
スウィフト『ガリヴァー旅行記』
ミルトン『失樂園』、バンヤン『天路歷程』…ピューリタン文学
- ドイツ：シラー、**ゲーテ**…「疾風怒濤」

3) 哲学・科学

- **イギリス経験論**：**フランシス・ベーコン**…帰納法（実験・観察から法則へ）
- **大陸合理論**：**デカルト**『方法序説』…演繹法（法則から真理を証明）
- **ドイツ観念論**：**カント**（ドイツ）…イギリス経験論と大陸合理論を統合
- 自然科学：**ニュートン**（イギリス）…万有引力、物理学
- その他：パスカル『パンセ』／スピノザ〔汎神論〕／ライプニッツ〔单子論〕

4) 思想

- **自然法**：人類普遍の基本的な法、国家制定法に優先
 - ・ **グロティウス**（オランダ）：国際法の祖、『戦争と平和の法』
 - ・ **ホッブズ**（イギリス）：社会契約説、自然状態は「万人の万人に対する闘争」
 - ・ **ロック**（イギリス）：社会契約説、市民革命を正統化
- **重農主義**：土地こそ富の源泉・経済の自由放任、**ケネー**『経済表』（フランス）
- 古典派経済学：自由主義経済、**アダム・スミス**『諸国民の富』（イギリス）
- **啓蒙思想**：理性の光で社会矛盾を批判（フランス）
 - ディドロ**、**ダランベール**『百科全書』、**モンテスキュー**『法の精神』
 - ルソー**『人間不平等起源論』『社会契約論』、**ヴォルテール**『哲学書簡』

第 10 章 欧米における近代国家の成長

～ 市民革命と産業革命 ～

73. アメリカ独立革命

① アメリカ独立革命

1) イギリスの北アメリカ植民地支配

1607年 ヴァージニア：最初の植民地

1620年 ピューリタンの一団（ピルグリム・ファーザーズ）がプリマスに上陸
→イギリスからの移民増加

1733年 ニューイングランド植民地 13州の成立

イギリス（植民地に課税） ⇔ 13州植民地（イギリスの重商主義政策に反発）

1765年 イギリスが印紙法を制定←植民地は「代表なくして課税なし」と反発

1773年 イギリスが茶法を制定←植民地はボストン茶会事件を起こす

1774年 植民地が大陸会議（第1回フィラデルフィア）を開く

2) 独立戦争（1775-83年）：イギリス軍 vs. 13州植民地軍

1775年 レキシントン・コンコードの戦い：戦争開始

1776年1月 **トマス・ペイン**『コモン・センス』：独立への世論を高める

7月4日 **独立宣言**（起草者**トマス・ジェファソン**、ロック思想の影響）

1777年 国名を**アメリカ合衆国**とする

- ・ 植民地軍の同盟国：フランス（1778年）、スペイン、オランダ
- ・ 中立国：ロシアが中心となり武装中立同盟を結成（1780年）

1781年 ヨークタウンの戦い：植民地軍の勝利確定

1783年 **パリ条約**：イギリスがアメリカ合衆国に

1)独立を承認

2)ミシシッピ川以東ルイジアナを割譲

3) 憲法制定

1787年 **合衆国憲法**：連邦主義、三権分立、人民主権、大統領制、共和政
→初代大統領**ワシントン**（独立戦争時の総司令官）

74. フランス革命(1) (国民議会、立法議会)

② フランス革命 (1789-99年)

※ **旧制度 (アンシャン・レジーム)** : 革命前のフランス社会

- ・ **第1身分** (聖職者)、**第2身分** (貴族) ……免税
- ・ **第3身分** (平民) ……納税、シェイエス『第3身分とは何か』で権利を主張
- ・ 国王**ルイ16世** (ブルボン朝)、王妃マリ・アントワネット (オーストリア出身)
- ・ 財政難→ネッケルが第1・2身分からの徴税を試みる→第1・2身分が反発

1) **国民議会 (憲法制定議会) (1789.6-1791.9)** ←三部会より分離

《指導者》ミラボー、ラファイエット : 立憲君主主義、上層市民

[1789年]

- 5 **三部会**の招集→第1・2身分と第3身分の代表が議決方法で対立
- 6 **球戯場の誓い** : 第3身分が国民議会を宣言、憲法制定まで解散せずと誓う
- 7.14 パリ民衆が**バスティーユ牢獄**を襲撃→全国的な農民一揆が広まる
- 8.4 **封建的特権の廃止** : 農民の地代は有償で廃止
- 8.26 **人権宣言**の採択 : 自由平等、主権在民、私有財産の不可侵
- 10 **ヴェルサイユ行進** : パリ女性らが国王をパリ (テュイルリー宮殿) へ連行

[1791年]

- 6 **ヴァレンヌ逃亡事件** : 国王の国外逃亡失敗→国王への国民の不信が強まる
- 9 1791年憲法の制定 : 男子制限選挙、立憲君主政

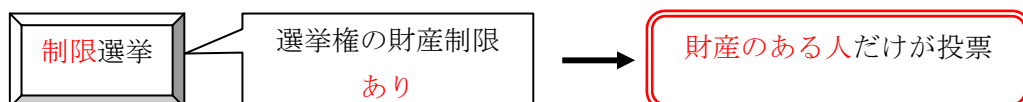
2) **立法議会 (1791.10-1792.9)** ←男子制限選挙

フイヤン派 立憲君主主義、上層市民

ジロンド派 穏和共和主義、中層市民

[1792年]

- 3 ジロンド派内閣の成立
- 4 **オーストリアに宣戦布告** : オーストリア・プロイセン連合軍が侵入
フランス各地から義勇兵がパリに集結 (軍歌「ラ・マルセイエーズ」成立)
- 8.10 義勇兵がテュイルリー宮殿を襲撃 (**8月10日事件**) →王権の停止
- 9.20 ヴァルミーの戦い : フランス革命軍がプロイセンに勝利



75. フランス革命(2) (国民公会、総裁政府)

② フランス革命 (つづき)

3) 国民公会 (1792. 9-1795. 10) ←男子普通選挙

ジロンド派 穏和共和主義、中層市民

ジャコバン派 (山岳派) 急進共和主義、下層市民

《指導者》マラー、ロベスピエール、ダントン

[ジロンド派内閣]

1792年 9 第1共和政の成立

1793年 1 ルイ 16世の処刑

2 第1回対仏大同盟^{たいふつだいていどうめい} : イギリス首相ピット中心のフランス包囲網

[ジャコバン派独裁] ←1793年 6月、ジャコバン派がジロンド派を議会から追放

- ・ **ロベスピエール**が公安委員会を中心に権力を握る
- ・ 1793年憲法 : 男子普通選挙→実施されず
- ・ **封建地代の無償廃止**
- ・ 最高価格令、メートル法、革命暦 (共和暦)、徴兵制
- ・ **恐怖政治** : 反革命容疑者をギロチンにより処刑

1794年 7 **テルミドールのクーデタ**→ジャコバン派独裁の終了

[テルミドール派 (穏健共和主義) の政権]

- ・ 1795年憲法 : 男子制限選挙

4) 総裁政府 (1795. 10-1799. 11)

- ・ 弱体政権、反政府反乱あいつぐ (私有財産廃止を主張するバブーフの反乱)

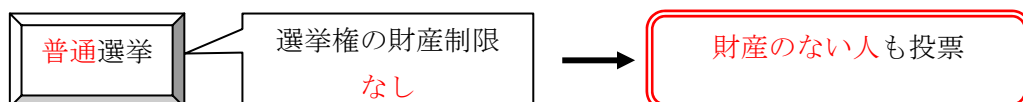
《軍人**ナポレオン・ボナパルト**の活躍》

1796年 イタリア遠征 : オーストリアに勝利

1798年 エジプト遠征 : イギリスと戦う

1799年 10 エジプトから帰国←**第2回対仏大同盟**の結成にそなえて

11 **ブリュメール 18日のクーデタ** : ナポレオンが総裁政府を倒す



76. ナポレオンの帝国

③ ナポレオンの帝国

1) 統領政府 (1799-1804 年)

1801 年 ローマ教皇との和解

1802 年 **アミアンの和約**：イギリスとの講和、休戦

1804 年 3 民法典 (**ナポレオン法典**)：私有財産の不可侵、法の前平等

2) 第 1 帝政 (1804-1814, 15 年)

1804 年 5 皇帝となる (ナポレオン 1 世)

1805 年 **第 3 回対仏大同盟**：イギリスとの戦争再開

トラファルガーの海戦：イギリス (ネルソン将軍) に敗北

アウステルリッツ 3 帝会戦：オーストリア・ロシア連合に勝利

1806 年 **ライン同盟** (西南ドイツ) の結成→神聖ローマ帝国の消滅

大陸封鎖令：大陸諸国にイギリスとの通商を禁止

1807 年 **ティルジット条約**：プロイセンから領土獲得

ワルシャワ大公国 (ポーランド) の成立

(プロイセンでシュタイン・ハルデンベルクが農奴解放などを実施)

1808 年 兄ジョセフがスペイン国王に→スペインで反乱

1810 年 ハプスブルク家の皇女と結婚

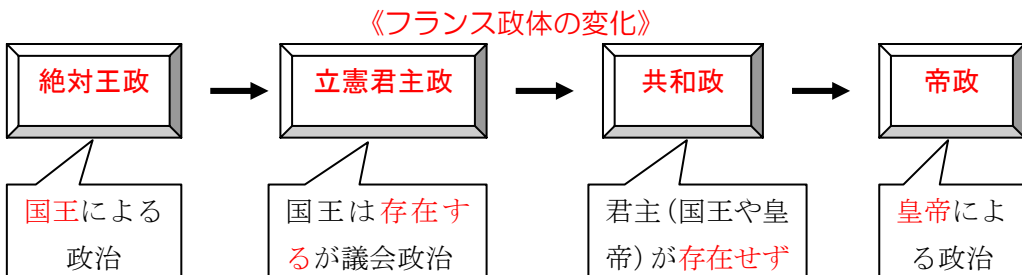
1812 年 **ロシア遠征**：失敗

1813 年 **ライプチヒの戦い** (諸国民戦争)：オーストリア・ロシア・プロイセン連合に敗北

1814 年 連合軍がパリ占領、ナポレオン退位→エルバ島 (地中海) へ流刑

1815 年 3 エルバ島を脱出しパリへ帰還、再び皇帝となる

6 **ワーテルローの戦い**：イギリス・プロイセン連合に敗北
セントヘレナ島 (南大西洋) へ流刑

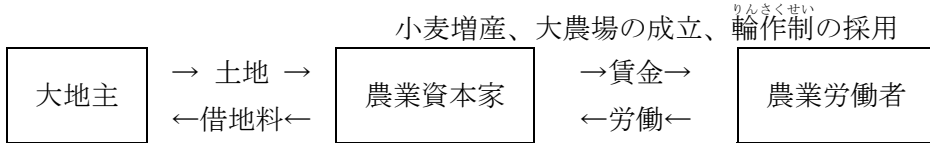


77. イギリスの産業革命

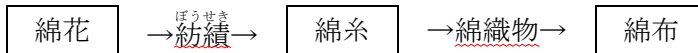
④ イギリスの産業革命 (18 世紀後半～) → 機械制工場生産の確立

○ 農業革命

- ・ **第2次囲い込み** (18 世紀) → 独立自営農民が土地を失い労働者となる



○ 綿工業の機械化



- ・ インド産綿布の人気 → マンチェスターを中心とした綿工業の発展
- ・ 綿花 (北アメリカなどから輸入)、綿布 (インドなどへ輸出)

1733 年 **ジョン・ケイ** : 飛び杼

1764 年 **ハーグリーブズ** : ジェニー (多軸) 紡績機

1769 年 **アークライト** : 水力紡績機

1779 年 **クロンプトン** : ミュール紡績機

1785 年 **カートライト** : ^{りきしよつき}力織機

○ 交通革命、重工業の成立

1769 年 **ワット** (蒸気機関の改良) → 1807 年 **フルトン** (蒸気船)

1814 年 **スティーヴンソン** (蒸気機関車)

綿工業の機械化 → 機械工業 → 鉄工業 → 石炭業

[軽工業] [重工業]

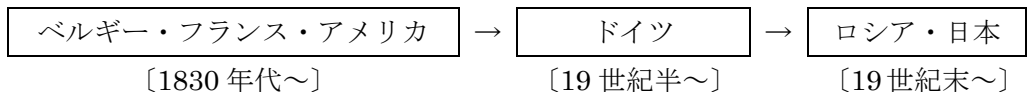
○ 資本主義の確立

資本家 (ブルジョワジー) …… 工場 (企業) の所有者・経営者

賃金 ↓ ↑ 労働

労働者 (プロレタリアート) …… 劣悪な労働条件 → 労働問題の発生

○ 他国の産業革命の開始



78. 労働運動と社会主義

⑤ 労働運動と社会主義

1) 産業革命の影響

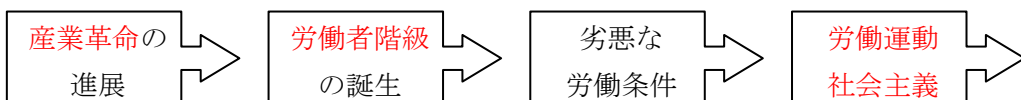
- 都市への人口集中、工業都市の成長→公害、劣悪な住環境
- 過酷な労働条件（低賃金・長時間労働など、特に女性・子ども）→労働問題
 - ・ イギリスの手工業者による機械打ちこわし（ラダイト）運動（1810年代）
 - ・ **工場法**（1833年、イギリス）：年少者の労働時間の制限

2) 社会主義：生産手段の社会化（共有化）により労働者の保護をめざす思想

- 空想的社会主義：資本家の善意による労働者の救済を期待
 - ・ **ロバート・オーウェン**（イギリス）：理想協同社会の建設を試みる
 - ・ **サン・シモン、フーリエ、ルイ・ブラン**（フランス）
- マルクス主義：労働者が国家権力を握り社会主義社会を実現
 - ・ **マルクス、エンゲルス**（ドイツ）：『**共産党宣言**』（1848年）
- 無政府主義：国家権力の否定による人間性の解放
 - ・ プルードン（フランス）、バクーニン（ロシア）

3) 労働運動の展開

- 労働組合：労働条件を改善するために労働者が結成
- 社会主義政党の成立（19世紀後）
 - ・ 社会民主党（ドイツ）、社会党（フランス）、労働党（イギリス）など
- 社会主義運動の国際的連帯
 - 1864-76年 **第1インターナショナル**（本部ロンドン）
 - ・ マルクス（マルクス主義）⇔ バクーニン（無政府主義）の対立
 - 1889-1914年 **第2インターナショナル**（中心政党はドイツ社会民主党）
 - ・ 第1次世界大戦の開始により崩壊



79. ウィーン体制

① **ウィーン体制** : フランス革命を否定する保守体制、革命・民族運動を弾圧

1) 成立

- ウィーン会議 (1814-15年)
 - ・ 議長**メッテルニヒ** (オーストリア外相、のち宰相)
 - ・ **正統主義** : フランス革命前の王朝が正統 (フランス外相タレーランの主張)
 - ・ **神聖同盟** (1815年) : ロシア (皇帝アレクサンドル1世) 中心、各国君主参加
 - ・ **4国同盟** (1815年) : イギリス、ロシア、プロイセン、オーストリア
フランス参加 (1818年) → 5国同盟
- ウィーン議定書 (1815年)
 - ・ フランス、スペイン、ナポリ→ブルボン朝
 - ・ ポーランド国王→ロシア皇帝が兼任
 - ・ セイロン島、ケープ植民地→イギリス領
 - ・ ベルギー→オランダ領
 - ・ 北イタリア (ロンバルディア、ヴェネツィア) →オーストリア領
 - ・ プロイセン領拡大、**ドイツ連邦**の成立
 - ・ スイス→永世中立国

2) 動揺

- ヨーロッパでの自由主義運動 (1820年代) ←鎮圧される
 - ・ 学生組合ブルシェンシャフト (ドイツ)、秘密結社カルボナリ (イタリア)、立憲革命 (スペイン)、デカブリストの乱 (ロシア) など
- **ラテンアメリカ**諸国の独立 (1810-20年代)
 - ・ フランス領ハイチの独立 (1804年) →黒人共和国の成立
 - ・ **シモン・ボリバル**、サン・マルティン、イダルゴらが独立運動の指導者
 - ・ **クリオーリョ** (植民地生まれの白人) が独立運動の中心
 - ・ カニング外相 (イギリス) は独立支持
 - ・ **モンロー教書** (1823年) : モンロー大統領 (アメリカ合衆国) がアメリカ大陸とヨーロッパとの相互不干渉を主張
- **ギリシア**がオスマン帝国から独立 (1821-29年 独立戦争、1830年 独立承認)
 - ・ イギリス、フランス、ロシアが独立支持

80. 19世紀のフランス

② 19世紀のフランス

1) **復古王政 (1814-30年)** ブルボン朝：貴族・聖職者を保護する反動政治
・ ルイ 18 世、**シャルル 10 世** (アルジェリア出兵)

2) **7月王政 (1830-48年)** オルレアン朝：立憲君主政、制限選挙、大資本家中心
1830年7月 **7月革命**→シャルル 10 世亡命、新国王**ルイ・フィリップ**
・ 産業革命の進展→労働者階級の成長
〔7月革命の影響〕 ベルギーがオランダから独立

3) **第2共和政 (1848-52年)**：共和政、普通選挙、中小資本家中心
1848年2月 **2月革命** (選挙権を求める中小資本家と労働者の革命)
臨時政府：中小資本家と労働者 (ルイ・ブラン入閣) の連立政権
4月 総選挙：共和派 (中小資本家) 〔勝〕 vs. 社会主義派 (労働者) 〔負〕
6月 6月暴動 (パリで労働者が暴動) ←臨時政府が鎮圧
12月 **ルイ・ナポレオン**が大統領に
〔2月革命の影響〕 →1848年革命、「**諸国民の春**」
・ ウィーンの3月革命：メッテルニヒ亡命、ウィーン体制崩壊
・ ベルリンの3月革命
・ ハンガリー、ベーメン、イタリアの民族運動

4) **第2帝政 (1852-70年)**

1852年 ルイ・ナポレオンが皇帝となる (**ナポレオン 3世**)
・ 対外戦争：クリミア戦争、アロー戦争、イタリア統一戦争、インドシナ出兵、メキシコ遠征

5) **第3共和政 (1870-1940年)**

1870-71年 **プロイセン・フランス戦争**：プロイセン 〔勝〕 vs. フランス 〔負〕
1870年9月 臨時政府 (ヴェルサイユ)：共和派 (資本家)、首班ティエール
1871年3月 **パリ・コミュン** (パリ)：社会主義派 (労働者) の革命政権
5月 臨時政府がパリ・コミュンを鎮圧
1875年 共和国憲法

81. 19世紀のイギリス

③ 19世紀のイギリス

1) 19世紀前半：自由主義の確立

1828年 審査法の廃止

1829年 **カトリック教徒解放法**：カトリック教徒も公職に就ける
・ オコンネルらアイルランド人（カトリック教徒）の運動により実現

1832年 **第1回選挙法改正**：資本家が選挙権獲得、腐敗選挙区の廃止

1833年 **工場法**：児童の労働時間を制限

1837-48年 **チャーチスト運動**：男性普通選挙を求める労働者の運動

・ **人民憲章**（6か条）を労働者が議会へ提出

1846年 **穀物法**（輸入穀物に高関税をかけ地主を保護）の**廃止**

・ コブデン、ブライトらの反穀物法同盟の運動により実現

1849年 **航海法の廃止**→自由貿易の確立

2) 19世紀後半：ヴィクトリア女王時代の繁栄

○ 自由主義から帝国主義へ

1850-75年	「世界の工場」イギリス	自由貿易	小英国主義	平和外交
↓	↓	↓	↓	↓
1875年～	ドイツ・アメリカの経済成長	保護貿易	大英国主義	軍事進出

○ 国内政治

・ 二大政党：トーリー党→保守党（地主の支持）、党首**ディズレーリ**
ホイッグ党→自由党（資本家の支持）、党首**グラッドストーン**

1867年 **第2回選挙法改正**：都市労働者が選挙権獲得

1884年 **第3回選挙法改正**：農業労働者が選挙権獲得

1870年 教育法：初等教育の整備

1871年 労働組合法：労働組合の合法化

○ 植民地支配

・ 白人植民地→自治権を与える間接支配：カナダなど
・ 非白人植民地→軍事力による直接支配：インドなど

82. 19世紀のイタリア

④ 19世紀のイタリア

1815年 ウィーン議定書：オーストリアがロンバルディア、ヴェネツィアを支配

1) 統一運動の失敗

1820-21年 カルボナリの革命←オーストリアが鎮圧

1848-49年 「**青年イタリア**」(共和主義、指導者**マッツィーニ**) がローマ共和国を建国←フランスが鎮圧

2) サルデーニャ王国の統一運動

・ 立憲君主主義、国王**ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世**、首相**カヴール**

1853-56年 クリミア戦争に参加→フランスに接近

1859年 イタリア統一戦争：サルデーニャ・フランス vs.オーストリア

・ サルデーニャがロンバルディアを獲得 (ヴェネツィアはオーストリア領)

1860年 サルデーニャがサヴォイア、ニースをフランスに割譲かつじょう

1860年 サルデーニャが中部イタリアを併合

3) 統一の完成

1860年 「青年イタリア」の**ガリバルディ**がシチリア島、ナポリ王国を占領
→この土地をサルデーニャ国王に献上

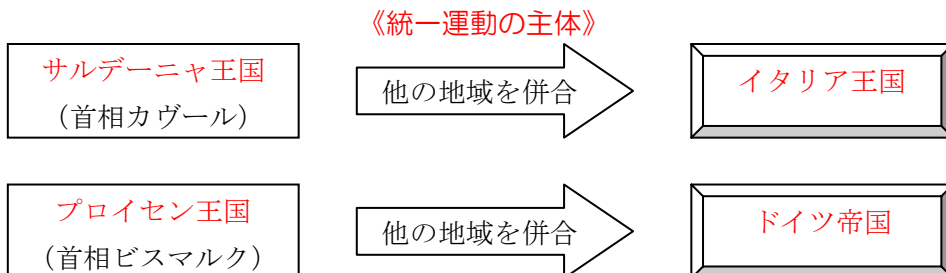
1861年 **イタリア王国**の成立：サルデーニャ国王がイタリア国王に

1866年 イタリア王国がヴェネツィアを併合←プロイセン・オーストリア戦争

1870年 イタリア王国がローマ教皇領を占領←プロイセン・フランス戦争

※ トリエステ、南チロル (「未回収のイタリア」) はオーストリア領に残る

※ イタリア王国政府とローマ教皇庁 (ヴァチカン) との対立は続く



83. 19世紀のドイツ

⑤ 19世紀のドイツ

1) 統一運動の始まり

1834年 **ドイツ関税同盟**：経済的統一（オーストリアを除く）

1848年 **フランクフルト国民議会**：プロイセン中心の小ドイツ主義での統一へ

2) プロイセン王国による統一：国王**ヴィルヘルム1世**

1862年 首相**ビスマルク**の就任：「**鉄血政策**」（軍事力）による統一推進

1864年 デンマーク戦争：シュレスヴィヒ、ホルシュタインを獲得

1866年 **プロイセン・オーストリア戦争**：オーストリアを破る

1867年 **北ドイツ連邦**の成立（オーストリアと南西ドイツを除く）

1870-71年 **プロイセン・フランス戦争**：アルザス、ロレーヌを獲得

1871年 **ドイツ帝国**の成立（オーストリアを除く、南西ドイツを含む）

- ・ ドイツ皇帝ヴィルヘルム1世、ドイツ宰相ビスマルク

3) **オーストリア・ハンガリー帝国**の成立（1867年）

- ・ 妥協（アウスグライヒ）によりハンガリー人に自治権を与える

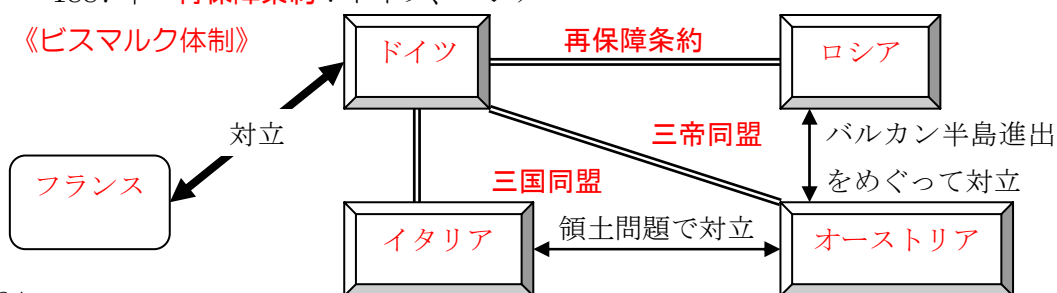
4) **ビスマルク時代のドイツ帝国**（1871-90年）

- ・ 外見的立憲主義（帝国議会は弱体、皇帝権力は強大）
- ・ **文化闘争**（1871-80年）：南西ドイツのカトリック勢力（中央党）との対立
- ・ 労働者の社会保険（災害保険・疾病保険・養老保険）
- ・ 労働運動の弾圧（1878年 **社会主義者鎮圧法**→社会民主党を弾圧）
- ・ 保護関税による国内産業保護
- ・ フランスを孤立させる外交（ビスマルク体制）

1873年 **三帝同盟**：ドイツ、オーストリア、ロシア

1882年 **三国同盟**：ドイツ、オーストリア、イタリア

1887年 **再保障条約**：ドイツ、ロシア



84. 19世紀のロシア

⑥ 19世紀のロシア

1) 改革運動 ⇔ 皇帝支配 (ツァーリズム)

1825年 デカブリストの乱←皇帝ニコライ1世が鎮圧

1861年 **農奴解放令** (農民は有償で土地取得) : 皇帝**アレクサンドル2世**が発布

1863年 ポーランドの独立運動←皇帝アレクサンドル2世が鎮圧

1870年代 **ナロードニキ** (人民主義者) の運動

- ・ 農村共同体 (ミール) を基礎とした社会主義の建設をめざす運動
- ・ 知識人階級 (インテリゲンツィア) が中心
- ・ 「ヴ・ナロード (人民の中へ)」 : 知識人が農村に入り農民とともに暮らす
- ・ テロリズム (暴力主義)、ニヒリズム (虚無主義) を生む

2) 東方問題 : バルカン半島 (オスマン・トルコ領) への南下をめざすロシア それに反対するイギリス、オーストリア

1831-33、39-40年 **エジプト・トルコ戦争** (ロシアはトルコ側につく)

- ・ ロシアがボスフォラス・ダーダネルス両海峡を通行することをイギリスが阻止

1853-56年 **クリミア戦争**

- ・ ロシア [負] vs. オスマン・トルコ、イギリス、フランス、オーストリア、サルデーニャ [勝]
- ・ **パリ条約** (1856年) : ボスフォラス・ダーダネルス両海峡と黒海の中立化
- ・ ナイティンゲールの看護活動 → 1864年 赤十字社
- ・ バルカン半島をめぐるロシアとオーストリアの対立

パン・スラヴ主義 → スラヴ系民族の統一をめざすロシア

パン・ゲルマン主義 → ゲルマン系民族の統一をめざすオーストリア

1877-78年 **ロシア・トルコ戦争** : ロシア [勝] vs. オスマン・トルコ [負]

[**サン・ステファノ条約** (1878年)]

- 1) ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立
- 2) 大ブルガリアの成立

[**ベルリン条約** (1878年)] ←ビスマルク (独) がベルリン会議を開き、サン・ステファノ条約を破棄

- 1) ルーマニア、セルビア、モンテネグロの独立
- 2) 大ブルガリアの領土縮小
- 3) オーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナの統治権を獲得
- 4) イギリスがキプロス島を領有

85. 19世紀のアメリカ合衆国

⑦ 19世紀のアメリカ合衆国

1) 民主主義、工業化

- 1800年 第3代大統領 **ジェファソン** (反連邦派)
 1812-14年 **アメリカ・イギリス戦争** (米英戦争) → 米の木綿工業の発展
 1828年 第7代大統領 **ジャクソン** : 西部出身、^{りょうかん} 獵官制度
 ・ ジャクソン派 → **民主党**
 ・ 反ジャクソン派 → ホイッグ党 → **共和党** (1854年、奴隷制廃止論)

2) 領土拡大 (フロンティアの西進)

- ・ ルイジアナ (1803年、フランスから)、フロリダ (1819年、スペインから)、
 テキサス (1845年、メキシコから)、アラスカ (1867年、ロシアから)
 ・ 「明白な天命 (マニフェスト・デスティニー)」を唱えて領土拡張
 1830年 強制移住法 : アメリカ先住民 (インディアン) を保留地へ
 1846-48年 **アメリカ・メキシコ戦争** : カリフォルニアなどを獲得
 1848年 カリフォルニアで金鉱発見 → ゴールドラッシュ
 1869年 **大陸横断鉄道**

3) 奴隷制度と南北戦争

北部	<u>資本主義工業</u>	<u>保護貿易</u>	<u>奴隷制廃止論</u>	連邦主義
南部	<u>奴隷制プランテーション (綿花)</u>	<u>自由貿易</u>	<u>奴隷制維持論</u>	州の自治

- 1820年 ミズーリ協定 : 自由州と奴隷州を北緯 36度 30分で線引き
 1854年 カンザス・ネブラスカ法 : 自由州か奴隷州かを住民意思で決定
 1860年 **リンカン** (共和党) が大統領に当選
 1861-65年 **南北戦争**

北部	自由州	アメリカ合衆国	リンカン大統領	グラント将軍
南部	奴隷州	アメリカ連合国	デヴィス大統領	リー将軍

- 1862年 合衆国政府が **ホームステッド法** を制定 : 西部農民に土地を無償付与
 1863年 合衆国政府が **奴隷解放宣言** を発表
 北軍が **ゲティスバーグの戦い** に勝利
 1865年 南軍が降伏 → 合衆国の南北統一

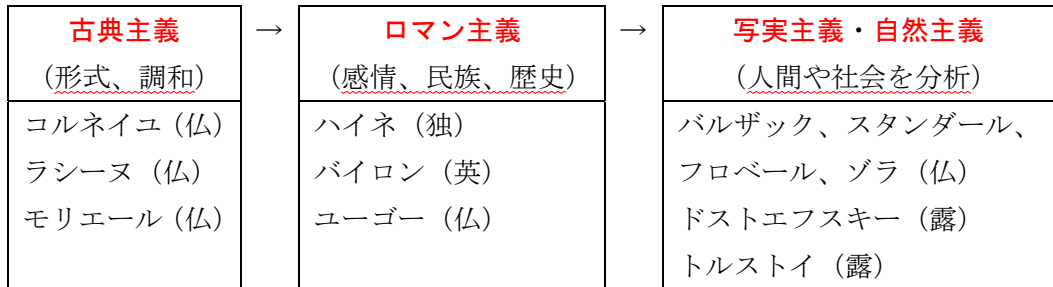
4) 戦後の南部

- ・ 黒人の公民権を制限
 ・ 黒人は ^{ぶんえき こきくにん} 受益小作人 (**シェア・クロッパー**) に

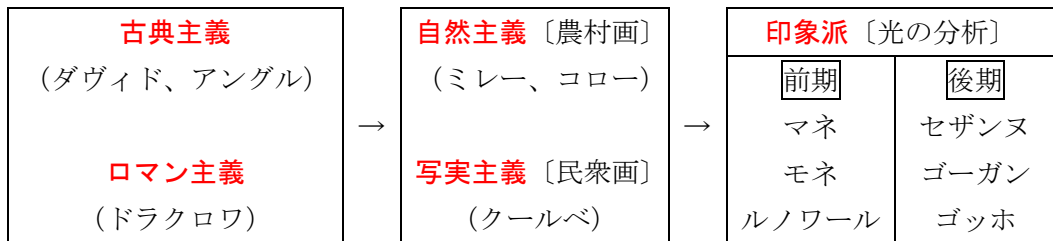
86. 19世紀の欧米文化

⑧ 19世紀の欧米文化

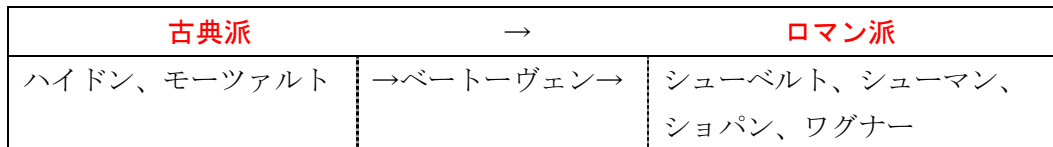
1) 文学



2) 美術 (仏が中心)



3) 音楽 (独・オーストリアが中心)



4) 学問

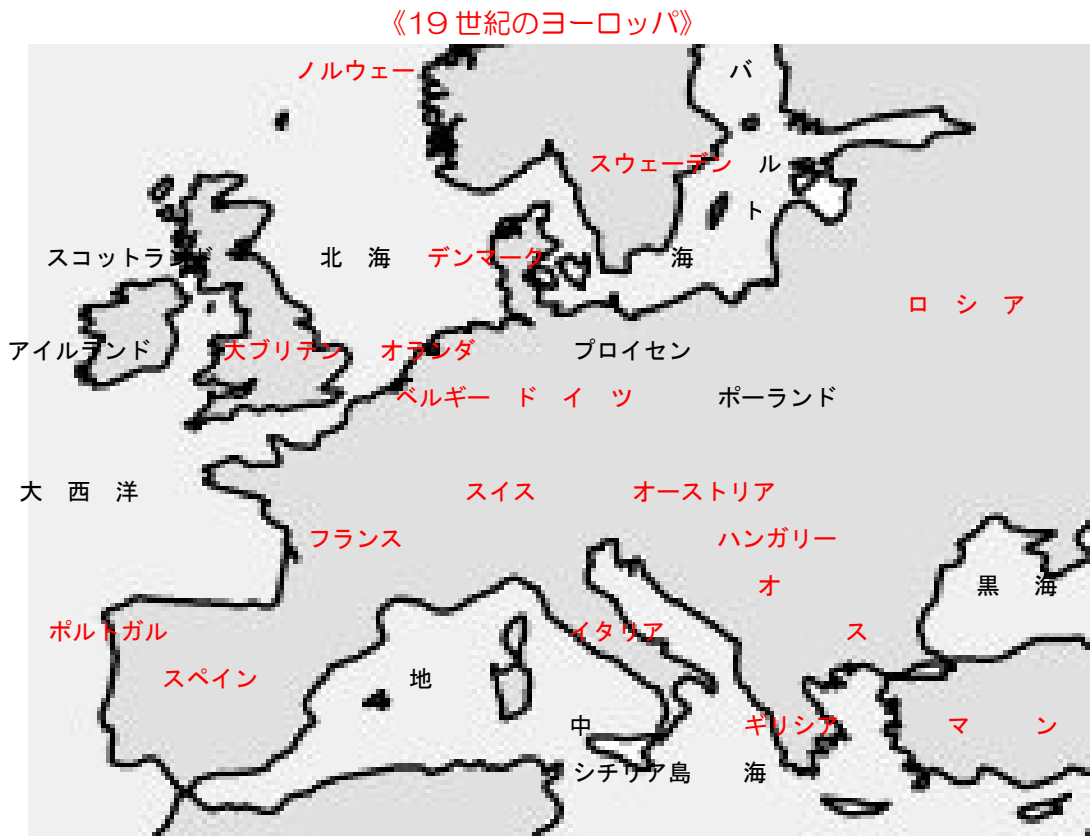
○ 哲学

- ・ **ドイツ観念論** (独) : カント [批判哲学] → ヘーゲル [弁証法]
- ・ **弁証法的唯物論** (独) : マルクス [社会主義、『資本論』]
- ・ **実存主義** (デンマーク) : キェルケゴール
- ・ **功利主義** (英) : ベンサム「最大多数の最大幸福」、ミル、スペンサー
- ・ **実証主義** (仏) : コント [社会学を創始]

○ 経済学

- ・ **古典学派経済学** (英) : アダム・スミス [自由放任]、マルサス [人口論]、リカード [自由貿易]
- ・ 歴史学派 (独) : リスト [保護貿易]

- 近代史学（独）：ランケ〔実証的〕
- 歴史法学（独）：サヴィニー〔民族固有の法〕
- 物理学：マイヤー、ヘルムホルツ（独）〔エネルギー保存の法則〕
 ファラデー（英）〔電磁誘導の法則〕
 レントゲン（独）〔X放射線〕
 キュリー夫妻（仏）〔ラジウム〕
- 化学：リービヒ（独）〔有機化学の元素分析法〕
- 医学：パストゥール（仏）、コッホ（独）〔細菌学〕
- 生物学：ダーウィン（英）〔進化論『種の起源』〕
 メンデル（奥）〔遺伝法則〕
- 発明：（米）モールス〔電信〕、ベル〔電話〕、エディソン〔電灯、映画〕
 （伊）マルコーニ〔無線〕
 （スウェーデン）ノーベル〔ダイナマイト〕



第 11 章 アジア諸地域の動揺

～ 西アジア、南アジア、東南アジア ～

87. オスマン帝国の衰退、カージャール朝イラン

① オスマン帝国の衰退

1) アラブ人の独立運動

[エジプト]

1805 年～ **ムハンマド・アリー**が総督として近代化改革

1831-33、39-40 年 エジプト・トルコ戦争→エジプト勝利

1869 年 **スエズ運河**の開通 (フランス人レセップスの工事)

1875 年 スエズ運河の株式をイギリスが買収→イギリス支配が進展

1870 年代 **アフガニー**のパン・イスラーム主義が広まる

1881-82 年 **ウラービー**の反乱←イギリスが鎮圧しエジプトを保護国に

[アラビア半島]

1744-1818、1823-89 年 **ワッハーブ王国** (後のサウジアラビア王国)

・ 豪族サウード家がワッハーブ派 (「預言者ムハンマドに戻れ」と説く) と協力

2) バルカン半島の領土縮小

1683 年 第 2 次ウィーン包囲→失敗

1699 年 カルロヴィッツ条約：ハンガリー、トランシルヴァニアをオーストリアに割譲

・ ギリシア独立 (1829 年)、ロシア・トルコ戦争 (1877-78 年) での敗北

3) オスマン・トルコの改革

1839-76 年 **タンジマート**：**アブデュル・メジド 1 世**の近代化改革

1876 年 **ミドハト憲法**の発布

1878 年 ミドハト憲法の停止→**アブデュル・ハミト 2 世**によるスルタン専制

1908 年 **青年トルコ** (「統一と進歩委員会」) **革命**→ミドハト憲法の復活

② カージャール朝イラン (1796-1925 年) → ロシア、イギリスの支配拡大

1828 年 トルコマンチャーイ条約：ロシアがアルメニア領有、^{ちがいはうけん}治外法権を獲得

1848 年 **バーク**教徒の反乱

1891 年 **タバコ・ボイコット運動**：イラン人がイギリスのタバコ専売利権に反発

1906 年 **立憲革命**←イギリス・ロシアが介入し挫折

1911 年 ロシアが議会閉鎖

88. イギリス支配下のインド

③ イギリス支配下のインド

1) イギリス支配の拡大

1767-99年 **マイソール戦争**→南インドを支配

1755-1818年 **マラータ戦争**→西インドを支配

1845-49年 **シク戦争**→西北インドを支配

[貿易の変化]

	イギリス		インド
～18世紀末	インドから綿織物を <u>輸入</u>	産業革命前	綿工業が <u>発達</u>
19世紀初～	インドに綿織物を <u>輸出</u>	産業革命後	綿工業が <u>破壊</u>

[租税制度]

- ・ **ザミンダリー制**：地主を納税義務者とする（ベンガル州）
- ・ **ライヤットワリー制**：耕作者を納税義務者とする（南インド）

2) 植民地支配の完成

1813年 東インド会社の貿易独占廃止（茶を除く）

1833年 東インド会社の商業活動禁止→東インド会社は純粋な統治機関に

1857-59年 **シパーヒー**（東インド会社のインド人^{ようへい}傭兵）の**反乱**←鎮圧される

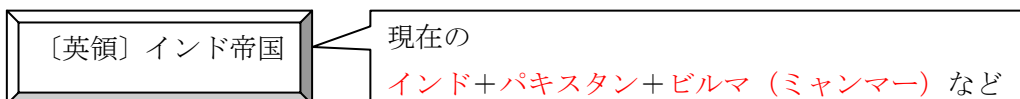
1858年 ムガル帝国の滅亡、東インド会社解散→イギリス政府の直接支配に

1877年 **インド帝国**の成立

- ・ インド皇帝はイギリスのヴィクトリア女王、^{ちよつかつりよう}直轄領 + ^{ほんおうこく}藩王国

3) インド周辺地域の支配

- ・ ビルマ（ミャンマー）：インド帝国領←**ビルマ戦争**（1824-86年）
- ・ アフガニスタン：イギリスの保護国←**アフガン戦争**（1838-42、78-80年）
- ・ ペナン、マラッカ、シンガポール：**海峡植民地**（1826年）
- ・ マレー半島、北ボルネオ：**マレー連合州**（1895年）



89. 東南アジア、中央アジア

④ 東南アジアの植民地化

1) インドネシア：オランダ領東インド

18世紀半 オランダがジャワ島を占領

1825-30年 ジャワ戦争：ジャワ島住民〔負〕 vs. オランダ〔勝〕

強制裁培制度を導入（～1860年代）

20世紀初 オランダがスマトラ島、ボルネオ島を占領

2) フィリピン：スペイン領、カトリック

1834年 マニラを開港→砂糖、マニラ麻など商品作物生産

3) インドシナ半島（ベトナム、カンボジア、ラオス）：フランス領

1802年 **阮朝**：^{げん}阮福暎がベトナムを統一、清の属国に

1863年 フランスがカンボジアを保護国に

1867年 フランスがコーチシナ（南部ベトナム）を獲得

^{りゅうすいふく}劉永福の**黒旗軍**がフランスに抵抗

1883年 ユエ条約：フランスがベトナム全土を保護国に

1884-85年 **清仏戦争**：清〔負〕 vs. フランス〔勝〕

1885年 ^{テンシン}天津条約：清はフランスのベトナム保護権を承認

1887年 **フランス領インドシナ連邦**の成立

1893年 フランスがラオスを保護国に

4) タイ：独立国、ラタナコーシン朝（チャクリ）朝（1782年～現在）

- ・ **ラーマ5世（チュラロンコン）**：近代化政策

⑤ 中央アジア：ロシア領の拡大

- ・ ブハラ・ハン国：ロシアの保護国に
- ・ ヒヴァ・ハン国：ロシアの保護国に
- ・ コーカンド・ハン国：ロシアが併合

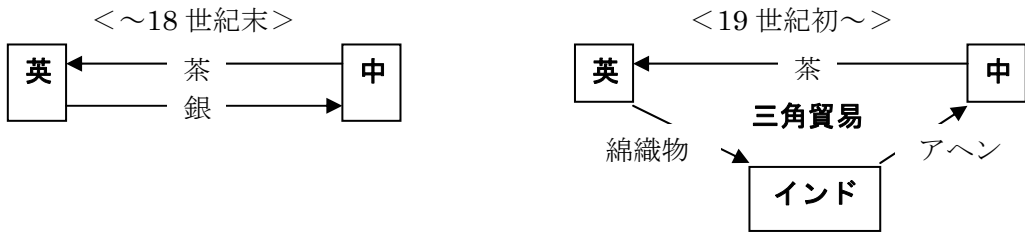


90. アヘン戦争

① 中国の半植民地化

17世紀半～18世紀末 清の最盛期（康熙帝、雍正帝、乾隆帝）
 1796-1804年 **白蓮教徒の乱**（農民反乱）→清の衰退の始まり

1) アヘン戦争（1840-42年）



〔中国〕 広州のみが貿易港（1757年～）、公行（コホン）による貿易独占
 〔イギリス〕 自由貿易を求める（マカートニー、アマーストを派遣）

1820年代～ 中国のアヘン輸入増、銀の国外流出増

1839年 **林則徐**が広州でアヘン密貿易の取締を強化

1840-42年 **アヘン戦争**：イギリス〔勝〕 vs. 清〔負〕

1842年 **南京条約**（英・清）

- 1) **香港**をイギリスに割譲
- 2) 上海、寧波、福州、厦門、広州の5港開港
- 3) 公行の廃止
- 4) 賠償金の支払

1843年 五港通商章程、虎門寨追加条約（英・清）：**不平等条約**

- 1) イギリスに領事裁判権、最恵国待遇を認める
- 2) 中国が関税自主権を失う

1844年 **望厦条約**（米・清）、**黄埔条約**（仏・清）

・ アメリカ、フランスにイギリスと同権利を認める

領事裁判権の承認

中国国内のイギリス人は中国の裁判権には服さず、
イギリス人領事が裁判をする

91. アロー戦争、太平天国、同治の中興

① 中国の半植民地化 (つづき)

2) アロー戦争 (1856-60 年)

1856 年 アロー号事件、フランス人宣教師殺害事件

1856-60 年 **アロー戦争** : イギリス・フランス [勝] vs. 清 [負]

1858 年 **天津条約** (英仏・清) : 清が批准書の交換を拒否→戦争再開

1860 年 **北京条約** (英仏・清)

- 1) 外国公使の北京駐在
- 2) 天津など 11 港開港
- 3) 外国人の中国旅行の自由
- 4) キリスト教の布教の自由
- 5) イギリスに九竜半島の南端を割譲

→清は**総理各国事務衙門**を設置して外交交渉

→外国商品の中国流入が本格化、中国の失業者増、銀価上昇による生活苦

3) **太平天国の乱** (1851-64 年)

- ・ 指導者 **洪秀全** : 拜上帝会 (キリスト教的宗教結社) を組織
- ・ 広西省から挙兵、南京を首都に、「**滅満興漢**」を主張
- ・ 悪習 (纏足など) の廃止、男女平等、**天朝田畝制度** (土地均分)
- ・ 郷勇 (曾国藩の湘軍、**李鴻章**の淮軍)、**常勝軍** (ゴードン、ウォードら外国軍) により鎮圧される

4) **同治の中興** (1861-74 年)

- ・ 同治帝の時代の復興
- ・ **洋務運動** : 列強との協調、西欧技術の導入による再建をめざす
- ・ **中体西用** : 西洋技術を用いつつ中国の**皇帝独裁**を維持
- ・ 曾国藩、李鴻章、左宗棠ら漢人官僚が中心

洋務運動 (1861-74 年)

皇帝独裁を維持したまま西洋技術を導入しようとする (**中体西用**)

変法運動 (1898 年)

皇帝独裁を**立憲君主制**に変革することを試みる

92. 明治維新、日清戦争、ロシアの東進

② 日本の明治維新と朝鮮進出

1) 明治政府の成立 (1868年)

- ・ **ペリー**の来航→開国 (1854年 日米和親条約、1858年 **日米修好通商条約**)
- ・ **明治維新**→明治政府の成立 (1868年)
- ・ 大日本帝国憲法の発布 (1889年)、議会の開設 (1890年)
- ・ 樺太・千島交換条約 (1875年)、琉球領有 (1879年)

2) 李氏朝鮮と日清戦争 (1894-95年)

- ・ 李氏朝鮮 (1392-1910年) : 清が宗主国、鎖国

1875年 **江華島事件** : 朝鮮 [負] vs. 日本 [勝]

1876年 **日朝修好条規** (江華条約) (日・朝)

1) 日本に領事裁判権を認める

2) 釜山など3港開港

1882年 壬午軍乱 : 大院君 (鎖国派) vs. 閔氏 (開国派)

1884年 甲申政変 : **閔氏** (親清派) vs. **金玉均** (親日派)

1885年 天津条約 (日・清) : 日清両軍の朝鮮からの撤兵

1894年 **甲午農民戦争** (東学党の乱、指導者 **全琫準**) →日清両軍が出兵

1894-95年 **日清戦争** : 日本 [勝] vs. 清 [負]

1895年 **下関条約**

1) 朝鮮の独立

2) 清は日本に遼東半島、台湾、澎湖諸島を割譲

3) 清は日本に賠償金を支払

③ ロシアの東進

18世紀初 ベーリング : カムチャツカ半島、アラスカを探検

1792年 ラクスマン : 北海道 (根室) に来て日本に通商を要求

1858年 **アイグン条約** : ロシアが黒竜江 (アムール川) 以北を獲得
〔東シベリア総督ムラヴィヨフ〕

1860年 **北京条約** : ロシアが沿海州を獲得、ウラジヴォストーク港を建設

1881年 **イリ条約** ←イリ事件 (新疆省をめぐるロシア・清の対立)

19世紀半 ブハラ、ヒヴァ、コーカンドの3ハン国をロシアが支配

第12章 帝国主義とアジアの民族運動

～ 19世紀末-20世紀初の帝国主義国 ～

93. 帝国主義、イギリス

① 帝国主義

- 19世紀末～20世紀前、軍事力による領土拡大・植民地獲得をめざす政策
- 帝国主義国（列強）：英、仏、独、露、伊、米、日など
- **第2次産業革命**：石油・電力、重化学工業
- 独占資本主義：少数の大企業が市場を独占
 - ・ カルテル（企業連合）：企業間で販売価格を協定〔ドイツで進展〕
 - ・ トラスト（企業合同）：同業種の複数企業が1つに〔アメリカで進展〕
 - ・ コンツェルン（持株会社）：異業種の複数企業が1つに〔日本で進展〕
- 金融資本（銀行資本+産業資本）の成長
- 植民地分割をめぐる帝国主義国間の対立→世界大戦

② 帝国主義諸国の情勢

1) イギリス

- 帝国主義政策→世界最大の植民地支配国に
 - 1875年 **スエズ運河株買収** ← 保守党ディズレーリ首相
 - 1899-1902年 **南アフリカ戦争** ← 保守党**ジョセフ・チェンバレン**植民相
 - 社会主義政党の成立
 - ・ フェビアン協会（1884年）：バーナード・ショウ、ウェップ夫妻らが中心
 - ・ 労働組合法（1871年）：労働組合の合法化
 - ・ 労働代表委員会（1900年）→ **労働党**（1906年）
 - **議会法**（1911年）：下院の優越
 - アイルランド問題
 - 1914年 **アイルランド自治法**→実施延期
 - ・ **シン・フェイン党**：アイルランド独立を主張するアイルランド人の政党
 - ・ 北アイルランドのイギリス系住民：独立・自治法に反対
 - 1922年 自治領アイルランド自由国
 - 1937年 独立国エール：イギリス連邦に加盟
 - 1949年 独立国アイルランド共和国：イギリス連邦を脱退
- ※ 北アイルランド（アルスター）はイギリス領にとどまる



94. フランス、ドイツ、ロシア

② 帝国主義諸国の情勢 (つづき)

2) フランス

- ・ イギリスに次ぐ植民地支配国、第3共和政 (1875-1940年)
- ・ ロシアへの資本輸出→**露仏同盟** (1891-94年)

1887-89年 **ブーランジェ事件**：右翼のクーデタ未遂、失敗

1894-99年 **ドレフュス事件**：ユダヤ系軍人ドレフュス大尉が再審の上に無罪となった事件 (作家ゾラが再審を支持)

1905年 **社会党**の成立

3) ドイツ

- 皇帝**ヴィルヘルム2世**の親政←宰相ビスマルク辞職 (1890年)
 - ・ **世界政策**：対外進出を積極化
 - ・ 海軍拡張 (イギリスとの**けんかん**建艦競争)
- **社会民主党**←社会主義者鎮圧法の廃止 (1890年)により合法化
 - 〔右派〕**ベルンシュタイン**：修正主義 (議会を通じた改良)
 - 〔中間派〕カウツキー
 - 〔左派〕ローザ・ルクセンブルク、カール・リープクネヒト：社会主義革命

4) ロシア

1890年～ 産業革命←フランス資本の援助

- **ロシア社会民主労働党** (1898年成立)：マルクス主義 (労働者)
 - 〔メンシェヴィキ〕プレハーノフ：大衆政党による民主主義革命が先決
 - 〔ボリシェヴィキ〕レーニン：ぜんえい前衛政党による社会主義革命が可能
- **社会革命党**：ナロードニキ (農民)
- 立憲民主党：ブルジョワ自由主義
- 第1次ロシア革命 (1905年)
 - 1月 **血の日曜日事件**：軍が民衆 (指導者ガポン) に発砲
 - ソヴィエト** (労働者と兵士の評議会) が各地に成立
 - 10月 皇帝ニコライ2世の十月宣言：国会 (ドゥーマ) 開設を約束
- 首相**ストルイピン** (1906年～)：農村共同体 (ミール) の解体をめざす

95. アメリカ合衆国、メキシコ革命

② 帝国主義諸国の情勢 (つづき)

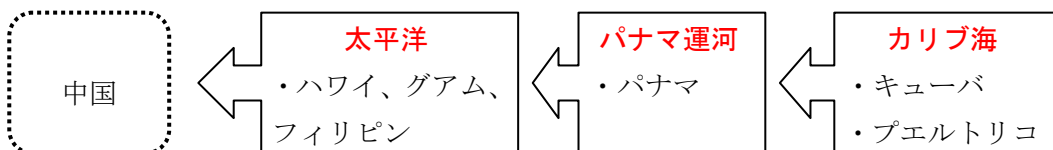
5) アメリカ合衆国

- 1886年 アメリカ労働総同盟 (AFL)
- 1889年 **パン・アメリカ会議** : 合衆国のアメリカ大陸での影響力増
- **マッキンリー**大統領 (共和党、任 1897-1901年)
- 1898年 **米西戦争** : アメリカ [勝] vs. スペイン [負]
- ・ アメリカが フィリピン、グアム を領有
 - ・ キューバ がスペインから独立 → アメリカの保護国 (1901年 プラット条項)
- 1898年 ハワイ を併合
- **セオドア・ローズヴェルト** 大統領 (共和党、任 1901-09年)
- ・ **革新主義** : 反トラスト法などの改革
 - ・ **棍棒外交** : 軍事力による カリブ海 支配
- **タフト** 大統領 (共和党、任 1909-13年)
- ・ **ドル外交** : 経済力によるカリブ海支配
- **ウィルソン** 大統領 (民主党、任 1913-21年)、「新しい自由」
- 1914年 パナマ運河 を完成させて支配

③ メキシコ革命

- 1821年 スペインより独立 ← イダルゴの蜂起
- 1860年代 フアレスの政治 : フランス (ナポレオン3世) の出兵を退ける
- 1877年 ~ **ディアス** の独裁政治 : 外資導入による近代化
- 1910-17年 **メキシコ革命** : **マデロ**、**サパタ** がディアス政権を倒す
- 1917年 メキシコ憲法の制定 (大統領制、民主的)

《アメリカ合衆国の対外進出》



96. アフリカ分割、太平洋諸地域の分割

① アフリカ分割 ← 1884-85年 **ベルリン会議** (コンゴ会議) の後に進展

- 1) **イギリス** : **3C政策** (ケープタウン、カイロ、カルカッタ) → アフリカ **縦断**
1882年 エジプトを保護国化 ← **ウラービーの反乱**を鎮圧
1899年 スーダンを征服 ← **マフディー派の抵抗**を鎮圧
1899-1902年 **南アフリカ戦争** (ブール戦争) : イギリス [勝] vs. ブール人 [負]
[ブール人 (オランダ系移民)]
 - ・ オレンジ自由国、トランスヴァール共和国を建国 (金・ダイヤモンドを産出)
[イギリス (ケープ植民地首相 **セシル・ローズ**)]
 - ・ オレンジ自由国、トランスヴァール共和国を戦争により併合1910年 南アフリカ連邦 (自治領)

- 2) **フランス** : アルジェリア、チュニジア、サハラ砂漠から東進 → アフリカ **横断**
1898年 **ファショダ事件** : イギリスとフランスがスーダンで衝突 → 仏が譲歩
1904年 **英仏協商** : 英のエジプト支配、仏の モロッコ支配を相互承認

- 3) **ドイツ** : カメルーン、タンガニーカなどを支配
1905年 第1次 **モロッコ事件** : ドイツ皇帝がタンジール港へ
1911年 第2次 **モロッコ事件** : ドイツ軍がアカディール港へ
→ モロッコ支配をめざすが、イギリスがフランスを支援したため失敗

- 4) **イタリア** : ソマリランド、エリトリア、リビアなどを支配
1896年 アドワの戦い : エチオピア [勝] vs. イタリア [負]
→ エチオピアは独立を保つ (アフリカでは エチオピア と リベリア のみ独立国)
1911-12年 イタリア・トルコ戦争 : リビア (トリポリ・キレナイカ) を獲得

② 太平洋諸地域の分割

- 1) **イギリス** : オーストラリア連邦 (1901年) → 先住民アボリジニーを圧迫
ニュージーランド自治領 (1907年) → 先住民マオリ人を圧迫
- 2) **ドイツ** : カロリン、マリアナ、マーシャル、パラオ、ビスマルク諸島

97. 中国分割、変法運動、義和団事件

③ 中国分割

1) 中国分割の進展 (1898-99年)

	租借地 (借りた土地)	勢力範囲 (利権を得た土地)
イギリス	威海衛、九竜半島 (1898年)	長江流域、広東省東部
フランス	広州湾 (1899年)	広西省、広東省西部
ドイツ	膠州湾 (1898年)	山東省
ロシア	遼東半島南部 (1898年)	東北地方、東清鉄道
日本	遼東半島南部 (1905年)	福建省

アメリカ: 国務長官 **ジョン・ヘイ** が中国の **門戸開放・機会均等・領土保全** (1899-1900年) を宣言

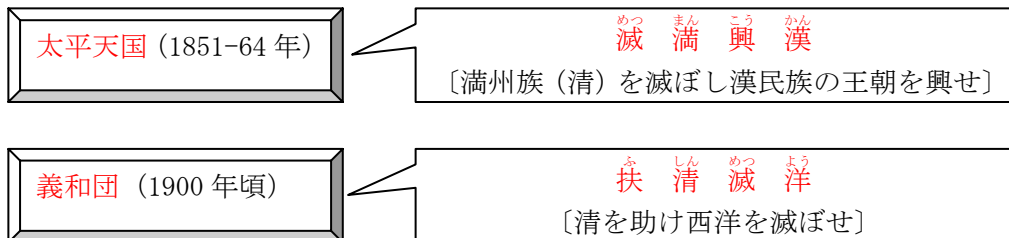
2) 変法運動 (1898年)

- ・ 立憲君主制をめざす近代化運動
 - ・ **康有為** (公羊学派儒学者)、**梁啓超**らが中心
 - ・ 光緒帝が改革を実行 (戊戌の変法)
- ↓
- ・ **西太后**ら保守派が変法運動を弾圧 (戊戌の政変) …改革失敗

3) 義和団事件 (1900-01年)

- ・ 背景: 外国勢力への民衆の反感、**仇教運動** (反キリスト教運動)
 - ・ 義和団: 山東省で排外運動を起こした宗教的武術集団、「**扶清滅洋**」を主張
- 1900-01年 **義和団事件**: 日・露など8カ国連合軍 [勝] vs. 義和団・清 [負]
- 1901年 **北京議定書** (辛丑和約): 外国軍隊の北京駐屯、賠償金支払

《2つのスローガン》



98. 日露戦争、日本の韓国併合

④ 日本の朝鮮支配

1) 日露戦争（1904-05年）

- ・ **大韓帝国**（1897年に国号を改称）の支配をめぐって日・露が対立
- ・ 仏は露を支持（1891-94年 露仏同盟）、英は日を支持（1902年 日英同盟）
- ・ 英仏は日露開戦前に協約を結ぶ（1904年 英仏協商）

1905年 **ポーツマス条約**←米大統領セオドア・ローズヴェルトが調停

- ・ 日本が次の権利を獲得
 - 1) 韓国に対する**監督権**
 - 2) 遼東半島南部（**旅順・大連**など）の租借権
 - 3) **南満州鉄道**（**長春**～**旅順**）の利権
 - 4) 北緯50度以南の**樺太**（サハリン）の領有権
 - 5) **沿海州**の漁業権

※ 戦後、日露・英露の関係改善（1907年 **日露協約**、**英露協商**）

2) 韓国併合（1910年）

1904年 第1次**日韓協約**：日本人顧問が韓国の**財政・外交**に関与

1905年 第2次**日韓協約**：日本の**統監**がソウルに常駐

1907年 第3次**日韓協約**：日本が韓国の**内政権**を奪い、韓国軍を解散

- ・ 反日**義兵闘争**が各地で高まる←日本軍による鎮圧
- ・ 統監の伊藤博文が**安重根**に暗殺される（1909年）

1910年 **韓国併合**：日本領となる（植民地化完成）、**朝鮮総督府**による支配



99. 辛亥革命

⑤ 辛亥革命 (1911年)

1) 諸勢力の動向

[清朝の改革 (光緒新政)]

- ・ 科举廃止 (1905年)、憲法大綱 (1908年)、責任内閣制 (1911年)

[軍閥] **袁世凱** (北洋軍閥を統率)

[帝国主義諸国 (外国資本)]

[民族資本 (中国人資本)]

- ・ 利権回収運動 (外国資本から鉄道・鉱山を買い取る運動) を展開

[清朝打倒の革命勢力]

1905年 **中国同盟会** : 興中会などの革命諸団体を統合、指導者 **孫文**

- ・ **三民主義** (民族独立、民権伸長、民生安定) を主張

2) 革命の勃発

1911年5月 清朝が幹線鉄道を国有化←民族資本家の反発

10月 **武昌** で革命派が蜂起、全国に拡大 (**辛亥革命**、第1革命)

1912年1月 **中華民国**を建国、首都 **南京**、臨時大総統 孫文

2月 **宣統帝** (**溥儀**) が退位 (清朝滅亡)

3月 袁世凱が臨時大総統になり **北京** で政権をとる

8月 孫文ら革命派は **国民党** を結成し袁世凱政権と対立

1913年7月 国民党の蜂起、失敗 (第2革命)

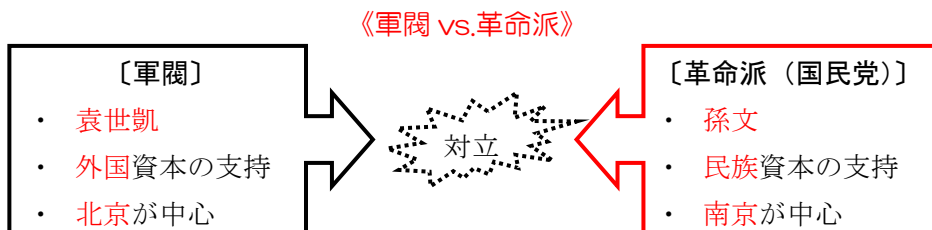
10月 袁世凱が正式大総統となり国民党を弾圧

1915年12月 袁世凱が帝政復活を宣言、それに反対する蜂起 (第3革命)

1916年3月 袁世凱が帝政復活を取消

6月 袁世凱が病死

※ その後も、軍閥 (袁世凱の後継者) と 革命派 (国民党) との対立は続く



第Ⅲ部

第13章 2つの世界大戦

～ 第1次世界大戦とロシア革命 ～

100. 第1次世界大戦の開始

① 第1次世界大戦 (1914-18年)

1) 大戦直前

- **三国同盟** (1882年) → **同盟国** (独、オーストリア、トルコ、ブルガリア)
 - ・ 独: **3B政策** (ベルリン、ビザンティウム [イスタンブル]、バグダード)
バグダード鉄道の建設 (西アジア進出→英との対立)
 - ・ オーストリア: パン・ゲルマン主義 (バルカン半島進出→露との対立)
 - ・ イタリア: 「未回収のイタリア」をめぐってオーストリアと対立
仏へ接近、三国同盟を離脱 (1902年 仏伊協商)
- **三国協商** (1907年 英仏露) + 日本 → **連合国** (英、仏、露、日、伊、米)
 - ・ **露仏同盟** (1891-94年): 独に対抗
 - ・ **英仏協商** (1904年): エジプトの英支配、モロッコの仏支配を相互承認
 - ・ **英露協商** (1907年): イランの勢力範囲を分割、アフガニстанは英支配
 - ・ **日英同盟** (1902年): 露の東アジア進出に対抗
 - ・ **日露協約** (1907年): 満州の勢力範囲を分割

2) バルカン問題 (「ヨーロッパの火薬庫」)

1908年 オーストリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナを併合

1912-13年 **バルカン戦争** (第1次、第2次)

- ・ 露支持のもと **バルカン同盟** (セルビア、モンテネグロ、ギリシア、ブルガリア) が結成される
- (第1次) バルカン同盟 [勝] vs. トルコ [負] → バルカン同盟内部の対立
- (第2次) セルビア・モンテネグロ・ギリシア・トルコ [勝] vs. ブルガリア [負]
→ トルコとブルガリアは独に接近

1914年6月28日 **サライエヴォ事件** (ボスニアの州都)

- ・ セルビア人青年がオーストリア帝位継承者夫妻を暗殺
- ・ 独=オーストリアの同盟、露=セルビアの同盟
- ・ オーストリアがセルビアに宣戦布告、独が露に宣戦布告 (7月28日)
→ **第1次世界大戦**の開始

101. ドイツ革命と第1次世界大戦の終了

① 第1次世界大戦 (つづき)

3) 大戦の経過

1914年8月 **タンネンベルクの戦い** : 独〔勝〕 vs. 露〔負〕 → 東部戦線は独優勢

9月 **マルヌの戦い** : 英・仏〔勝〕 vs. 独〔負〕

1916年 独がヴェルダン^{ようさい}要塞を攻撃、失敗

英・仏がソンムを攻撃、失敗 → 西部戦線は膠着化 (塹壕戦)

- ・ 総力戦 (軍需工場の優先、国民生活の統制など)
- ・ 植民地の人員・物資が戦闘に参加
- ・ 新兵器の開発 (飛行機、戦車、毒ガスなど)
- ・ 非戦闘員の犠牲が多

1917年2月 独が**無制限潜水艦作戦** (中立国の船も攻撃) を開始

4月 米が独に宣戦布告 → 連合国の優位が確定

11月 **ロシア革命** → 社会主義ソヴィエト政権の成立

1918年2月 米大統領**ウィルソン**が**十四ヶ条平和原則**発表

→ ヨーロッパ内民族自決、植民地問題の解決、国際平和機構の設立

3月 **ブレスト・リトフスク講和条約** (独・ソ) → 東部戦線は終結

4) ドイツ革命 (1918年)

1918年11月3日 **キール軍港**で水兵が反乱 (出撃命令を拒否)

9日 スパルタクス団がレーテ共和国 (ソ連型社会主義) を宣言

10日 ドイツ帝国が崩壊 (皇帝ヴィルヘルム2世は亡命)

社会民主党が臨時政府 (修正資本主義) を組織

11日 臨時政府が連合国と休戦協定 → 第1次世界大戦の終結

1919年1月 共産党 (スパルタクス団) の蜂起、失敗

→ 共産党指導者ローザ・ルクセンブルク、カール・リープクネヒトは殺害される

8月 **ヴァイマル憲法**の制定 (国民主権、普通選挙、社会権)

ヴァイマル共和国の成立、大統領**エーベルト** (社会民主党)



102. ロシア革命

② ロシア革命 (1917年)

1) 3月革命 (ロシア暦2月革命)

1917年3月8日 **3月革命** (ロシア暦2月革命)

- ・ 首都**ペトログラード**での労働者のスト
- ・ 皇帝ニコライ2世が退位 (ロマノフ朝の帝政崩壊)

○ 二重権力

臨時政府	資本家	立憲民主党、社会革命党右派	<u>戦争継続を主張</u>
ソヴィエト	労働者	ボリシェヴィキ、社会革命党左派	<u>即時講和を主張</u>

○ 『四月テーゼ』 (1917年4月)

- ・ **レーニン** (ボリシェヴィキの指導者) が帰国して発表
- ・ 「戦争の即時中止」、「全権力をソヴィエトへ」と主張

2) 11月革命 (ロシア暦10月革命)

1917年11月7日 **11月革命** (ロシア暦10月革命)

- ・ ボリシェヴィキ (レーニン、**トロツキー**ら)、社会革命党左派の武装蜂起
→ 臨時政府 (ケレンスキー首相) が倒れる

1917年11月8日 全ロシア・ソヴィエト大会

- ・ 「土地に関する布告」: 地主所有地の無償没収、小作農への分配
- ・ 「平和に関する布告」: 全交戦国に無併合・無賠償の平和を提案

1918年1月 憲法制定議会をボリシェヴィキが武力で閉鎖

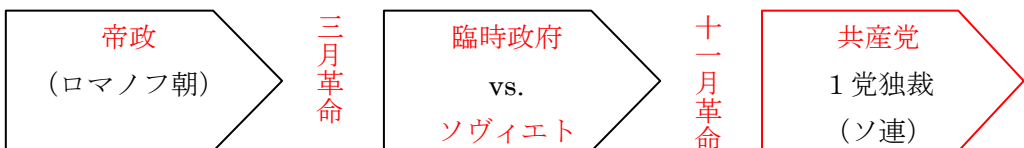
→ 共産党 (ボリシェヴィキ) の一党独裁 (プロレタリア独裁)

1918年3月 **ブレスト・リトフスク講和条約**: ドイツと講和を結び戦争終結

1919年 **コミンテルン** (第3インターナショナル): 各国共産党が参加

1922年 **ソヴィエト社会主義共和国連邦** (ソ連) の成立、首都**モスクワ**

- ・ ロシア、ベラルーシ、ウクライナなど各ソヴィエト政権が連邦国家を形成



103. ヴェルサイユ体制、国際連盟

① パリ講和会議 (1919年)

- ・ 米 (ウィルソン)、英 (ロイド・ジョージ)、仏 (クレマンソー) が中心
- ・ 対独復讐、植民地維持、ヨーロッパ内の民族自決
- ・ **ヴェルサイユ体制** : 第1次世界大戦後のヨーロッパの国際秩序
- **ヴェルサイユ条約** (1919年6月) : 対ドイツ
 - 1) 独は海外植民地をすべて放棄
 - 2) **アルザス・ロレーヌ**は仏領
 - 3) ラインラントの非武装化
 - 4) ポーランド回廊はポーランド領
 - 5) ダンツィヒは国際連盟の管理
 - 6) 独の軍備制限 (陸軍10万以下、空軍禁止など)
 - 7) 独は賠償金1320億金マルクの支払義務
- その他の条約
 - ・ サン・ジェルマン条約 (対オーストリア)、トリアノン条約 (対ハンガリー)、ヌイイ条約 (対ブルガリア)、セーヴル条約 (対オスマン・トルコ)
- 新独立国、領土変更
 - ・ オーストリア・ハンガリー帝国
 - 分割 (オーストリア/ハンガリー/チェコスロヴァキア)
 - ・ ロシア帝国の崩壊
 - ポーランド、フィンランド、エストニア、ラトヴィア、リトアニアが独立
 - ・ バルカン半島 (セルビア、クロアチア、スロヴェニア)
 - セルブ・クロアチア・スロヴェーン王国 (後の**ユーゴスラヴィア**) が成立
 - ・ オスマン・トルコ帝国
 - イラク、トランスヨルダン、パレスチナは英の委任統治
 - シリア、レバノン は仏の委任統治

② 国際連盟 : 1920年成立、本部 **ジュネーヴ**(スイス)

- ・ 米は不参加
- ・ 独・ソは当初は不参加 → 独は1926年加盟 (1933年脱退)
→ ソは1934年加盟 (1939年除名)
- ・ 常任理事国 : 英、仏、伊 (1937年脱退)、日 (1933年脱退)

104. 革命後のソ連

③ 革命後のソ連

1) 戦時共産主義 (1918-21年) : 列強との対立・戦争期

○ 内戦と干渉戦争

[内 戦] 赤軍 (革命政府軍) vs. 白軍 (反革命軍、旧地主など)

[干渉戦争] 赤軍 (革命政府軍) vs. 外国軍 (日・仏・英・米など)

- ・ 内外の反革命勢力がソヴィエト政権の打倒をめざすが、赤軍が勝利

○ ソヴィエト政権の統制経済 (戦時共産主義)

- ・ 工業の国家統制
- ・ 農民からの穀物の強制徴発→兵士・都市住民へ分配

2) 新経済政策 (ネップ) (1921-28年) : 列強との協調・平和期

○ 市場経済の復活

- ・ 中小企業の私的営業を認める→ネップマン (小資本家) の成長
- ・ 農民の生産物販売を認める→クラーク (富農) の成長

○ 列強がソ連を承認し国交を結ぶ

- ・ 1922年 独 (ラパロ条約)、1924年 英・伊・仏、1925年 日、1933年 米

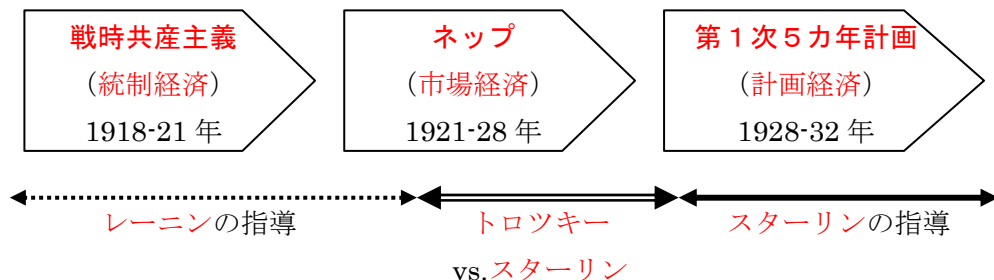
○ 共産党内の権力闘争

1924年 レーニン没

→スターリン [勝] vs. トロツキー [負]

(一国社会主義論) (世界革命論)

1929年 スターリンの権力確立 (トロツキーは国外追放)



105. アメリカ合衆国とワシントン体制

④ 1920年代のアメリカ合衆国

- ・ 経済繁栄（「永遠の繁栄」）
- ・ 債権国（英・仏が米に第1次世界大戦時の債務を返済）
- ・ 現代大衆文化（フォードの自動車、ラジオ、映画、スポーツなど）
- ・ 禁酒法
- ・ 移民法（1924年 アジア系移民禁止）などの人種差別

1) ハーディング大統領（共和党、任 1921-23年）

1921-22年 **ワシントン会議**

- ・ 米・英・日・仏・伊・中・オランダ・ポルトガル・ベルギーの9カ国
- ・ **四ヶ国条約**：太平洋の現状維持、日英同盟の破棄
- ・ **海軍軍備制限条約**：主力艦の保有トン数制限
[5（米）：5（英）：3（日）：1.67（仏）：1.67（伊）]
- ・ **九ヶ国条約**：中国の主権尊重・領土保全

※ **ワシントン体制**：第1次世界大戦後のアジア・太平洋の国際秩序

2) クーリッジ大統領（共和党、任 1923-29年）

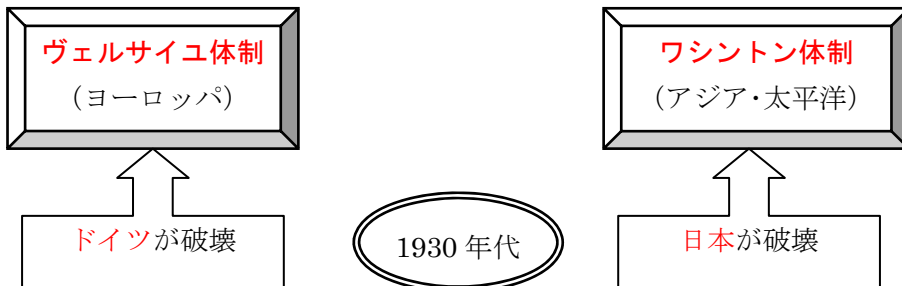
3) フーヴァー大統領（共和党、任 1929-33年）

- ・ 世界恐慌（1929年～）に有効な政策を打てず

1930年 **ロンドン会議**：補助艦の保有トン数制限 [10（米）：10（英）：7（日）]

1931年 フーヴァー・モラトリアム：賠償・戦債の支払の1年間停止を宣言

《第1次世界大戦後の国際秩序》



106. イギリス・フランス・ドイツ (1920年代の国際協調)

⑤ 1920年代のヨーロッパ

1) イギリス

1918年 **第4回選挙法改正**：男のみ普通選挙（男21歳～、女30歳～）

1928年 **第5回選挙法改正**：男女の普通選挙（男女21歳～）

・ 自由党の衰退→保守党と**労働党**の2大政党

○ **マクドナルド**労働党内閣（第1次 1924年、第2次 1929-31年）

2) フランス

○ ポワンカレ内閣（右派連合、1922-24年）：対独強硬

1923年 仏軍が**ルール工業地帯（独領）を占領**←独の賠償金不払を理由に

○ エリオ内閣（左派連合、1924-25年）：対独協調

○ **ブリアン**外相の協調外交

1925年 **ロカルノ条約**

・ 独国境の現状維持、紛争は仲裁裁判で

1928年 **不戦条約**（ブリアン・ケロッグ条約）

・ 紛争解決の手段としての戦争禁止、調印国（15ヶ国→63ヶ国）

3) ドイツ（ヴァイマル共和国 1919-33年）

○ 超**インフレーション**の進行（1919-23年）：物価が1兆倍に上昇

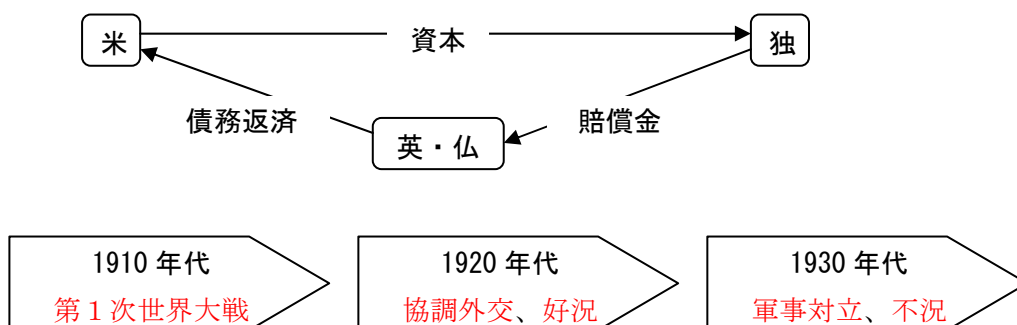
○ **シュトレゼマン**外相の協調外交（1923-29年）

1923年 新紙幣（ Rentenマルク）発行によりインフレを収束

1924年 **ドーズ案**：米の資本導入による独の経済復興

1929年 **ヤング案**：賠償金の減額（1320億金マルク→358億金マルク）

1932年 **ローザンヌ会議**：賠償金の減額（358億金マルク→30億金マルク）



107. 中国の国民党と共産党

⑥ 1920年代の中国

1) 文学革命：儒教道徳を批判する啓蒙運動（1915年～）

- ・ 陳独秀『新青年』、胡適：白話（口語）文学、魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』

2) 五・四運動（1919年5月4日）：北京での学生中心の反日運動

- ・ 二十一条要求（1915年 日本が山東省のドイツ利権を継承）がパリ講和会議で撤廃されず→北京大学生らが抗議

3) 第1次国共合作（1924-27年）：国民党と共産党の協力

1921年 中国共産党の成立←コミンテルン（本部モスクワ）の支援

1924年 第1次国共合作：国民党（孫文）と共産党（陳独秀）の協力

- ・ 国民党は「連ソ、容共、扶助工農」をかかげる

1925年3月 孫文没→国民党指導者は蔣介石（共産党を敵視、浙江財閥と結ぶ）

5月 五・三〇運動：上海での労働者中心の反日運動

7月 国民党が広東で国民政府を樹立

4) 北伐（1926-28年）：国民政府軍（国民党）が北方の軍閥政権を攻撃

○ 国民党の国民政府（蔣介石）

1926年 北伐：北京の軍閥政権を打倒するための軍事行動を開始して北進

1927年4月 上海クーデタ：蔣介石が共産党を弾圧→国共対立（1927-37年）

- ・ 国民政府の首都を南京とする

○ 北京の軍閥政権（奉天派軍閥の張作霖）←日本の支援を受ける

○ 1928年の動向

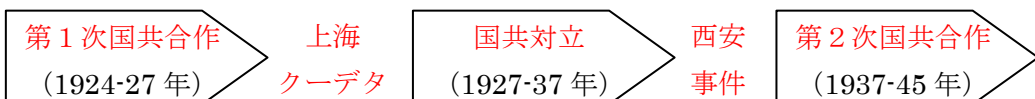
〔日本の田中義一内閣〕 山東出兵（北伐を妨害するため国民政府軍と戦闘）

〔関東軍（日本陸軍）〕 張作霖を爆殺、満州占領を試みるが失敗

〔張学良（張作霖の子）〕 国民政府に合流→国民政府による統一完成（北伐終了）

○ 共産党

1931年 中華ソヴィエト共和国臨時政府（江西省瑞金）：毛沢東が主席



108. 朝鮮、東南アジア、モンゴル

⑦ 朝鮮の独立運動

1919年3月1日 **三・一独立運動** (万歳事件)

- ・ 「独立万歳」を叫ぶ大規模デモが広まる←日本の朝鮮総督府が鎮圧

⑧ 東南アジアの独立運動

○ ベトナム (フランス領)

1904年 **ファン・ボイ・チャウ**が維新会を組織

- ・ **ドンズー (東遊)** 運動：日本へ留学生を送って新しい学問を学ばせる

1925年 **ホー・チ・ミン**がベトナム青年革命同志会 (→1930年 **インドシナ共産党**へ発展) を組織

○ ビルマ [ミャンマー] (イギリス領)：**タキン党**の独立運動が活発化

○ フィリピン (スペイン領→アメリカ領)

1880年代 **ホセ・リサール**がスペインの植民地支配を言論で批判

1896年 フィリピン革命 (指導者**アギナルド**)

1898年 米西戦争 (アメリカ・スペイン戦争)：スペイン領からアメリカ領に

1899年 **フィリピン・アメリカ戦争**：アメリカ勝利、アギナルドは降服

1902年 アメリカのフィリピン統治が本格化→その後も農民反乱が相次ぐ

1935年 独立準備政府の成立：アメリカがフィリピン独立を準備

○ インドネシア (オランダ領)

1911年 **イスラーム同盟** (サレカット・イスラーム) の結成→1920年代に衰退

1920年 インドネシア共産党の結成→弾圧により^{かいめつ}壊滅

1927年 **インドネシア国民党**の結成 (党首**スカルノ**)：独立をめざす

⑨ モンゴルの社会主義化

1924年 モンゴル人民革命党が中国から独立→**モンゴル人民共和国**の成立

※ ソ連に次ぐ2番目の社会主義国

109. インドの民族運動

⑩ **インドの民族運動**：イギリスからの自治・独立をめざすインド人の運動

1905年 **ベンガル分割令**：イギリスがヒンドゥー教徒とムスリムの対立をあおる

1) 民族運動の中心組織

○ **インド国民会議** (1885年成立)

1906年 カルカッタ大会 (指導者ティラク)

- ・ 英貨排斥、スワデーシ (国産品愛用)、スワラージ (自治獲得)、民族教育の4綱領を決議

○ **全インド・ムスリム連盟** (1906年成立)

- ・ ムスリム (イスラーム教徒) の団体、親英的

2) 民族運動の進展

1919年3月 **ローラット法**：イギリスがインド人の政治活動を弾圧

4月 アムリットサルでイギリス軍がインド人に発砲

12月 **インド統治法**：州の自治権を拡大

1920-22年 **非暴力・不服従運動** [第1次] (指導者**ガンディー**)

- ・ 非暴力によるイギリスへの抵抗
- ・ ムスリムの支持をも得て全インド的民族運動を推進

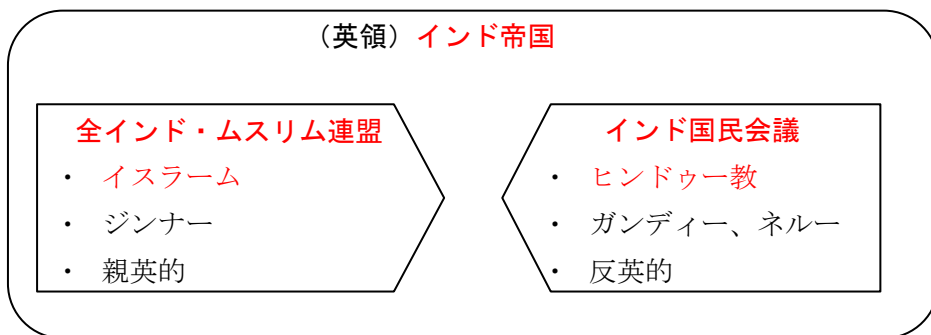
1929年 **インド国民会議**のラホール大会 (指導者**ネルー**)

- ・ 完全独立 (**プールナ・スワラージ**) をめざす

1930-34年 **非暴力・不服従運動** [第2次] (指導者ガンディー)

- ・ 「塩の行進」(1930年)

1935年 **新インド統治法**：州の自治権をさらに拡大



110. イラン、トルコ革命

⑪ イラン

○ カージャール朝 (1796-1925 年)

1907 年 英露協商：イギリスとロシアによる支配

1917 年 ロシア革命によりロシア軍撤退→イギリス支配が強まる

○ パフレヴィー朝 (1925-79 年)

1925 年 **レザー・ハーン**が国王 (シャー) を称して建国 (親英的)

1935 年 国名をペルシアからイランへと変更

⑫ トルコ革命 (1923 年)

オスマン帝国 (イスタンブル政府)	⇔	トルコ大国民会議 (アンカラ政府)
・スルタンが支配		・ ムスタファ・ケマル (のちの ケマル・アタテュルク) が組織
・第1次世界大戦で敗北		

1920 年 セーヴル条約 (オスマン帝国と連合国)

・領土の大幅縮小、不平等条約 (治外法権の承認)

1922 年 アンカラ政府がギリシアと戦い領土を回復

アンカラ政府がスルタン制を廃止→オスマン帝国の滅亡

1923 年 **ローザンヌ条約** (アンカラ政府と連合国)

・セーヴル条約の破棄、対等条約 (治外法権の廃止)

1923 年 **トルコ共和国**の成立 (首都アンカラ)

・大統領ケマル・アタテュルク

・近代化政策：政教分離、太陽暦、女性の参政権、ローマ字使用など

→脱イスラーム、西欧化



111. アラブ世界

⑬ アラブ世界

1) 第1次世界大戦中のイギリス外交

- トルコ人、アラブ人、ユダヤ人
 - ・ オスマン帝国はトルコ人が支配者、アラブ人は被支配者
→アラブ人はオスマン帝国からの独立運動を展開
 - ・ 第1次世界大戦中、イギリスは連合国、オスマン帝国は同盟国
→イギリスはアラブ人の独立運動を支援（オスマン帝国弱体化のため）
 - ・ パレスチナ（アラブ人が住む）に世界各地からユダヤ人が移住
→アラブ人（イスラームが多数）とユダヤ人（ユダヤ教）との対立

- イギリスの「2枚舌外交」：アラブ人とユダヤ人の双方を支援
 - 1915年 **フセイン・マクマホン協定**：イギリスがアラブ人の独立を約束
 - 1916年 **サイクス・ピコ協定**：英・仏・露がオスマン帝国領分割の秘密協定
 - 1917年 **バルフォア宣言**：イギリスがユダヤ人のパレスチナ復帰運動（シオニズム）を支援

2) 第1次世界大戦後のアラブ世界

- エジプト
 - ・ イギリスの保護国→独立（**エジプト王国** 1922-52年）
 - ・ イギリスが特権を保持（スエズ運河など）
- アラビア半島
 - ・ **イブン・サウード**がヒジャーズ・ネジド王国を建国
→アラビア半島を統一、**サウジアラビア王国**（1932年）に
- パレスチナ
 - ・ イギリスの委任統治→**イスラエル**（ユダヤ人国家 1948年）
- イラク
 - ・ イギリスの委任統治→独立（1932年）
- トランスヨルダン
 - ・ イギリスの委任統治→独立（ヨルダン王国 1946年）
- シリア
 - ・ フランスの委任統治→独立（レバノン 1941年、シリア 1946年）

112. 世界恐慌、ニューディール政策、ブロック経済

① 世界恐慌

- 1929年10月24日 「暗黒の木曜日」(ニューヨーク株価暴落) → 世界恐慌^{きょうこう}
- ・ 生産縮小、企業倒産、銀行破産、失業者増、物価下落、需要減退
 - ・ アメリカの不況が世界に波及

② 各国の恐慌対策

1) アメリカ：フランクリン・ローズヴェルト大統領（民主党、任1933-45年）

○ ニューディール政策

- ・ 全国産業復興法（NIRA）：政府が産業界を統制
- ・ 農業調整法（AAA）：農業生産の制限
- ・ テネシー川流域開発公社（TVA）：公共事業（ダム建設）
- ・ 金本位制から管理通貨制へ（1939年）→通貨供給量増
- ・ ワグナー法（1935年）：労働者の団結権、団体交渉権を保障
→CIO（産業別労働者組織委員会）の結成

○ 外交

- ・ ラテン・アメリカ諸国との善隣外交（キューバのプラット条項廃止など）
- ・ ソ連を承認（1933年）

2) イギリス：マクドナルド挙国一致内閣（1931-35年）

○ ブロック経済

1932年 オタワ連邦会議

- ・ イギリス連邦（イギリス、カナダ、南アフリカ、オーストラリアなど）のブロック（スターリング・ブロック、ポンド・ブロック）を形成
- ・ ブロック内貿易は低関税、ブロック外諸国からの輸入品には高関税
→イギリス製品の輸出先を確保、ブロック外諸国からの輸入を排除

3) フランス：フラン・ブロックを形成（フランス本国+植民地）

1935年 仏ソ相互援助条約

1936年 人民戦線内閣 ← 反ファシズム勢力が結集して結成

- ・ 社会党ブルム首班、社会党と共産党が協力

113. ファシズムの特徴、イタリアのファシズム

③ ファシズムの特徴

- ・ 1930年代のイタリア、ドイツ、日本の政治など
- ・ 議会制民主主義を否定→暴力的な独裁
- ・ 共産主義、労働運動を弾圧
- ・ 市民的自由や人権を無視する国家主義
- ・ 特定思想を強制、体制への反対を許さず
- ・ 人種や民族に優劣をつける

④ イタリアのファシズム

- **ファシスト党** (1919年成立) : 指導者**ムッソリーニ**

1922年 **ローマ進軍**

- ・ イタリア国王がムッソリーニを首相に任命→ムッソリーニ内閣の成立

1926年 ファシスト党の1党独裁体制が成立

アルバニアを保護国化

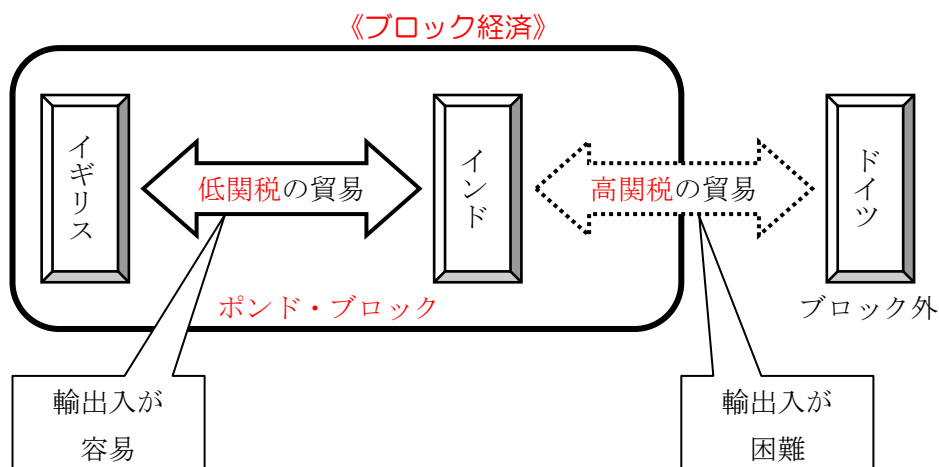
1929年 ラテラン条約

- ・ イタリア王国がローマ教皇庁と和解、ヴァチカン市国を承認

1935年 **エチオピアに侵攻** (1936年に征服) ←国際連盟の経済制裁を受ける

1936年 **ベルリン・ローマ^{すうじく}枢軸**

- ・ イタリアのファシスト党政権とナチス・ドイツとの提携



114. ナチス・ドイツ

⑤ ナチス・ドイツ（ドイツ第3帝国）

○ ナチ党（国民〔国家〕社会主義ドイツ労働者党、ナチス）

- ・ 党首ヒトラー
- ・ ヴェルサイユ条約破棄、ユダヤ人排斥、反共産主義、ドイツ民族の優秀さ、などを主張

1923年 ミュンヘン一揆、失敗→以後、合法路線（選挙による議席確保）へ

1929年 世界恐慌後、都市中間層・農民・財界の支持を集める

1932年 議会第1党に

1933年1月 ヒンデンブルク大統領がヒトラーを首相に任命（ヒトラー内閣）

2月 国会放火事件→共産党を弾圧

3月 **全権委任法**：ヒトラー内閣が独裁権もつ→ヴァイマル共和国の崩壊

6月 ナチスの1党独裁（他政党の活動禁止）

10月 国際連盟を脱退

1934年8月 ヒンデンブルク大統領の死→ヒトラーは総統になる

- ・ 高速道路（アウトバーン）建設などの公共事業、軍需生産増→失業者減
- ・ ユダヤ人迫害（強制収容所での虐殺など）
- ・ 秘密警察（ゲシュタポ）、親衛隊（SS）、突撃隊（SA）による反対者弾圧

1935年 徴兵制復活と**再軍備を宣言**

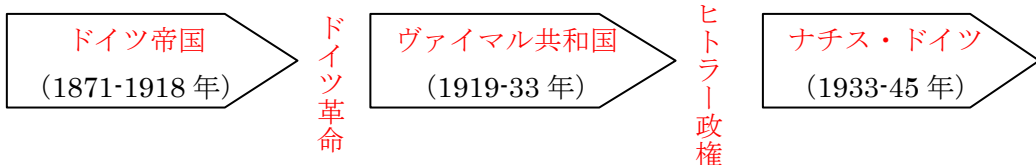
1936年 **ラインラントに進軍**、ロカルノ条約を破棄 →ヴェルサイユ体制の崩壊

○ イギリスの対応

1935年 ストレーズ戦線：英仏伊が独を非難

英独海軍協定：英は独の海軍軍拡を容認

1936年 独のラインラント進軍を黙認



115. 日本中国侵略

⑥ 日本中国侵略

1) 満州事変 (1931-32年) : 日本が中国東北地方 (「満州」) を軍事占領

- 1931年9月 **柳条湖事件** : 関東軍 (日本陸軍) が南満州鉄道を爆破
→これを口実に関東軍が軍事行動を開始し、中国東北地方を占領
- 1932年3月 関東軍が**満州国**の建国を宣言 : 執政 (後に皇帝) 溥儀
9月 日本政府が満州国を承認、日満議定書を結ぶ
- 1933年2月 **リットン調査団**の報告書 (日本の軍事行動は自衛権の発動ではない、
満州国は日本の傀儡国家である) を国際連盟が可決
3月 日本が国際連盟を脱退
- 1935年 関東軍が冀東防共自治政府を設置 (華北を国民政府から分離し支配)

2) 国共対立 (内戦) から国共合作 (抗日民族統一戦線) へ

- 国民党の国民政府 (蒋介石) : 抗日よりも共産党弾圧を優先
1935年 **通貨統一** : 4大銀行の銀行券を法定通貨とする
- 共産党 (毛沢東) : 国民党の弾圧を受ける
1934-36年 **長征** : 瑞金から延安へと大移動
1935年8月 **八・一宣言** : 国民党に抗日と内戦停止を呼びかける
- 国共合作の成立
1936年12月 **西安事件** : 張学良が蒋介石を監禁し抗日と内戦停止を迫る
1937年9月 **第2次国共合作**の成立 : 抗日民族統一戦線の実現

3) 日中戦争 (1937-45年) : 日本が中国本土に進軍→日中の全面戦争

- 1937年7月 **盧溝橋事件** : 北京で日中両軍が衝突→日本軍が南下
12月 南京虐殺事件 : 日本軍が国民政府の首都南京を占領
- ・ 南京占領から1ヶ月間、日本軍が多数の中国人を殺害
 - ・ 国民政府は、南京→武漢→**重慶**へと首都を遷す
- 1938年 日本政府は「**東亜新秩序**」の建設を戦争目的にかかげる (近衛声明)
- 1940年 日本政府は南京に汪兆銘の親日政権を建てる
- 日本軍が中国の重要都市を占領・攻撃
 - ・ 上海・南京・杭州を占領 (1937年)、徐州・広州・武漢を占領 (1938年)、首都重慶への空襲 (1939-40年)

116. ソ連の計画経済、スペイン内戦

⑦ 1930年代のソ連

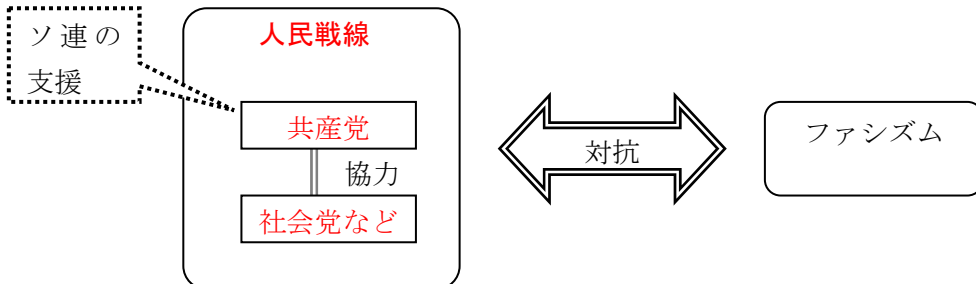
- 計画経済→世界恐慌に影響されず経済成長
 - 1928-32年 **第1次5カ年計画**：重工業、農業集団化（**コルホーズ**、**ソフホーズ**）
 - 1933-37年 第2次5カ年計画：軽工業
 - 1938-42年 第3次5カ年計画：軍需工業、ウラル・シベリア開発
- **スターリン体制**：スターリンの独裁政治、**個人崇拝**、**粛清**（反対派の処刑）
 - 1936年 **スターリン憲法**→憲法に規定された自由は守られず
- ファシズムへの対抗
 - 1935年 コミンテルンが反ファシズム人民戦線の方針をとる
 - ・ ファシズムに対抗するため、共産党が社会民主主義勢力と協力

⑧ スペイン内戦

反ファシズム	⇔	ファシズム
1936年 人民戦線 内閣 (社会党・共産党など)	内戦	ファランヘ党、 フランコ 将軍 (地主・軍部など)
<u>ソ連</u> <u>国際義勇兵</u> （ヘミングウェイ、 マルロー、オーウェルらの作家 も参加）		<u>ドイツ</u> 、 <u>イタリア</u> 1936年 ベルリン・ローマ枢軸 1937年 日独伊三国防共協定 1940年 日独伊三国同盟

- ・ ドイツ空軍がゲルニカを空爆
- ・ 英・仏は内戦に不干渉

1939年 フランコ勝利→フランコ政権（ファランヘ党1党独裁）の成立



～ 第2次世界大戦 ～

117. 第2次世界大戦の構造、ナチス・ドイツの侵略と開戦

① 第2次世界大戦（1939-45年）の構造

- 2陣営
 - ・ **連合国**：〔英、仏、米、ソ連、中国など〕 + 植民地
 - ・ **枢軸国**：〔独、伊、日など〕 + 植民地
- 第2次世界大戦を構成する4つの戦争（米は1941-45年、伊は1940-43年）

日中戦争	1937-45年	中国 vs. 日
ヨーロッパ・北アフリカ戦線	1939-45年	英仏米 vs. 独伊
独ソ戦	1941-45年	ソ連 vs. 独
太平洋戦争	1941-45年	米英 vs. 日

② ナチス・ドイツの侵略と開戦（1938-40年）

1938年3月 独が**オーストリア**を併合

9月 独がチェコスロヴァキアに**ズデーテン地方**の割譲を要求

ミュンヘン会談：英（首相チェンバレン）・仏・独・伊

- ・ ズデーテン地方を独領とすることを承認
- ・ 英仏の**宥和政策**（独への妥協）

1939年3月 独が**チェコスロヴァキア**を解体→独の支配

独がポーランドにダンツィヒ、ポーランド**回廊**を要求

8月23日 **独ソ不可侵条約**（東欧分割の秘密議定書付き）

8月25日 英仏がポーランドと相互援助条約

9月1日 独が**ポーランド**に侵攻

9月3日 英仏が独に宣戦布告→**第2次世界大戦**の開始

〔ソ連〕 ソ連・フィンランド戦争（1939-40年）→ソ連は国際連盟から除名
バルト3国、ルーマニアの一部（ベッサラビア）を併合

〔独〕 デンマーク、ノルウェー、ベルギー、オランダを占領（1940年4-5月）

〔仏〕 独軍が征服し仏は降伏（1940年6月）→親独**ヴィシー政権**の成立

仏国民の対独レジスタンス→**ド・ゴール**がロンドンで亡命政権を組織

〔英〕 **チャーチル**政権が成立（1940年5月）、独がロンドンを空襲（1940年夏）

〔日〕 北部仏印（フランス領インドシナ北部）に進駐（1940年9月）

・ **援蔣**ルート（米英が重慶の蔣介石を援助するルート）の遮断のため

〔伊〕 独の側で参戦（1940年6月）

118. 独ソ戦と太平洋戦争

③ 独ソ戦と太平洋戦争の展開 (1941-42年)

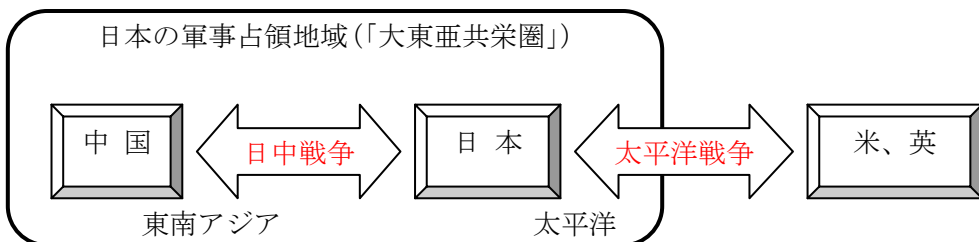
1) ヨーロッパ・北アフリカ

- 1941年3月 武器貸与法 (米) : 米が英に武器・物資を援助
(独ソ戦開始後、米はソ連にも援助)
- 6月 **独ソ戦**の開始 : 独・伊などがソ連に侵攻→ソ連の死者多数
- 8月 **大西洋憲章** : F・ローズヴェルト (米)、チャーチル (英) の戦後
構想8原則
- 11月 エル・アラメインの戦い (北アフリカ戦線) →英が独を破る
- 1943年2月 **スターリングラードの戦い** (独ソ戦) →ソ連が独を破る

2) アジア・太平洋

- 1941年4月 **日ソ中立条約** : 日は北進論をすて南進論をとる
- 7月 日が南部仏印 (フランス領インドシナ南部) に進駐
→米が日への石油輸出禁止
→A (米) B (英) C (中) D (オランダ) 包囲網の形成
- 12月 日が**真珠湾** (米基地) を奇襲、マレー半島 (英領) に上陸
→**太平洋戦争**の開始 : 米英 vs. 日 (東条内閣)
- 1942年前半 「**大東亜共栄圏**」が最大規模に
- ・ 日の軍事占領地域 (台湾、朝鮮、「満州」、中国、ベトナム、マレー半島、インドネシア、フィリピン、ビルマ [ミャンマー]、太平洋諸島など)
 - ・ 占領地域での日本語教育、皇民化 (天皇崇拜・神社参拝)、強制労働
 - ・ 朝鮮人の「創氏改名」、強制連行、徴兵
- 1942年6月 **ミッドウェーの海戦** (太平洋戦線) →米が日を破る
- 1943年2月 米がガダルカナル島を占領→「大東亜共栄圏」は縮小へ

※ 1942-43年、連合軍の優位が確定



119. 連合国の勝利

④ 連合国の勝利 (1943-45年)

1943年7月 伊、ムッソリーニ政権が倒れる

9月 米英がイタリア半島上陸→伊 (バドリオ政府) が無条件降伏

11月 **カイロ宣言**

- ・ 米 (ローズヴェルト)、英 (チャーチル)、中 (蔣介石)
- ・ 対日処理 (日の植民地放棄など)

11-12月 **テヘラン会談**

- ・ 米 (ローズヴェルト)、英 (チャーチル)、ソ連 (スターリン)
- ・ 米英軍の北フランス上陸作戦を決定

1944年6月 米英軍が**ノルマンディー** (北フランス) に上陸し東進

→パリ解放、フランスにド・ゴールの臨時政府 (8月)

7月 米がサイパン島を占領→米がサイパン島基地から日へ空襲
日、東条内閣が倒れる

10月 米がレイテ島を占領→米がフィリピン奪還 (1945年2月)

1945年2月 **ヤルタ協定**

- ・ 米 (ローズヴェルト)、英 (チャーチル)、ソ連 (スターリン)
- ・ 対独処理
- ・ ソ連の対日参戦 (独降伏から2~3ヶ月後→8月8日 参戦)

3月 米が東京・大阪などに大空襲

4月 米が沖縄に上陸 (**沖縄戦**)

ソ連がベルリンに入城、ヒトラーは自殺

5月7日 独が無条件降伏

8月2日 **ポツダム宣言**

- ・ 米 (トルーマン)、英 (アトリー)、ソ連 (スターリン)
- ・ 日に無条件降伏、軍国主義排除、基本的人権尊重を求める

6日 米が広島に**原爆**投下

9日 米が長崎に原爆投下

14日 日がポツダム宣言を受諾^{じゅたく}して無条件降伏

→第2次世界大戦の終了

第 14 章 冷戦とアジア・アフリカの独立

～ 東西冷戦と第3世界 ～

120. 国際連合、冷戦

① 国際連合 (United Nations、UN)

○ 成立

1944年 8-10月 ダンバートン・オークス会議：国際連合憲章の原案

1945年 4-6月 **サンフランシスコ会議**：国際連合憲章の採択

10月 **国際連合**の発足（原加盟 51ヶ国）

○ 機構（本部 ニューヨーク）

・ **総会**：全加盟国、多数決制

・ **安全保障理事会**：常任理事国（英・米・仏・ソ連・中の5ヶ国、**拒否権**）
非常任理事国（10ヶ国）

・ ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）、ILO（国際労働機関）、
WTO（世界保健機関）、ユニセフ（国連児童基金）などの機関

② ブレトン・ウッズ体制（旧 IMF・GATT 体制） ～1973年

・ ブロック経済への反省から、自由貿易をすすめる

1944年 ブレトン・ウッズ協定：次の1)2)3)の設立に合意

1) IMF（国際通貨基金）〔1945年〕：固定為替相場（金1オンス=35ドル）

2) IBRD（国際復興開発銀行、世界銀行）〔1945年〕：経済復興、長期融資

3) GATT（関税と貿易に関する一般協定）〔1947年〕：自由貿易（関税引下

→WTO（世界貿易機関）〔1995年〕に発展

③ **冷戦**：資本主義（西側、米中心）と社会主義（東側、ソ連中心）の対立

○ 西側（米、西欧）

1947年 **トルーマン・ドクトリン**：米がギリシア、トルコを支援

1947年 **マーシャル・プラン**（ヨーロッパ経済復興援助計画）：米が経済援助

1949年 **北大西洋条約機構（NATO）**：北米・西欧の軍事同盟

○ 東側（ソ連、東欧）

1947年 **コミンフォルム**（共産党情報局）：各国共産党の情報交換機関

1949年 **コメコン**（経済相互援助会議）：ソ連が経済援助

1955年 **ワルシャワ条約機構**：ソ連・東欧の軍事同盟

121. ヨーロッパの東西分断

④ ヨーロッパの東西分断

1946年 チャーチル「鉄のカーテン」演説：冷戦によるヨーロッパ東西分断

1) ドイツ分断

1945年 連合国4国で分割占領

米英仏の管理地区 ドイツ西部、ベルリン西部

ソ連の管理地区 ドイツ東部、ベルリン東部

1948年 西ドイツで通貨改革→ソ連がベルリン封鎖

1949年 ドイツ連邦共和国 (首都 ボン) : [西] 資本主義、アデナウアー首相

ドイツ民主共和国 (首都 東ベルリン) : [東] 社会主義

2) 西ヨーロッパ

○ イギリス

1945-51年 アトリー労働党内閣

1949年 アイルランド共和国 (イギリス連邦から離脱)

1964-70年、74-76年 ウィルソン労働党内閣

○ フランス

1946-58年 第4共和政

1958年 ~ 第5共和政 : ド・ゴール大統領 (任 1959-69年)

・ アルジェリア独立承認、核保有、中国承認など独自外交

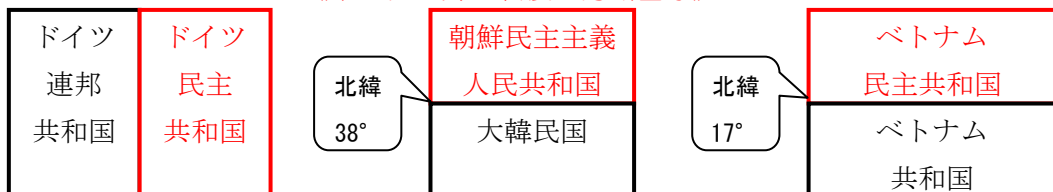
3) 東ヨーロッパ

○ 人民民主主義 : ソ連型社会主義、共産党政権、ソ連の支援

・ ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、ユーゴスラヴィア、アルバニアで成立

・ ユーゴスラヴィア (指導者ティトー) はソ連から自立的な姿勢
→コミンフォルムから除名される (1948年)

《第2次世界大戦後の分断国家》



122. 中華人民共和国の成立、朝鮮戦争、反共軍事同盟

⑤ 中華人民共和国

1) 成立

1946-49年 共産党（毛沢東）vs. 国民党（蔣介石）の内戦

1949年 国民党は台湾にのこられる（中華民国政府）

共産党が中華人民共和国の成立を宣言（主席 毛沢東、首相 周恩来）

- ・ 米は台湾（中華民国政府）を支持し中華人民共和国と対立
- ・ ソ連は中華人民共和国を支援（1950年 中ソ友好同盟相互援助条約）

2) 周辺諸国との対立

- 中ソ対立（1960年～）←中国がソ連の平和共存路線を批判
 - ・ ソ連の中国への経済援助停止、両国の公開論争、国境での軍事衝突
- チベット問題（中国のチベット自治区）
 - ・ チベットで反中国反乱←中国が鎮圧（1959年）
 - ・ チベット指導者ダライ・ラマがインドへ亡命→インドと中国との軍事衝突

⑥ 朝鮮戦争

1945年 米ソが朝鮮半島を分割占領（1948年 独立）

- ・ ソ連の管理地区（北緯 38 度線以北）→朝鮮民主主義人民共和国（金日成）
- ・ 米の管理地区（北緯 38 度線以南）→大韓民国（李承晩）

1950-53年 朝鮮戦争

朝鮮民主主義人民共和国	⇔	大韓民国
<u>中華人民共和国の「人民義勇軍」が支援</u>	戦争	<u>米中心の「国連軍」が支援</u>

1953年 休戦→北緯 38 度線で南北分断

⑦ 反共軍事同盟：米が共産主義に対抗するため結成

- ・ NATO（北大西洋条約機構、1949年～）：北米・西ヨーロッパ
- ・ 日米安全保障条約（1951、60年改定～）：米・日
- ・ ANZAS（太平洋安全保障条約、1951年～）：米・オーストラリア・ニュージーランド
- ・ SEATO（東南アジア条約機構、1954-77年）
- ・ METO（バグダード条約機構、1955年）→CENTO（中央条約機構、1959-79年）

123. インドシナ戦争、インドとパキスタン

⑧ インドシナ戦争

- 1930年 **ホー・チ・ミン**が**インドシナ共産党**を結成
1941年 ホー・チ・ミンが**ベトミン**（ベトナム独立同盟）を組織
1945年 ホー・チ・ミンが**ベトナム民主共和国**の独立を宣言
→フランスはベトナム民主共和国を承認せず
1946-54年 **インドシナ戦争**：フランス〔負〕 vs. ベトナム民主共和国〔勝〕
1954年 ディエンビエンフーの戦いでフランス敗北
→**ジュネーヴ休戦協定**（フランス軍撤退、ベトナムの南北分断）

北緯 17 度線以北 ベトナム民主共和国（共産党政権）

北緯 17 度線以南 ベトナム国（バオ・ダイ王、フランスが 1949 年に建国）

⑨ インドとパキスタン

1) 分離独立

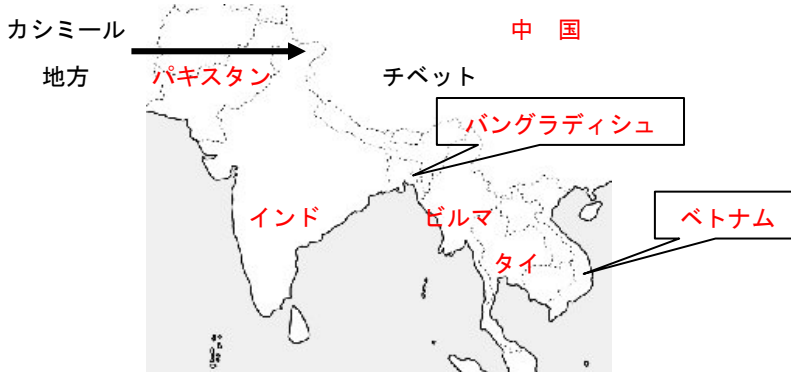
- 1877-1947年（イギリス領）インド帝国
・ 全インド・ムスリム連盟：イスラーム（ジンナーはムスリムの分離を主張）
・ 国民会議：ヒन्दゥー教（ガンディーはインドの統一を主張）
1947年 **インド連邦**（ヒन्दゥー教）と**パキスタン**（イスラーム）が分離独立

2) 両国の対立

- 1948、65、71年 インド・パキスタン戦争→カシミール地方の国境紛争
1971年 東パキスタンがバングラディッシュとなり独立
1998年 インドとパキスタンの両国が核実験

3) インド連邦の国民会議派政権

- ・ 首相**ネルー**（任 1947-64）：憲法を發布（1950年）
- ・ 首相**インディラ・ガンディー**（任 1966-77、80-84年）：ネルーの娘
- ・ 首相**ラジブ・ガンディー**（任 1984-89年）：インディラの長男



124. 中東戦争

⑩ 中東戦争

1) イスラエル建国と第1次中東戦争

1945年 アラブ7カ国（イスラーム）がアラブ諸国連盟を結成

1948年 ユダヤ人（ユダヤ教）がイスラエルをパレスチナに建国

1948-49年 第1次中東戦争〔パレスチナ戦争〕

- ・ イスラエル vs. アラブ諸国連盟（イスラエル建国に反対）
- ・ イスラエルは独立を保持し領土拡大
- ・ 多数のアラブ人がパレスチナから追放され難民に（パレスチナ人）

2) エジプト革命と第2次中東戦争

1952年 エジプト革命：ナギブ、ナセルらが王政打倒→共和国成立（1953年）

1956年 ナセル大統領（エジプト）がスエズ運河の国有化を宣言

1956-57年 第2次中東戦争〔スエズ戦争〕

- ・ イスラエル、イギリス、フランス vs. エジプト
- ・ イスラエル、イギリス、フランスは国際世論の非難を受けて撤退

3) PLO 設立と第3次中東戦争

1964年 PLO（パレスチナ解放機構）の設立：アラファト議長（1969年就任）

- ・ パレスチナ人のパレスチナ復帰をめざしイスラエルと対決

1967年 第3次中東戦争

- ・ イスラエルが領土を大幅に拡大（シナイ半島、ヨルダン川西岸、ガザ、ゴラン高原を占領）

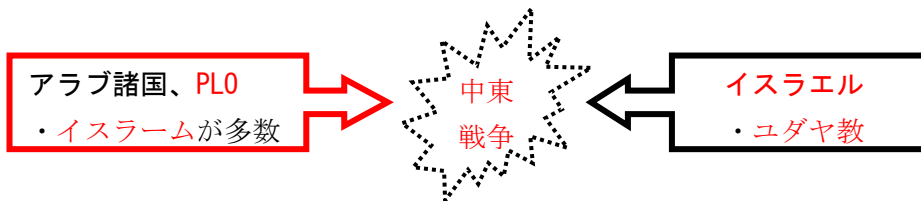
4) 石油危機と第4次中東戦争

1973年 第4次中東戦争

- ・ アラブ側（エジプト、シリア）が領土奪還を試みるが失敗
- ・ アラブ側の石油戦略→先進工業国での第1次石油危機

OAPEC（アラブ石油輸出国機構）：親イスラエル諸国への石油輸出制限

OPEC（石油輸出国機構）：原油価格を4倍に引き上げ



125. ソ連の「雪どけ」と東ヨーロッパ、キューバ危機

⑪ ソ連の「雪どけ」と東ヨーロッパ

1) ソ連のフルシチョフ第1書記

- ・ **スターリン批判** (1956年) : スターリン個人崇拜・不法処刑などを批判
- ・ 「**雪どけ**」 : 資本主義国との平和共存・緊張緩和
- ・ 中国がソ連の平和共存路線を批判→**中ソ対立** (1960年代)

2) 東ヨーロッパ諸国の自由化の動き

- ・ ポーランド : ゴムウカの自由化 (1956年)
- ・ ハンガリー : 民衆蜂起、ソ連軍介入、自由化をめざすナジ・イムレ首相を処刑 (1956年 ハンガリー事件)
- ・ アルバニア : ソ連と対立、中国に接近 (1960年代~)
- ・ ルーマニア : ソ連から距離を置く自主外交 (1960年代~)
- ・ 東ドイツ : **ベルリンの壁**により東西ベルリンの交通遮断 (1961年)
- ・ チェコスロヴァキア : ドプチェクの自由化 (1968年 プラハの春) ←ソ連介入

⑫ キューバ危機

1959年 **キューバ革命** (指導者**カストロ**) : 親米バティスタ政権を倒す

1961年 米がキューバと断交

キューバが社会主義を宣言しソ連に接近

1962年 **キューバ危機**

- ・ 米 (ケネディ) がソ連 (フルシチョフ) にキューバのミサイル基地撤去を要求しキューバ海域を封鎖→米ソの軍事衝突の危機
- ・ ソ連がミサイル基地の撤去を発表し戦争回避

1963年 米ソの直通回線 (ホットライン) の設置



126. 第3世界、アフリカ独立、ラテンアメリカ諸国

⑬ 第3世界の成長

- ・ 第3世界：アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどをさす
- ・ 非同盟主義：米陣営、ソ連陣営のどちらの軍事同盟にも加わらないこと

1954年 ネルー（インド）、周恩来（中国）の**平和5原則**

- ・ 領土主権の尊重、不侵略、不干涉、平等互惠、平和共存

1955年 **アジア・アフリカ会議**（バンドン会議）

- ・ 平和10原則（平和共存、反植民地主義など）、29カ国

1961年 **非同盟諸国首脳会議**（第1回 ベオグラード）

- ・ ユーゴスラヴィア（ティトー）、インド（ネルー）、エジプト（ナセル）、インドネシア（スカルノ）など25カ国

⑭ アフリカ諸国の独立

1957年 **ガーナ**の独立（指導者エンクルマ）：初の黒人共和国

1960年 **アフリカの年**：17カ国が独立

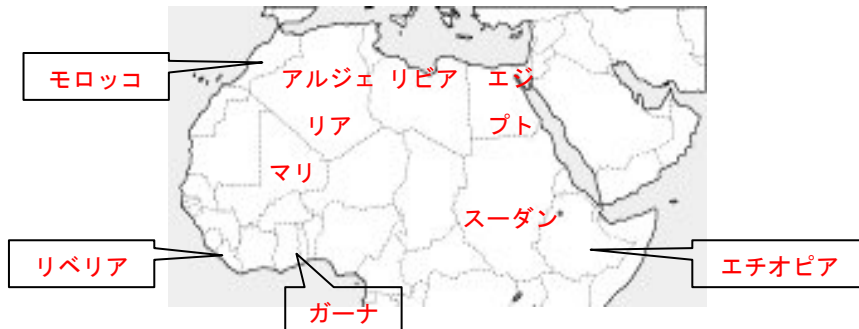
1962年 **アルジェリア**の独立：民族解放戦線（FLN）の運動
フランス（ド・ゴール政権）から独立

1963年 **アフリカ統一機構**（OAU）：30カ国、アフリカの連帯
→2002年 アフリカ連合（AU）に発展

⑮ ラテンアメリカ諸国

1948年 **米州機構**（OAS）：米・ラテンアメリカ諸国

- アルゼンチン：ペロン大統領の社会改革（1946年～）
- グアテマラ：アルベンス政権の土地改革（1951年～）
米が支援する軍部クーデタにより崩壊（1954年）
- キューバ：**キューバ革命**（1959年）により社会主義化（**カストロ**政権）



127. ベトナム戦争、東南アジア諸国

⑩ ベトナム戦争

1) ベトナムの南北分断

〔北〕 ベトナム民主共和国 (1945年) : 共産党、ホー・チ・ミン

〔南〕 ベトナム国 (1949年) : 仏の支援、バオ・ダイ

ベトナム共和国 (1955年) : 米の支援、ゴ・ディン・ディエム

南ベトナム解放民族戦線 (1960年) : 反米・反ディエム、北ベトナムによる南北統一をめざす

2) ベトナム戦争の展開と終結

ベトナム民主共和国 = 南ベトナム解放民族戦線 vs. ベトナム共和国 = 米

1963年 米の軍事介入が本格化

1965年 米が北ベトナムへの爆撃 (**北爆**) を開始 → 米国内外での反戦運動

1968年 米が北爆を停止

1973年 **ベトナム (パリ) 和平協定** : 米軍がベトナムから撤退

1976年 北ベトナムが南北を統一しベトナム社会主義共和国 が成立

1986年 ~ **ドイモイ** (^{ミッシン}刷新) 政策のもと市場経済化すすむ

⑪ 東南アジア諸国

○ フィリピン : 1946年 米より独立

・ マルコスの独裁 → 1986年より民主選挙

○ インドネシア : 1949年 オランダより独立

・ **スカルノ** : 初代大統領、共産党と協力、**9.30事件** (1965年 軍部クーデタ) により失脚

・ **スハルト** : 2代大統領、軍部独裁、1998年 失脚 (以後、民主選挙)

○ カンボジア : 1954年 仏より独立

・ **シハヌーク** 国王 → 親米政権 → 赤色クメール政権 (親中国、**ポル・ポト**派) →
ヘン・サムリン政権 (親ベトナム) → 1993年より民主選挙

○ ラオス : 1953年 仏より独立

・ 右派政権 → ラオス人民民主共和国 (1975年 ~、左派パテト・ラオ)

○ マレーシア連邦 : 英より独立、1963年 成立

○ シンガポール : 1965年 マレーシア連邦から中国系住民が分離

○ **東南アジア諸国連合 (ASEAN)** : 1967年 成立

第 15 章 現代の世界

～ 1970 年代以降の世界 ～

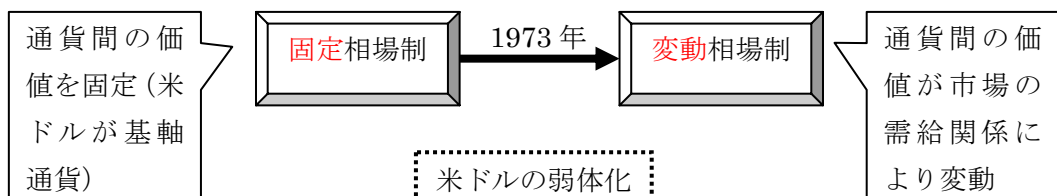
128. アメリカ合衆国、核軍縮

① アメリカ合衆国：第 2 次世界大戦後の大統領

- [33 代] **トルーマン** (民、1945-53 年)：赤狩り (マッカーシズム) (1950 年代初)
- [34 代] **アイゼンハウアー** (共、1953-61 年)
- [35 代] **ケネディ** (民、1961-63 年)：キューバ危機 (1962 年)
- [36 代] **ジョンソン** (民、1963-69 年)：ベトナム戦争に介入 (1963 年～)
 - ・ 公民権法 (1964 年 人種差別禁止) ← **キング牧師**らの公民権運動
- [37 代] **ニクソン** (共、1969-74 年)：中国訪問 (1972 年)
 - ・ ドル・ショック (1971 年、金・ドル^{だかん}兌換停止) → 変動相場制 (1973 年)
- [38 代] フォード (共、1974-77 年)
- [39 代] **カーター** (民、1977-81 年)：エジプト・イスラエル平和条約 (1979 年)
- [40 代] **レーガン** (共、1981-89 年)：ソ連 (ゴルバチョフ) との軍縮 (1985 年～)
- [41 代] G.H.ブッシュ (共、1989-93 年)：湾岸戦争 (1991 年)
- [42 代] クリントン (民、1993-2001 年)
- [43 代] G.W.ブッシュ (共、2001-年)：イラク戦争 (2003 年)

② 核軍縮

- 1950 年 **パグウォッシュ会議**：科学者が核実験禁止・核兵器根絶を求める
- 1955 年 原水爆禁止世界大会 (第 1 回、広島)
- 1963 年 **部分的核実験禁止条約 (PTBT)**：地下核実験は容認
- 1968 年 **核不拡散条約 (NPT)**：核保有国を米ソ英仏中の 5 カ国に限定
- 1972、79 年 **戦略兵器制限交渉 (SALT)**：長距離ミサイルの制限
- 1987 年 **INF (中距離核戦力) 全廃条約**：中距離ミサイルの全廃
- 1991、96 年 **戦略兵器削減条約 (START)**：長距離ミサイルの削減
- 1996 年 包括的核実験禁止条約 (CTBT)：地下核実験も禁止 (未発効)



129. 中華人民共和国の発展、朝鮮半島

③ 中華人民共和国の発展

1) 内政

- 1958年 「**大躍進**」(大規模な建設運動)、**人民公社**(農村に設立)
- 1966-76年 **プロレタリア文化大革命**: 文革派 vs. 実権派の権力闘争
- ・ 文革派〔毛沢東、林彪〕: 学生らの紅衛兵を組織し実権派を攻撃
 - ・ 実権派(修正派、走資派)〔**劉少奇**、**鄧小平**〕: 権力から追われる
- 1976年 毛沢東の死、文革推進者(「四人組」)の逮捕→文革の終了
- 1977年 華国鋒が「**4つの現代化**」(工業・農業・国防・科学技術)を推進
- 1979年～ **鄧小平**が「**改革・開放**」(社会主義市場経済)を推進
- ・ 人民公社の解体、外国資本・技術の導入、国営企業の改革
- 1989年 **天安門事件**: 鄧小平が学生・労働者の民主化運動を弾圧
- 1997年 鄧小平の死、**江沢民**の指導体制

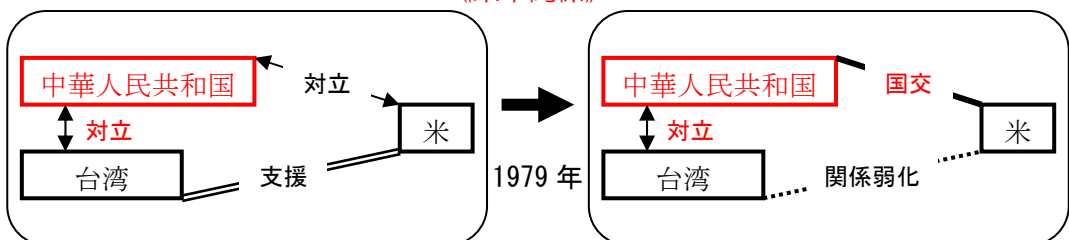
2) 外交

- 〔国連〕 国連総会が中華人民共和国を中国代表に(台湾国民政府を追放)(1971年)
- 〔日本〕 田中首相訪中、日中国交正常化(1972年)→**日中平和友好条約**(1978年)
- 〔米国〕 キッシンジャー大統領補佐官訪中(1971年)、**ニクソン大統領訪中**(1972年)
→米中国交正常化(1979年)

④ 朝鮮半島: 南北両国とも 1991年に国連加盟

- 朝鮮民主主義人民共和国
 - ・ **金日成**(1948年) → **金正日**(1994年)
- 大韓民国
 - ・ **李承晩**(1948年) → **朴正熙**(1961年) → **全斗煥**(1980年) → **盧泰愚**(1988年) → **金泳三**(1993年) → **金大中**(1998年) → **盧武鉉**(2003年)
 - ・ 朴正熙・全斗煥・盧泰愚は軍人出身、金泳三から文民統治

《米中関係》



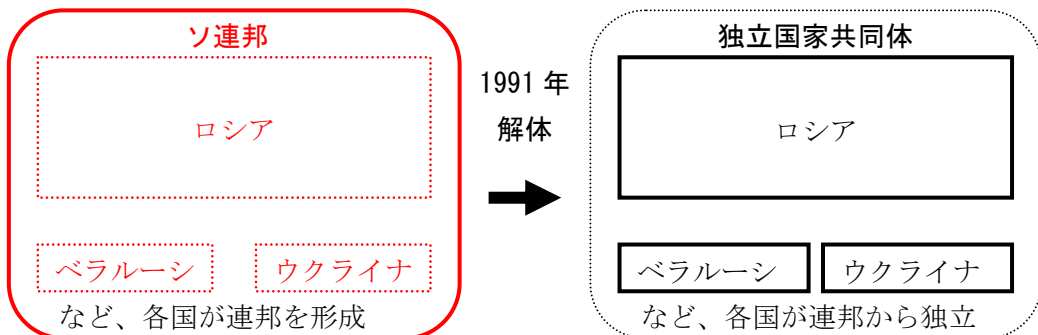
130. ソ連・東欧の社会主義体制の崩壊

⑤ ソ連邦の崩壊

- **ゴルバチョフ**時代 (1985-91 年)
 - ・ グラスノスチ (情報公開) : **チェルノブイリ原発事故** (1986 年) 以後進む
 - ・ ペレストロイカ (改革) : 複数候補者選挙、大統領制、市場経済の導入
 - ・ 新思考外交 : 米との軍縮、アフガニスタンから撤兵 (1989 年)
- ソ連邦の解体 (1991 年)
 - ・ ロシア、ウクライナ、ベラルーシなどがソ連邦から独立、ロシア (**エリツィン** 大統領) を中心に**独立国家共同体 (CIS)** を結成
 - ・ ソ連共産党の解散、ゴルバチョフ辞任

⑥ 東欧社会主義の崩壊

- ドイツ統一
 - 1989 年 **ベルリンの壁が開放**
 - 1990 年 西ドイツが東ドイツを吸収し東西統一
- 共産党 1 党支配の終焉 → 自由選挙・市場経済
 - ・ ハンガリー (1989 年)
 - ・ ルーマニア (1989 年) : チャウシェスク大統領処刑
 - ・ ポーランド (1989 年) : 自主管理労組「連帯」指導者ワレサが大統領に
 - ・ チェコスロヴァキア (1989 年) → 分離 [チェコ/スロヴァキア] (1993 年)
 - ・ ブルガリア (1990 年)
 - ・ ユーゴスラヴィア (1991 年) : 内戦 → クロアチア、スロヴェニアが分離
- コメコン (経済相互援助会議)・ワルシャワ条約機構の解消 (1991 年)



131. 地域統合、ヨーロッパ諸国

⑦ 地域統合

- 地域統合：関税同盟、資本・労働力の移動自由化、経済政策の調整、通貨統合

- ヨーロッパ統合
 - 1) **ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体** (ECSC) (1952年) ←シューマン・プラン
 - 2) **ヨーロッパ経済共同体** (EEC) (1958年)
 - 3) ヨーロッパ原子力共同体 (EURATOM) (1958年)
 - 4) ヨーロッパ自由貿易連合 (EFTA) (1960年)：2)に対抗、政治統合を望まず
 - 5) **ヨーロッパ共同体 (EC)** (1967年)：1)2)3)が統合
↓ **マーストリヒト条約** (1992年)
 - 6) **ヨーロッパ連合 (EU)** (1993年)：5)が発展、統一通貨ユーロ

- その他の地域統合への動き
 - ・ **北米自由貿易協定 (NAFTA)** (1994年)：米、カナダ、メキシコ
 - ・ アジア太平洋経済協力会議 (APEC) (1989年)：環太平洋諸国

⑧ ヨーロッパ諸国

- 西ドイツ
 - ・ アデナウアー (1949年) →キージンガー (1966年) →ブランド (1969年)
→コール (1982年)
 - ・ **ブランド**の東方政策 (東欧諸国との関係改善、1970年代)
 - ・ コールが東西ドイツ統一 (1990年)

- イギリス
 - ・ アトリー (1945年) →ウィルソン (1964年) →サッチャー (1979年)
 - ・ ヨーロッパ自由貿易連合 (EFTA) (1960年 結成、1973年 脱退)
 - ・ サッチャーがフォークランド紛争 (1982年 対アルゼンチン戦争)

- ポルトガル：独裁政権倒れる (1974年) →民主化 (1976年)
- スペイン：フランコの死、ブルボン朝復活 (1975年) →民主化 (1978年)
- ギリシア：軍事政権が倒れる (1974年) →民主化 (1975年)

132. パレスチナ和平、西アジア・アフリカ・ラテンアメリカ

⑨ パレスチナ和平

○ エジプトとイスラエル

1979年 **エジプト・イスラエル平和条約**→両国が国交樹立（1980年）

- ・ エジプトがイスラエルを承認、イスラエルはエジプトにシナイ半島を返還
- ・ エジプトのサダト大統領は暗殺（1981年）→後継はムバラク大統領

○ PLO（パレスチナ解放機構）とイスラエル

1993年 PLO（アラファト議長）とイスラエル（ラビン首相）が相互承認

パレスチナ暫定自治協定：イスラエル占領地域でのパレスチナ人自治

⑩ 西アジア諸国

○ イラン

1979年 **イラン革命**

- ・ パフレヴィー朝（親米政権、近代化政策）倒れる、パフレヴィー2世亡命
- ・ **イラン・イスラーム共和国**が成立（宗教指導者**ホメイニ**）：イスラーム国家

○ イラク

1979年 **サダム・フセイン**（バース党）が大統領に

1980-88年 **イラン・イラク戦争**：国境紛争・イラン革命が原因

1990年 クウェートに侵攻→**湾岸戦争**（米 vs.イラク）→クウェートから撤退

2003年 **イラク戦争**（米がイラクに侵攻）→フセイン政権倒れる

⑪ アフリカ、ラテンアメリカ諸国

○ アフリカ

- ・ 南アフリカ共和国：人種隔離政策（**アパルトヘイト**）の廃止（1991年）
黒人の**マンデラ**が大統領に（1994年）
- ・ ジンバブエ：白人支配のローデシアから独立（1980年）

○ ラテンアメリカ

- ・ チリ：ピノチェト軍事政権が国民投票で不信任（1988年）→民政へ
- ・ アルゼンチン：軍事政権が倒れ民政へ（1983年）

第 I 部

第 1 章 オリентと地中海世界

【古代オリент世界】

1. メソポタミア……………2
2. エジプト……………3
3. 東地中海世界……………4
4. オリントの統一……………5

【ギリシア世界】

5. エーゲ文明、暗黒時代……………6
6. 前古典期（ポリスの成立、貴族政から民主政へ）……………7
7. 古典期（ペルシア戦争、民主政の完成）……………8
8. ヘレニズム時代、イラン文明……………9
9. ギリシア文化、ヘレニズム文化……………10

【ローマ世界】

10. 王政ローマ、共和政ローマ(1)（～ポエニ戦争）……………11
11. 共和政ローマ(2)（地中海統一、内乱の1世紀）……………12
12. キリスト教、ローマ文化……………13
13. 帝政ローマ……………14

第 2 章 アジアの古代文明

【南アジアの古典文明】

14. インダス文明、ヴェーダ時代……………15
15. 仏教興起時代、マウリヤ朝の統一、クシャーナ朝……………16
16. グプタ朝……………17

【東南アジアの諸文明】

17. 東南アジア世界の形成……………18

【中国の古典文明】

18. 新石器文化、青銅器文化（殷・周）……………19
19. 春秋・戦国時代……………20
20. 秦、前漢……………21
21. 後漢、漢代の文化……………22

第3章 東アジア世界の展開

【北方民族と中国の分裂】

- 22. 魏晋南北朝時代……………23
- 23. 魏晋南北朝の社会と文化……………24

【東アジア文化圏】

- 24. 隋、唐(1) (高祖～則天武后) ……25
- 25. 唐(2) (玄宗～滅亡)、唐代の文化……………26
- 26. 中国の隣接諸国(1) (~13世紀) ……27
- 27. 五代十国、宋……………28
- 28. 北方諸勢力の活動……………29
- 29. 宋代の社会と文化……………30

第4章 内陸アジア世界

【遊牧民の生活と国家】

- 30. オアシス都市と遊牧国家……………31

【モンゴル民族の発展】

- 31. モンゴル帝国……………32
- 32. 元……………33

第5章 イスラーム世界

【イスラーム世界の成立】

- 33. ムハンマド時代、正統カリフ時代……………34
- 34. ウマイヤ朝、アッバース朝……………35

【イスラーム世界の発展】

- 35. イスラーム世界の分裂と発展……………36
- 36. 西方イスラーム世界……………37
- 37. 東方へのイスラーム拡大……………38
- 38. イスラームの社会と文化……………39

第6章 ヨーロッパ中世世界

【ヨーロッパ中世世界の成立】

- 39. ゲルマン民族の移動……………40
- 40. フランク王国の発展、ローマ・カトリック教会……………41
- 41. フランク王国の分裂、封建社会……………42

42. ノルマン人の侵入、スラヴ人と東ヨーロッパ	43
43. ビザンツ帝国	44

【ヨーロッパ中世世界の発展】

44. 教皇と皇帝の抗争（叙任権闘争）	45
45. 十字軍	46
46. 商業の復活、中世都市	47

【ヨーロッパ中世世界の崩壊】

47. 封建社会の衰退	48
48. イギリス・フランスの王権強化	49
49. ドイツ・イタリアの分裂、イベリア半島、北欧	50
50. 西ヨーロッパの中世文化	51

第7章 諸地域世界の交流

51. 草原の道、オアシスの道、海の道	52
---------------------	----

第II部

第8章 世界諸地域の繁栄

【中国の帝国】

52. 明	53
53. 清	54
54. 明清代の社会と文化	55
55. 中国の隣接諸国(2)（14世紀～）	56

【イスラーム国家の発展】

56. ティムール朝、オスマン帝国	57
57. サファヴィー朝、ムガル帝国	58

【アフリカとアメリカの文明の繁栄】

58. アフリカ大陸、アメリカ大陸	59
-------------------	----

第9章 近代ヨーロッパ

【ヨーロッパ近代のはじまり】

59. 大航海時代	60
60. アメリカ大陸の植民地化、大西洋三角貿易	61

61. イタリア・ルネサンス	62
62. イタリア以外のルネサンス、科学と技術	63
63. ドイツの宗教改革	64
64. 宗教改革の広がり、対抗宗教改革	65

【17～18 世紀の展開】

65. スペインの絶対王政、オランダの独立	66
66. イギリスの絶対王政、ドイツの三十年戦争	67
67. イギリスの市民革命	68
68. フランスの絶対王政	69
69. プロイセンとオーストリアの絶対王政	70
70. ロシアの絶対王政、ポーランド分割	71
71. ヨーロッパ諸国の海外進出	72
72. 17～18 世紀のヨーロッパ文化	73

第 10 章 欧米における近代国家の成長

【市民革命と産業革命】

73. アメリカ独立革命	74
74. フランス革命(1) (国民議会、立法議会)	75
75. フランス革命(2) (国民公会、総裁政府)	76
76. ナポレオンの帝国	77
77. イギリスの産業革命	78
78. 労働運動と社会主義	79

【19 世紀の展開】

79. ウィーン体制	80
80. 19 世紀のフランス	81
81. 19 世紀のイギリス	82
82. 19 世紀のイタリア	83
83. 19 世紀のドイツ	84
84. 19 世紀のロシア	85
85. 19 世紀のアメリカ合衆国	86
86. 19 世紀の欧米文化	87

第 11 章 アジア諸地域の動揺

【西アジア、南アジア、東南アジア】

87. オスマン帝国の衰退、カージャール朝イラン……………89
88. イギリス支配下のインド……………90
89. 東南アジア・中央アジア……………91

【東アジア】

90. アヘン戦争……………92
91. アロー戦争、太平天国の乱、同治の中興……………93
92. 明治維新、日清戦争、ロシアの東進……………94

第 12 章 帝国主義とアジアの民族運動

【19 世紀末～20 世紀初の帝国主義国】

93. 帝国主義、イギリス……………95
94. フランス、ドイツ、ロシア……………96
95. アメリカ合衆国、メキシコ革命……………97

【植民地化と民族運動】

96. アフリカ分割、太平洋諸地域の分割……………98
97. 中国分割、変法運動、義和団事件……………99
98. 日露戦争、日本の韓国併合……………100
99. 辛亥革命……………101

第 III 部

第 13 章 2つの世界大戦

【第 1 次世界大戦とロシア革命】

100. 第 1 次世界大戦の開始……………102
101. ドイツ革命と第 1 次世界大戦の終結……………103
102. ロシア革命……………104

【大戦間の世界】

103. ヴェルサイユ体制、国際連盟……………105
104. 革命後のソ連……………106
105. アメリカ合衆国とワシントン体制……………107
106. イギリス、フランス、ドイツ（1920 年代の国際協調）……………108

107. 中国の国民党と共産党	109
108. 朝鮮、東南アジア、モンゴル	110
109. インドの民族運動	111
110. イラン、トルコ革命	112
111. アラブ世界	113

【世界恐慌とファシズム】

112. 世界恐慌、ニューディール政策、ブロック経済	114
113. ファシズムの特徴、イタリアのファシズム	115
114. ナチス・ドイツ	116
115. 日本の中国侵略	117
116. ソ連の計画経済、スペイン内戦	118

【第2次世界大戦】

117. 第2次世界大戦の構造、ナチス・ドイツの侵略と開戦	119
118. 独ソ戦と太平洋戦争	120
119. 連合国の勝利	121

第14章 冷戦とアジア・アフリカの独立

【東西冷戦と第3世界】

120. 国際連合、冷戦	122
121. ヨーロッパの東西分断	123
122. 中華人民共和国の成立、朝鮮戦争、反共軍事同盟	124
123. インドシナ戦争、インドとパキスタン	125
124. 中東戦争	126
125. ソ連の「雪どけ」と東ヨーロッパ、キューバ危機	127
126. 第3世界、アフリカ独立、ラテンアメリカ諸国	128
127. ベトナム戦争、東南アジア諸国	129

第15章 現代の世界

【1970年代以降の世界】

128. アメリカ合衆国、核軍縮	130
129. 中華人民共和国の発展、朝鮮半島	131
130. ソ連・東欧の社会主義体制の崩壊	132
131. 地域統合、ヨーロッパ諸国	133
132. パレスチナ和平、西アジア・アフリカ・ラテンアメリカ	134